

平成 26 年度 文化庁委託事業

伝統文化親子教室

子供たちの意識・行動に関する調査

報告書

平成 27 年 3 月

近畿日本ツーリスト株式会社

平成 26 年度 文化庁委託事業

伝統文化親子教室

子供たちの意識・行動に関する調査

報告書

目 次

1. 調査の概要

(1) 調査の目的	1
(2) 調査対象者	1
(3) 調査の方法	1
(4) 調査項目	2
(5) 調査の期間	2
(6) 調査票回収状況	2
(7) 調査結果の集計	2
(8) 調査対象者のプロフィール	3
1) 子供のプロフィール	3
①子供の学年と性別	
②参加している「教室」の分野	
③参加前の経験の有無	
④参加年数（今年で何年目か）	
2) 保護者のプロフィール	6
①子供との続柄	
②子供の学年と性別	
③子供が参加している「教室」の分野	
④子供の参加年数	
⑤保護者の年齢	
3) 指導者のプロフィール	10
①指導者の年齢と性別	
②「教室」の分野	
③指導者の「教室」での役割	
④「教室」での指導経験年数	
4) 指導者＜放課後子供教室・土曜日の教育活動＞のプロフィール	13
①指導者＜放課後子供教室・土曜日の教育活動＞の年齢と性別	
②＜放課後子供教室・土曜日の教育活動＞の「教室」の分野	
③指導者＜放課後子供教室・土曜日の教育活動＞の「教室」での役割	
④＜放課後子供教室・土曜日の教育活動＞の「教室」での指導経験年数	

2. 参加についての全体的な評価

(1) 参加についての総合評価	17
1) 子供の評価	
2) 保護者の評価	
(2) 習っていることの意義	18
1) 子供の評価	
2) 保護者の評価	

(3) 継続への意欲・意向	20
1) 習い続けていくことについての子供の意欲	
2) 習い続けさせたいかについての保護者の意向	
3. 参加の動機・理由ときっかけ	
(1) 参加した子供の立場から	23
1) 参加のきっかけ	
2) 参加の動機	
(2) 参加させた保護者の立場から	26
1) 「教室」についての情報源	
2) 子供を参加させた理由	
4. 参加による子供の変化	
(1) 子供自身の認識	29
(2) 保護者の認識	32
(3) 指導者の認識	36
(4) 指導者＜放課後子供教室・土曜日の教育活動＞の認識	39
(5) 子供自身からみた変化と保護者、指導者からみた変化	42
5. 「伝統文化親子教室」事業の意義	
(1) 保護者の立場から	44
1) 「伝統文化」についての保護者の考え	
2) 保護者からみた「伝統文化親子教室」事業の意義	
(2) 指導者の立場から	46
1) 指導者からみた「伝統文化親子教室」事業の社会における役割	
2) 指導者からみた「伝統文化親子教室」事業の意義	
(3) 指導者＜放課後子供教室・土曜日の教育活動＞の立場から	48
1) 指導者からみた＜放課後子供教室・土曜日の教育活動＞の社会における役割	
2) 指導者からみた＜放課後子供教室・土曜日の教育活動＞の意義	
3) 指導者からみた「伝統文化親子教室」事業と＜放課後子供教室・土曜日の教育活動＞の連携	
6. 付録	
○調査票及び単純集計結果	
①子供調査	54
②保護者調査	61
③指導者調査	68
④指導者調査＜放課後子供教室・土曜日の教育活動＞	75
7. 資料	
(1) 調査実施計画	82

1. 調査の概要

(1) 調査の目的

「伝統文化親子教室事業」は、「伝統文化・生活文化に関する活動を計画的・継続的に体験・修得できる機会を提供する取組に対して補助を行うことにより、伝統文化・生活文化の継承・発展と、子供達の豊かな人間性の涵養に資する」（平成26年度募集案内）ことを目的としている。

本調査は、この事業を通じて子供達が計画的・継続的に伝統文化を体験・修得したことで、子供達の伝統文化への意識や行動がどのように変化したかを調査し、この事業の実施成果を把握しようというものである。

(2) 調査対象者

本調査は、「伝統文化親子教室」（以下、「親子教室」あるいは「教室」）に通っている子供を対象とする調査（子供調査）、その保護者を対象とする調査（保護者調査）、「親子教室」の指導者を対象とする調査（指導者調査）からなっている。なお、「親子教室」の対象学年は、原則、小学校1年生から中学校3年生を対象としているが、本調査における調査の対象は、小学校4年生以上に限っている。

また、「放課後子供教室」及び「土曜日の教育活動」と連携した取組を実施している場合は、同様にその取組の指導者を対象とする調査（指導者調査＜放課後子供教室・土曜日の教育活動＞）を行った。

調査対象者の抽出は、「親子教室」の実施団体を基礎に行った。

基礎となる団体の抽出法は、以下の通りである。

【抽出の母体】平成26年度「伝統文化親子教室」実施団体のうち、事業の完了日が平成26年12月26日以降であり、事業の実施回数が（複数分野にまたがる場合は合計）5回以上、且つ小学4年生～中学3年生が参加する実施団体。

【抽出の方法】無作為抽出を基本としつつも、都道府県及び活動分野等が偏らないように調整。

【抽出団体数】250団体。

調査対象者は、上記の方法で抽出した実施団体から、更に抽出した。抽出法は、以下の通りである。

【子供調査】当該「教室」に参加している子供（小学4年生～中学3年生）から1つの「教室」10名までを、当該「教室」に一任して抽出。但し、抽出にあたっては、特定の学年や性別に集中しないように依頼。

【保護者調査】子供調査の対象となった子供の保護者（1団体当たり10名）を調査対象者として指定。

【指導者調査】当該「教室」の指導者から2名までを、当該「教室」に一任して抽出。

【指導者調査＜放課後子供教室・土曜日の教育活動＞】当該「教室」の指導者から2名までを、当該「教室」に一任して抽出。

(3) 調査の方法

調査の実施にあたっては、伝統文化親子教室事業事務局（以下「事務局」）から調査団体の代表者に調査票を送付し、3種類（「放課後子供教室」及び「土曜日の教育活動」と連携した取組を実施している場合は4種類）の調査の調査票の配布と回収を依頼した。『子供調査』に関しては、「教室」開催時に調査対象の子供に調査票を配布し、記入後に回収してもらった。『保護者調査』に関しては、子供を通して記入を依頼し、回収してもらった。『指導者調査』及び『指導者調査＜放課後子供教室・土曜日の教育活動＞』に関しては、各「教室」において指導者に記入してもらった。団体には、その後、3種類または4種類の調査票を取りまとめ、「伝

統文化親子教室 子供たちの意識・行動に関する調査」返却係（近畿日本ツーリストグループ 株式会社イベント&コンベンションハウス内）に送付してもらった。

なお、調査項目や調査方法は調査研究委員会を発足し、助言を仰いだ。

(4) 調査項目

『子供調査』においては、「教室」への参加の実態、参加の動機、「教室」に参加したことによる変化の認識、参加したことについての評価に関わる事柄など、全 15 問の質問を行っている。『保護者調査』では、子供を「教室」に参加させた理由や「教室」についての情報源、「教室」への参加によって子供がどのように変化したかについての認識、子供を「教室」に参加させたことについての評価、「教室」の事業についての評価など、全部で 16 問の質問を行っている。『指導者調査』にあつては、「教室」の所在地域の特性や開催場所・施設、参加している子供の人数や指導者の人数など、「教室」の実態に関わる質問、参加したことによる子供の変化に関わる質問、「教室」の役割やこの事業の意義などに関する質問など、全部で 15 問の質問を行っている。『指導者調査<放課後子供教室・土曜日の教育活動>』では、『指導者調査』とほぼ同内容の質問に加え、「伝統文化親子教室事業」が連携した結果の効果などに関する質問、全部で 16 問の質問を行っている。

なお、質問項目の全体については「資料」として付した「調査実施計画」を、質問の実際については「付録」の「調査票及び単純集計結果」を参照願いたい。

(5) 調査の期間

調査の期間は、以下の通り。

平成 26 年 12 月 26 日～平成 27 年 1 月 30 日

(6) 調査票回収状況

各調査の調査票配布・回収状況は、以下の通り。

表 1-1. 調査票の配布・回収状況

	団体			対象者				
	配布数	回収数	回収率	配布数	回収数	無効	有効	有効回収率
子供調査	250	207	82.8%	2,500	1,742	168	1,574	63.0%
保護者調査	250	206	82.4%	2,500	1,635	194	1,441	57.6%
指導者調査	250	206	82.4%	500	375	0	375	75.0%
指導者調査 <放課後子供教室・土曜日の教育活動>	55	40	72.7%	110	72	0	72	65.5%

(7) 調査結果の集計

調査結果の集計は、「伝統文化親子教室 子供たちの意識・行動に関する調査」返却係である近畿日本ツーリストグループ 株式会社イベント&コンベンションハウスにて行った。集計は、単純集計及び基本となるクロス集計に加えて、適宜、分析に必要な集計を行った。基本となるクロス集計において表側としたのは、以下の変数である。

【子供調査】 学年、性別、参加している「教室」の分野

【保護者調査】 子供の学年、子供の性別、子供が参加している「教室」の分野

【指導者調査】「教室」の分野、指導者の年齢、指導者の性別

【指導者調査＜放課後子供教室・土曜日の教育活動＞】「教室」の分野、指導者の年齢、指導者の性別

なお、本『報告書』では、単純集計の結果を中心に、必要に応じてクロス集計等の結果に言及する形で結果を報告する。単純集計の結果は「付録」に付した。クロス集計等の結果については、紙幅の関係で掲載を省略した。

本『報告書』に掲載の図表において、比率(%)の合計が、99.9%であったり、100.1%であったり、100.0%とならないケースが存在する。これは比率の計算において小数第2位を四捨五入しているためである。

(8) 調査対象者のプロフィール

調査対象者のプロフィールは、次のようになっている。

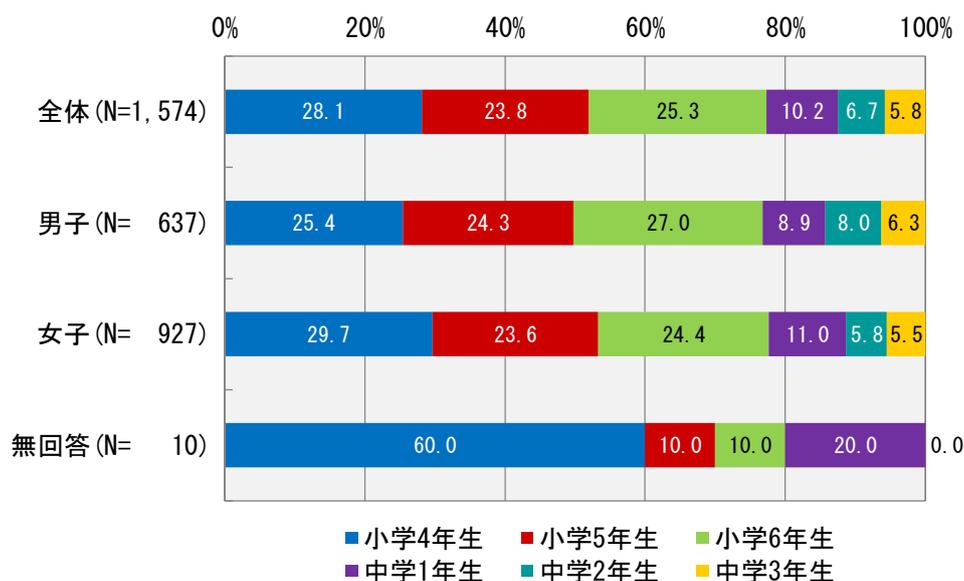
1) 子供のプロフィール

① 子供の学年と性別

図 1-1 に示したように、調査対象の子供の 4 分の 3 が小学生、4 分の 1 が中学生である。子供の割合は、小学生では各学年 2 割を超えていたものが、中学生では各学年 1 割あるいはそれ以下になっている。

性別にみると、男子では小学 6 年生がやや多く、女子では小学 4 年生がやや多くなっている。

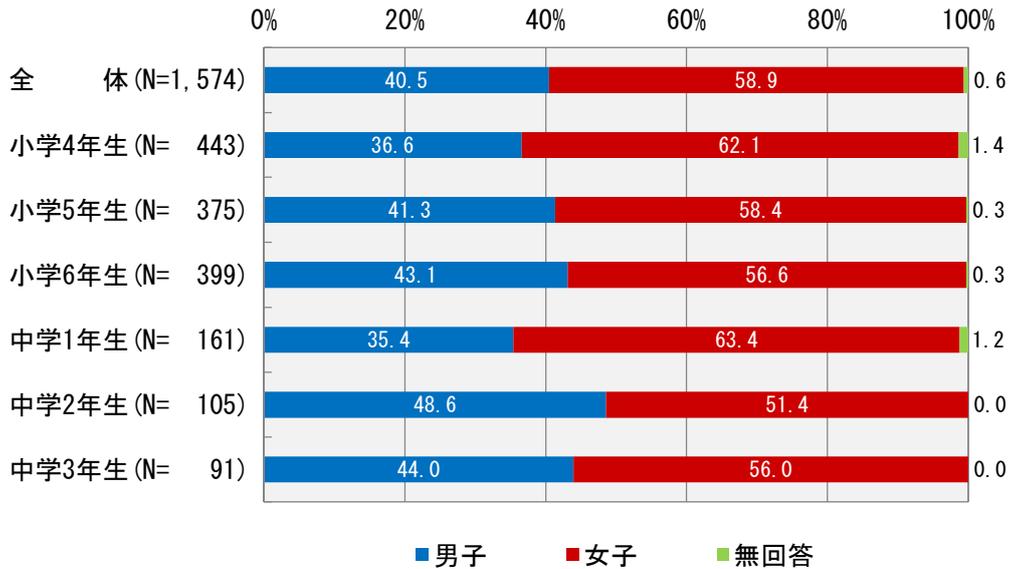
図 1-1. 『子供調査』子供の学年（全体／性別）



調査対象の子供の 5 分の 3 は女子である。学年ごとに性別をみると、全ての学年において女子の割合が 5 割を超えており、小学 4 年生と中学 1 年生の割合は 6 割を超えている。(図 1-2)。

調査対象となった子供からみる限り、「教室」に参加している子供は小学生が中心であり、全体として女子が多くなっている。

図 1-2. 『子供調査』子供の性別（全体／学年別）



②参加している「教室」の分野

表 1-2 に示したように、「教室」の分野では、「神楽、獅子舞、お囃子」に参加する子供の割合が高くなっており、全体の 6 分の 1 (17.5%) を占めている。次いで、参加する子供の割合が高いのは「百人一首、カルタ、囲碁、将棋」(15.2%) である。次いで、「茶道、華道」(14.8%)、「邦楽：お箏、三味線、尺八、笛、太鼓など」(13.2%)、「和太鼓」(11.0%) の順である。

学年別にみると、小学生に比べて中学生において「神楽、獅子舞、お囃子」に参加する子供の割合が高くなっている。逆に、中学生よりも小学生で参加する子供の割合が高くなっているのは「百人一首、カルタ、囲碁、将棋」である。その他、中学 2 年生では、「神楽、獅子舞、お囃子」の割合が 4 割弱 (39.0%) であり、他の分野に比べて割合が高くなっている。

性別では、女子の場合、「邦楽」「日本舞踊」「茶道・華道」「着物の着付け・作法」に参加する子供の割合が男子よりも高くなっている。男子の場合には、「神楽・獅子舞・お囃子」「和太鼓」「百人一首・カルタ・囲碁・将棋」「武道」において女子よりも参加する子供の割合が高くなっている。

ちなみに、「分野」を、その特性を加味して「民俗芸能」「古典芸能」「生活文化」「その他」の 4 つに分類し直してみると、「民俗芸能」の分野の教室に参加する子供が全体の 3 分の 1 (35.8%)、次いで「生活文化」(34.3%)、「古典芸能」(26.7%) となっている。学年別では、「民俗芸能」にあつては中学生に、「生活文化」については小学生において、参加する子供の割合が高くなっている。性別では、「民俗芸能」では男子、「古典芸能」「生活文化」では女子において、参加する子供の割合が高い。

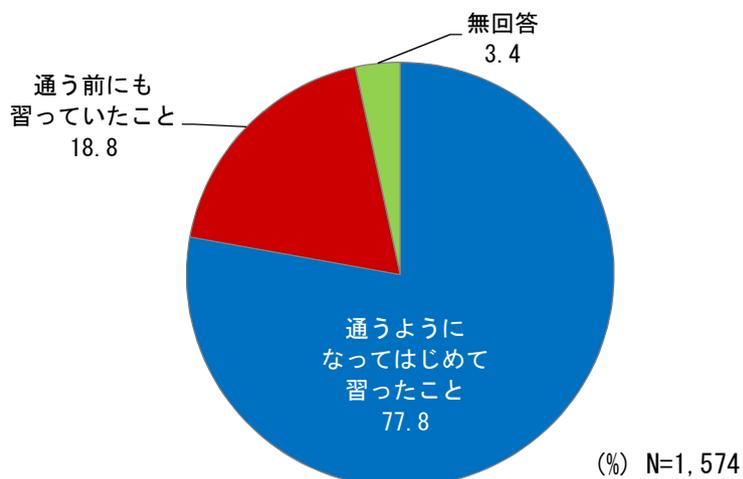
③参加前の経験の有無

図 1-3 をみると、「教室」で行っていることを、そこに「通う前にも習っていた」という子供よりも、「教室」に「通うようになってはじめて習った」という子供の割合が圧倒的に高くなっている。「教室」は子供達に新たな経験を提供しているようである。

表 1-2. 『子供調査』参加している「教室」の分野（全体／学年／性別）

「教室」の分野		全 体 N=1,574	学 年					性 別			
			小学 4年生 N=443	小学 5年生 N=375	小学 6年生 N=399	中学 1年生 N=161	中学 2年生 N=105	中学 3年生 N=91	男子 N=637	女子 N=927	無回答 N=10
分 野	神楽・獅子舞・お囃子	17.5	15.3	17.1	14.3	18.6	39.0	17.6	24.3	13.1	0.0
	民謡・町や村に昔から伝わっている 踊り・お芝居・人形芝居	7.2	6.3	5.6	7.5	11.8	3.8	13.2	6.9	7.6	0.0
	能楽・雅楽	7.8	8.4	6.9	11.0	6.8	0.0	4.4	7.4	8.1	0.0
	邦楽：お箏、三味線、尺八、笛、 太鼓など	13.2	13.5	13.1	14.0	8.7	12.4	16.5	9.3	15.9	10.0
	和太鼓	11.0	8.8	12.3	10.5	12.4	16.2	9.9	12.7	9.9	0.0
	日本舞踊	5.8	7.7	5.1	5.8	5.6	1.9	5.5	0.8	9.3	10.0
	伝統工芸：昔から伝えられてきた 物づくり	5.2	7.2	4.8	7.0	1.2	0.0	2.2	4.4	5.7	10.0
	百人一首・カルタ・囲碁・将棋	15.2	16.5	17.6	14.0	15.5	9.5	11.0	25.4	7.9	50.0
	茶道・華道	14.8	16.0	12.3	17.5	12.4	9.5	17.6	4.2	22.1	10.0
	武道：柔道、剣道、古式泳法、 相撲、弓道など	2.4	1.1	2.4	1.5	4.3	7.6	3.3	4.1	1.3	0.0
	書道	1.0	0.9	1.3	1.0	1.2	0.0	0.0	0.6	1.2	0.0
	着物の着付けや作法	3.3	4.5	4.0	2.5	1.9	1.0	3.3	0.6	5.2	0.0
	昔の遊びや仕事	2.7	5.2	2.9	1.3	0.0	1.9	1.1	0.9	3.8	10.0
	その他	7.1	8.1	8.8	6.0	5.6	5.7	4.4	7.4	6.9	10.0
無回答	0.5	0.5	0.5	0.3	0.6	1.0	1.1	0.8	0.3	0.0	
大 分 類	民俗芸能 神楽・獅子舞・お囃子、民謡・地域 の踊り・お芝居・人形芝居、和太鼓	35.8	30.5	34.9	32.3	42.9	59.0	40.7	44.0	30.5	0.0
	古典芸能 能楽・雅楽、邦楽、日本舞踊	26.7	29.6	25.1	30.8	21.1	14.3	26.4	17.4	33.2	20.0
	生活文化 百人一首・カルタ・囲碁・将棋、茶 道・華道、書道、着物の着付けや作 法	34.3	37.9	35.2	35.1	31.1	20.0	31.9	30.9	36.4	60.0
	その他 伝統工芸、武道、昔の遊びや仕事、 その他	17.4	21.7	18.9	15.8	11.2	15.2	11.0	16.8	17.7	30.0

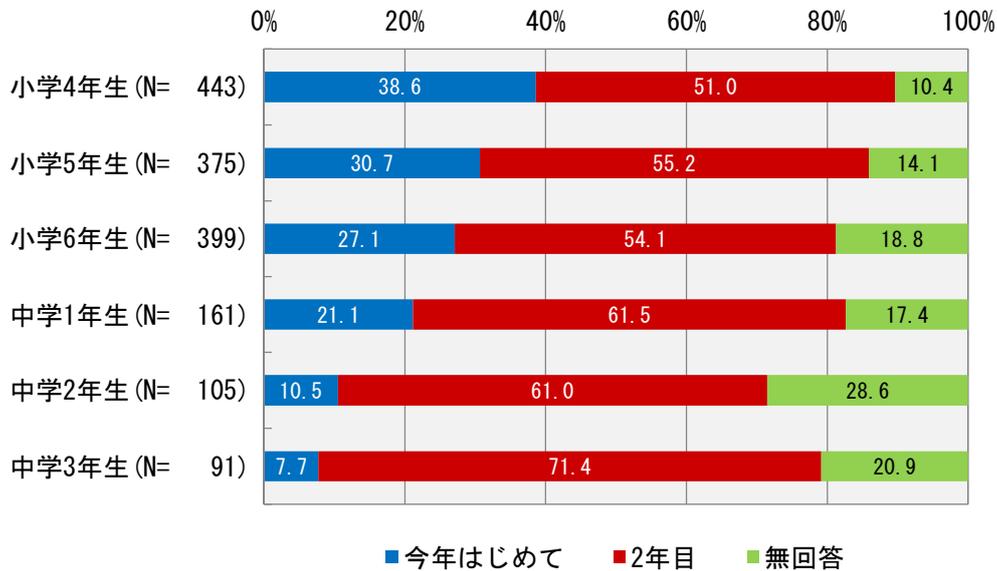
図 1-3. 『子供調査』参加前の経験の有無（全体／N=1,574）



④参加年数（今年で何年目か）

参加年数では、「2年目」の子供が全体の半数以上（55.7%）を占めている。学年ごとに参加年数（図1-4）をみると、学年が上になるほど「今年をはじめて」の割合が低くなっている。「教室」にはじめて参加する場合、学年が下の方ほど参加し易い傾向にある。

図1-4. 『子供調査』参加年数（今年で何年目か）（全体／学年別）

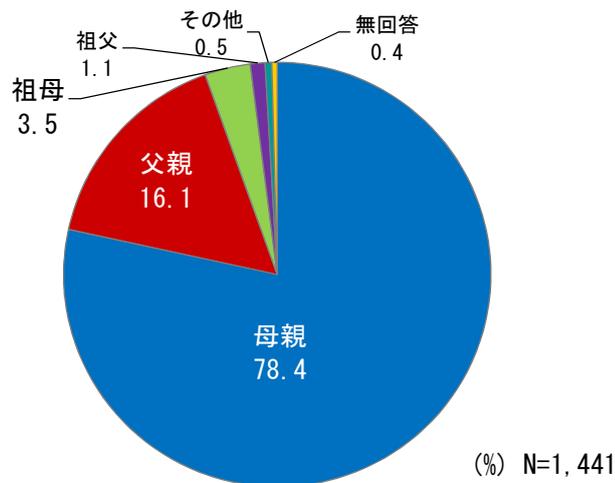


2) 保護者のプロフィール

①子供との続柄

『保護者調査』の回答者は、8割弱（78.4%）が母親である。大半が母親ではあるが、父親が回答している場合も全体の16.1%を占めている。祖母や祖父が回答しているケースは、ごくわずかである（図1-5）。

図1-5. 『保護者調査』子供との続柄（全体／N=1,441）



②子供の学年と性別

『保護者調査』で尋ねた「子供の学年」(図 1-6)、「子供の性別」(1-7)の結果については、『保護者調査』の回答者が『子供調査』の対象者の保護者であることから『子供調査』の結果とほぼ同一である。ここでは図表を示すに止めておく。

図 1-6. 『保護者調査』子供の学年 (全体/性別)

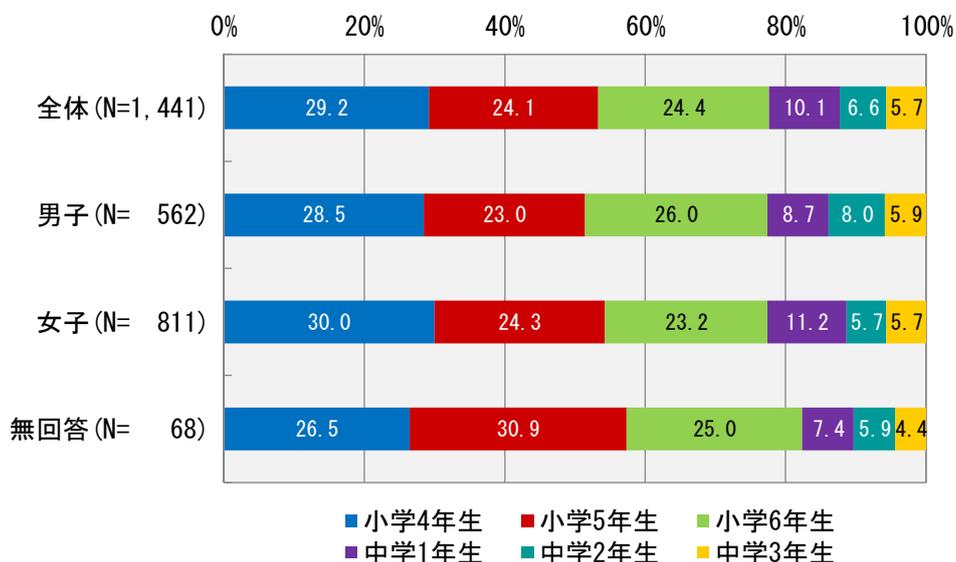
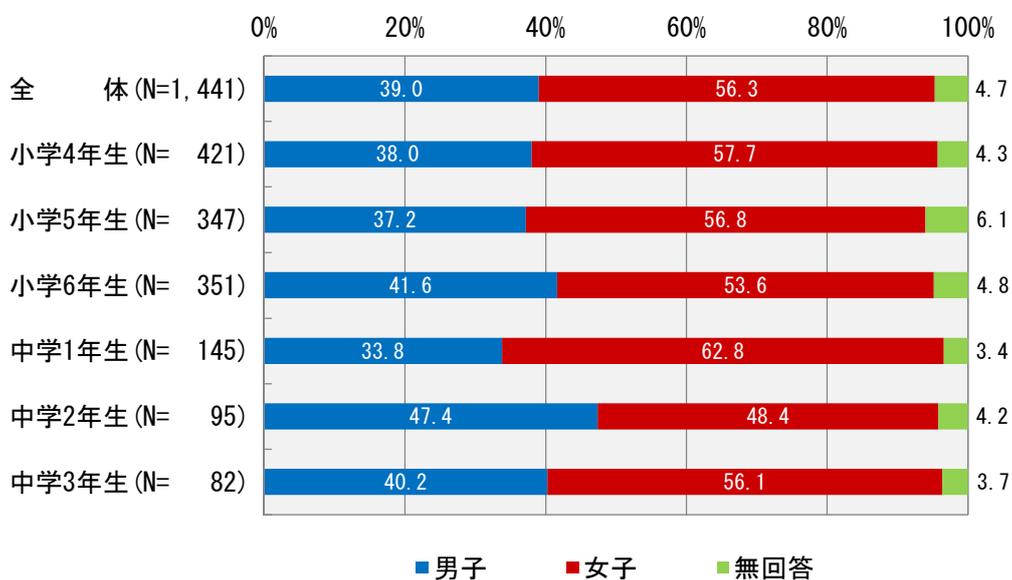


図 1-7. 『保護者調査』子供の性別 (全体/学年別)



③子供が参加している「教室」の分野

『保護者調査』で尋ねた「子供が参加している「教室」の分野」(表 1-3)も、『保護者調査』の回答者が『子供調査』の対象者の保護者であることから『子供調査』の結果とほぼ同一である。

表 1-3. 『保護者調査』 子供が参加している「教室」の分野（全体／学年／性別）

(%)

「教室」の分野		全 体 N=1,441	学 年						性 別		
			小学 4年生 N=421	小学 5年生 N=347	小学 6年生 N=351	中学 1年生 N=145	中学 2年生 N=95	中学 3年生 N=82	男子 N=562	女子 N=811	無回答 N=68
分 野	神楽・獅子舞・お囃子	17.0	15.2	14.4	14.8	21.4	31.6	22.0	23.5	11.3	30.9
	民謡・町や村に昔から伝わっている踊り・お芝居・人形芝居	7.7	7.1	6.3	8.3	13.8	5.3	6.1	6.6	7.6	17.6
	能楽・雅楽	7.7	8.3	6.9	10.5	8.3	0.0	3.7	6.8	8.5	5.9
	邦楽：お箏、三味線、尺八、笛、太鼓など	12.1	11.6	11.8	11.7	11.0	15.8	15.9	9.4	13.8	14.7
	和太鼓	10.0	8.6	9.5	10.0	9.7	16.8	12.2	12.8	8.5	4.4
	日本舞踊	6.1	7.1	6.1	5.7	4.8	4.2	7.3	0.5	9.5	11.8
	伝統工芸：昔から伝えられてきた物づくり	4.5	5.7	5.2	5.7	1.4	0.0	1.2	4.3	4.9	1.5
	百人一首・カルタ・囲碁・将棋	13.9	14.7	16.1	13.7	12.4	9.5	8.5	23.5	7.6	8.8
	茶道・華道	13.6	15.4	12.7	15.1	9.0	8.4	15.9	3.4	21.3	5.9
	武道：柔道、剣道、古式泳法、相撲、弓道など	2.8	1.4	2.3	2.0	5.5	8.4	3.7	4.1	2.0	1.5
	書道	0.8	1.0	1.4	0.6	0.0	1.1	0.0	0.2	1.1	2.9
	着物の着付けや作法	2.5	4.0	2.3	1.4	2.1	1.1	2.4	0.4	3.8	4.4
	昔の遊びや仕事	1.8	3.1	2.3	1.1	0.7	0.0	0.0	0.9	2.5	1.5
	その他	7.4	7.4	11.2	5.7	6.2	4.2	4.9	7.1	7.9	4.4
無回答	1.3	1.9	1.2	2.0	0.0	0.0	0.0	2.1	0.9	0.0	
大 分 類	民俗芸能	34.7	30.9	30.3	33.0	44.8	53.7	40.2	42.9	27.5	52.9
	古典芸能	26.0	27.1	24.8	27.9	24.1	20.0	26.8	16.7	31.8	32.4
	生活文化	30.8	35.2	32.6	30.8	23.4	20.0	26.8	27.4	33.9	22.1
	その他	16.5	17.6	21.0	14.5	13.8	12.6	9.8	16.4	17.3	8.8

④子供の参加年数

『保護者調査』で尋ねた「「教室」になる前からの子供の参加」(図 1-8) について、学年ごとに結果をみると、学年が上になるほど「教室」になる前からの子供の参加している割合が高くなっている。

また「教室」になる前から子供が参加している場合、その参加年数を尋ねた「「教室」になる前からの子供の参加年数」(図 1-9) をみると、学年が上になるほど長く参加していることが分かる。中学3年生では6年目以上参加している子供の割合が6割を超えている。

図 1-8. 『保護者調査』「教室」になる前からの子供の参加（全体／学年別）

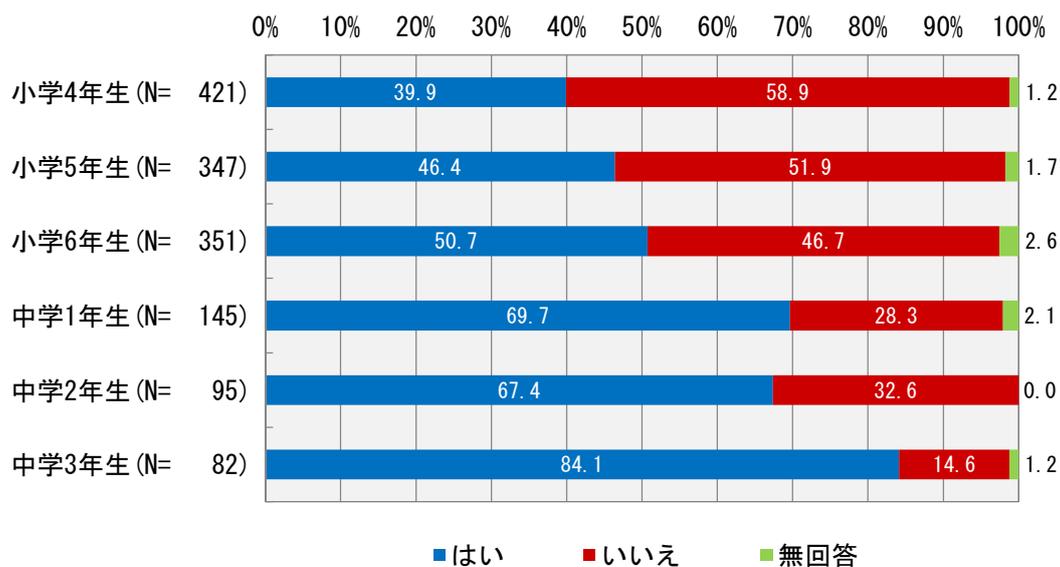
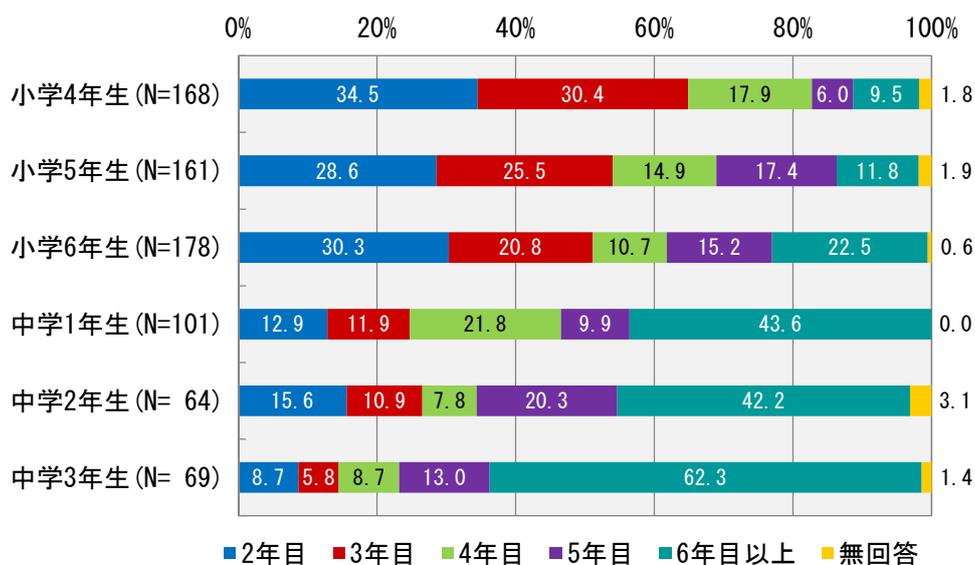


図 1-9. 『保護者調査』「教室」になる前からの子供の参加年数（全体／学年別）



⑤保護者の年齢

保護者の年齢については、「35歳～39歳」（22.1%）、「40歳～44歳」（38.2%）に集中している。回答者の6割が、35歳代後半から40歳代前半である。小学校高学年から中学にかけての子供の保護者、しかもほとんどの回答者が母親であるところから、当然の結果である。

表 1-4. 『保護者調査』 保護者の年齢（全体／N=1,441）

保護者年齢	(%)
～24歳	0.4
25歳～29歳	1.1
30歳～34歳	7.5
35歳～39歳	22.1
40歳～44歳	38.2
45歳～49歳	19.3
50歳～54歳	4.4
55歳～59歳	1.0
60歳～	3.7
無回答	2.2

3) 指導者のプロフィール

①指導者の年齢と性別

『指導者調査』の結果から調査対象の指導者のプロフィールを示しておく、年齢については（表 1-5）、「60 歳代（60 歳～69 歳）」（29.3%）で全体の 3 割弱を占めている。「70 歳代（70 歳～79 歳）」の指導者も 2 割弱（19.2%）いるところから、指導者の年齢は比較的、高くなっている。指導者の年齢を性別にみると、男性の方が女性よりも 20 歳代の若い指導者がいたり、70 歳代の高齢の指導者が多かったり、若干であるが指導者の年齢層が広がっている。女性の場合、「60 歳代（60 歳～69 歳）」（34.4%）に全体の 3 分の 1 が集まっている。

性別については（表 1-6）、男性（48.5%）、女性（49.6%）と 5 割ずつである。それを年齢別にみると、若い指導者、すなわち「30 歳代」までの指導者において男性の割合が高くなっている。「40 歳代」より上の年齢層では、逆に女性の割合が高くなっているが、70 歳代ではまた男性の割合が高くなっている。

表 1-5. 『指導者調査』 指導者の年齢（全体／性別）

	～19歳	20歳～29歳	30歳～39歳	40歳～49歳	50歳～59歳	60歳～69歳	70歳～79歳	80歳～	無回答
全 体 (N=375)	0.3	4.3	8.3	16.5	17.6	29.3	19.2	2.7	1.9
男 性 (N=182)	0.5	6.0	8.2	16.5	17.6	25.3	22.5	2.7	0.5
女 性 (N=186)	0.0	2.7	8.1	17.2	18.3	34.4	16.7	2.7	0.0
無回答 (N= 7)	0.0	0.0	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	85.7

表 1-6. 『指導者調査』 指導者の年齢（全体／年齢別）

	男性	女性	無回答
全 体 (N=375)	48.5	49.6	1.9
～19歳 (N= 1)	100.0	0.0	0.0
20歳～29歳 (N= 16)	68.8	31.3	0.0
30歳～39歳 (N= 31)	48.4	48.4	3.2
40歳～49歳 (N= 62)	48.4	51.6	0.0
50歳～59歳 (N= 66)	48.5	51.5	0.0
60歳～69歳 (N=110)	41.8	58.2	0.0
70歳～79歳 (N= 72)	56.9	43.1	0.0
80歳～ (N= 10)	50.0	50.0	0.0
無 回 答 (N= 7)	14.3	0.0	85.7

②「教室」の分野

『指導者調査』における回答者が指導している「教室」の分野構成は（表 1-7）、「教室」を単位に調査を実施しているところから、『子供調査』、『保護者調査』とほぼ同様である。「神楽・獅子舞・お囃子」が最も多く（21.6%）、全体の5分の1を占めている。次いで、「百人一首・カルタ・囲碁・将棋」（17.3%）、「邦楽」（14.1%）、「茶道・華道」（14.1%）が続いている。

表 1-7. 『指導者調査』指導している「教室」の分野（全体／N=375）

「教室」の分野		全体	
		N=375	
分野	神楽・獅子舞・お囃子	21.6	
	民謡・町や村に昔から伝わっている踊り・お芝居・人形芝居	11.5	
	能楽・雅楽	9.9	
	邦楽：お箏、三味線、尺八、笛、太鼓など	14.1	
	和太鼓	8.8	
	日本舞踊	10.4	
	伝統工芸：昔から伝えられてきた物づくり	7.5	
	百人一首・カルタ・囲碁・将棋	17.3	
	茶道・華道	14.1	
	武道：柔道、剣道、古式泳法、相撲、弓道など	2.1	
	書道	1.1	
	着物の着付けや作法	5.1	
	昔の遊びや仕事	4.0	
	その他	12.8	
	無回答	0.5	
大分類	民俗芸能	神楽・獅子舞・お囃子、民謡・地域の踊り・お芝居・人形芝居、和太鼓	41.9
	古典芸能	能楽・雅楽、邦楽、日本舞踊	34.4
	生活文化	百人一首・カルタ・囲碁・将棋、茶道・華道、書道、着物の着付けや作法	37.6
	その他	伝統工芸、武道、昔の遊びや仕事、その他	26.4

③指導者の「教室」での役割

指導者の「教室」での役割としては（図 1-10）、「子供に直接指導」している人が全体の7割弱（68.8%）、「指導の補助」をしている人が2割弱（17.1%）である。『教室』を開催するための準備をしているという人も指導者に含まれるが、その割合はわずかである（5.3%）。

表 1-8 に示すように、年齢別に役割をみると、「子供に直接指導」する役割を担う指導者の割合は、「50歳代（50歳～59歳）」「60歳代（60歳～69歳）」「70歳代（70歳～79歳）」で高くなっている。それより若い年齢層では、「指導の補助」を行う指導者の割合が相対的に高くなっている。性別では、男性の方が「子供に直接指導」する役割を担う指導者が多く、「指導の補助」をする役割を担う指導者は女性の方が多くなっている。

図 1-10. 『指導者調査』指導者の「教室」での役割（全体／N=375）

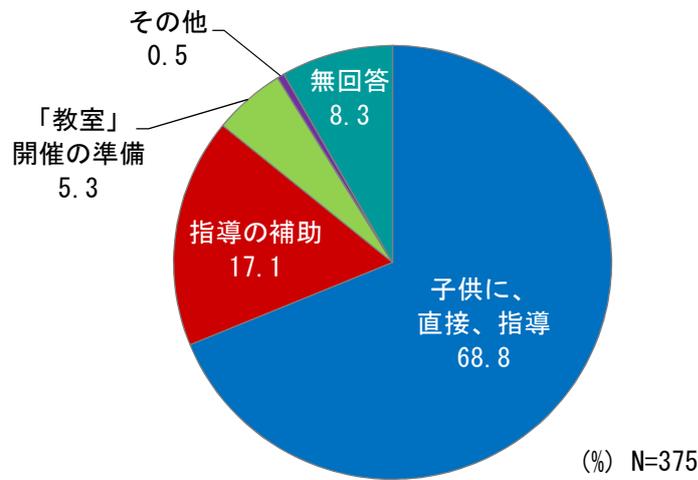


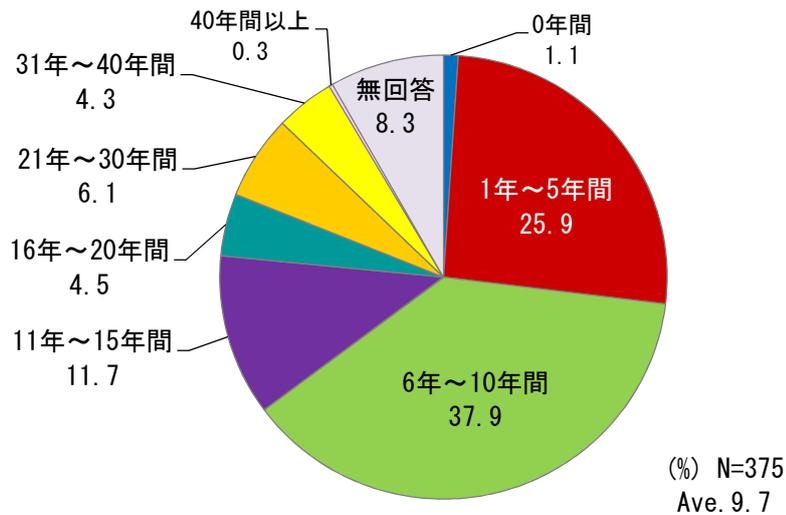
表 1-8. 『指導者調査』指導者の「教室」での役割（全体／年齢／性別）

		(%)				
		子供に、 直接、指導	指導の補助	「教室」 開催の準備	その他	無回答
全 体 (N=375)		68.8	17.1	5.3	0.5	8.3
指導者の 年齢	～19歳 (N= 1)	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	20歳～29歳 (N= 16)	62.5	31.3	6.3	0.0	0.0
	30歳～39歳 (N= 31)	64.5	19.4	6.5	0.0	9.7
	40歳～49歳 (N= 62)	62.9	21.0	4.8	0.0	11.3
	50歳～59歳 (N= 66)	71.2	21.2	4.5	0.0	3.0
	60歳～69歳 (N=110)	70.9	15.5	7.3	0.0	6.4
	70歳～79歳 (N= 72)	70.8	12.5	4.2	2.8	9.7
	80歳～ (N= 10)	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	無 回 答 (N= 7)	28.6	0.0	0.0	0.0	71.4
性 別	男 性 (N=182)	73.6	12.6	5.5	1.1	7.1
	女 性 (N=186)	66.1	21.5	5.4	0.0	7.0
	無 回 答 (N= 7)	14.3	14.3	0.0	0.0	71.4

④「教室」での指導経験年数

指導経験年数を自由回答としたため回答方法にばらつきがあった。そのため一定年数ごとにまとめた結果が図 1-11 である。指導経験年数が「1年～5年間」が全体の4分の1 (25.9%)、「6年～10年間」が全体の3分の1 (37.9%) となり、全体の6割が10年以下の指導経験年数となった。また平均指導経験年数は9.7年となっている。

図 1-11. 『指導者調査』 指導者の「教室」での指導経験年数（全体／N=375／Ave. 9.7）



4) 指導者＜放課後子供教室・土曜日の教育活動＞のプロフィール

①指導者＜放課後子供教室・土曜日の教育活動＞の年齢と性別

『指導者調査＜放課後子供教室・土曜日の教育活動＞』の結果から調査対象の指導者のプロフィールを示しておく、年齢については（表 1-9）、「60 歳代（60 歳～69 歳）」（30.6%）で全体の 3 割を占めている。次いで「40 歳代（40 歳～49 歳）」（26.4%）となっている。指導者の年齢を性別にみると、男性の方が女性よりも若い指導者が多く、「40 歳代（40 歳～49 歳）」が全体の 4 割（42.9%）、女性の場合は「60 歳代（60 歳～69 歳）」（36.0%）に全体の 3 分の 1 が集まっている。

性別については（表 1-10）、男性（29.2%）、女性（69.4%）である。年齢別にみても、女性の割合が高くなっている。「60 歳代」「70 歳代」では、女性の割合が 8 割を超えている。

表 1-9. 『指導者調査＜放課後子供教室・土曜日の教育活動＞』
指導者の年齢（全体／性別）

	～19歳	20歳～29歳	30歳～39歳	40歳～49歳	50歳～59歳	60歳～69歳	70歳～79歳	80歳～	無回答
全 体 (N=72)	1.4	0.0	9.7	26.4	18.1	30.6	9.7	2.8	1.4
男 性 (N=21)	0.0	0.0	14.3	42.9	14.3	19.0	4.8	4.8	0.0
女 性 (N=50)	2.0	0.0	8.0	20.0	20.0	36.0	12.0	2.0	0.0
無回答 (N= 1)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0

(%)

表 1-10. 『指導者調査＜放課後子供教室・土曜日の教育活動＞』
指導者の年齢（全体／年齢別）

(%)			
	男性	女性	無回答
全 体 (N=72)	29.2	69.4	1.4
～19歳 (N= 1)	0.0	100.0	0.0
20歳～29歳 (N= 0)	0.0	0.0	0.0
30歳～39歳 (N= 7)	42.9	57.1	0.0
40歳～49歳 (N=19)	47.4	52.6	0.0
50歳～59歳 (N=13)	23.1	76.9	0.0
60歳～69歳 (N=22)	18.2	81.8	0.0
70歳～79歳 (N= 7)	14.3	85.7	0.0
80歳～ (N= 2)	50.0	50.0	0.0
無 回 答 (N= 1)	0.0	0.0	100.0

②＜放課後子供教室・土曜日の教育活動＞の「教室」の分野

『指導者調査＜放課後子供教室・土曜日の教育活動＞』における回答者が指導している「教室」の分野構成は（表 1-11）であり、先述の『指導者調査』における分野構成とは異なる結果となった。「茶道・華道」が最も多く（23.6%）、全体の4分の1を占めている。次いで、「百人一首・カルタ・囲碁・将棋」（15.3%）、「昔の遊びや仕事」（13.9%）が続いている。

表 1-11. 『指導者調査＜放課後子供教室・土曜日の教育活動＞』
指導している「教室」の分野（全体／N=72）

「教室」の分野			全 体 N=72
分 野	神楽・獅子舞・お囃子		2.8
	民謡・町や村に昔から伝わっている踊り・お芝居・人形芝居		2.8
	能楽・雅楽		8.3
	邦楽：お箏、三味線、尺八、笛、太鼓など		11.1
	和太鼓		11.1
	日本舞踊		8.3
	伝統工芸：昔から伝えられてきた物づくり		8.3
	百人一首・カルタ・囲碁・将棋		15.3
	茶道・華道		23.6
	武道：柔道、剣道、古式泳法、相撲、弓道など		1.4
	書道		1.4
	着物の着付けや作法		5.6
	昔の遊びや仕事		13.9
	その他		9.7
	無回答		0.0
大 分 類	民俗芸能	神楽・獅子舞・お囃子、民謡・地域の踊り・お芝居・人形芝居、和太鼓	16.7
	古典芸能	能楽・雅楽、邦楽、日本舞踊	27.8
	生活文化	百人一首・カルタ・囲碁・将棋、茶道・華道、書道、着物の着付けや作法	45.8
	その他	伝統工芸、武道、昔の遊びや仕事、その他	33.3

③指導者＜放課後子供教室・土曜日の教育活動＞の「教室」での役割

指導者＜放課後子供教室・土曜日の教育活動＞の「教室」での役割としては（図 1-12）、「子供に直接指導」している人が全体の 7 割弱（68.1%）、「指導の補助」をしている人が 2 割弱（15.3%）である。「『教室』を開催するための準備」をしているという人も指導者に含まれるが、その割合はわずかである（6.9%）。

表 1-12 に示すように、年齢別に役割をみると、「子供に直接指導」する役割を担う指導者の割合は、「50 歳代（50 歳～59 歳）」「60 歳代（60 歳～69 歳）」で高く、7 割を超えている。性別では、男性の方が「子供に直接指導」する役割を担う指導者が多く、「指導の補助」をする役割を担う指導者は女性の方が多くなっている。

図 1-12. 『指導者調査＜放課後子供教室・土曜日の教育活動＞』
指導者の「教室」での役割（全体／N=72）

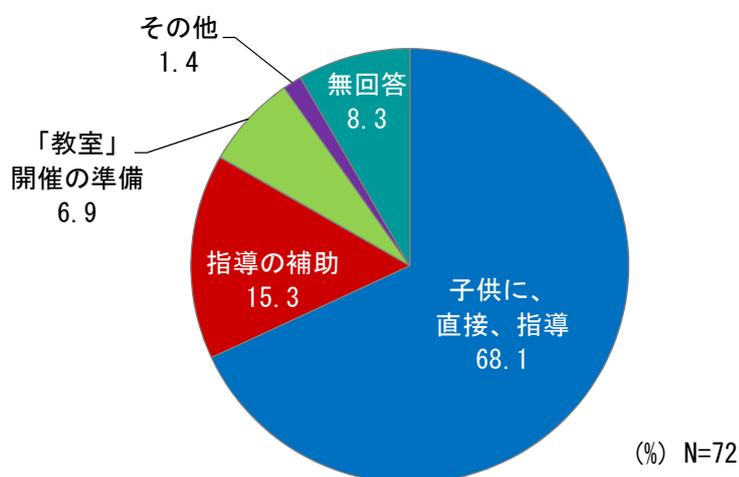


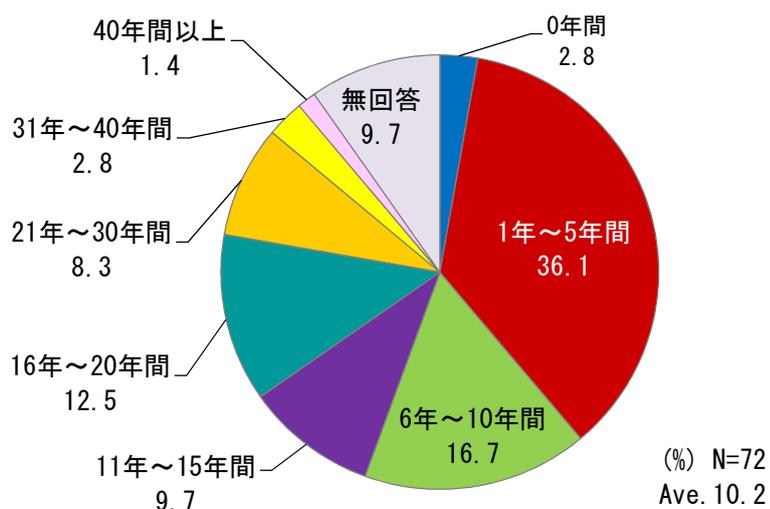
表 1-12. 『指導者調査＜放課後子供教室・土曜日の教育活動＞』
指導者の「教室」での役割（全体／年齢／性別）

		子供に、 直接、指導	指導の補助	「教室」 開催の準備	その他	無回答
全 体 (N=72)		68.1	15.3	6.9	1.4	8.3
指 導 者 の 年 齢	～19歳 (N= 1)	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	20歳～29歳 (N= 0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	30歳～39歳 (N= 7)	57.1	14.3	28.6	0.0	0.0
	40歳～49歳 (N=19)	63.2	21.1	0.0	5.3	10.5
	50歳～59歳 (N=13)	76.9	7.7	7.7	0.0	7.7
	60歳～69歳 (N=22)	77.3	9.1	4.5	0.0	9.1
	70歳～79歳 (N= 7)	57.1	14.3	14.3	0.0	14.3
	80歳～ (N= 2)	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0
	無 回 答 (N= 1)	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
性 別	男 性 (N=21)	85.7	4.8	4.8	0.0	4.8
	女 性 (N=50)	60.0	20.0	8.0	2.0	10.0
	無 回 答 (N= 1)	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0

④<放課後子供教室・土曜日の教育活動>の「教室」での指導経験年数

指導経験年数を自由回答としたため回答方法にばらつきがあった。そのため一定年数ごとにまとめた結果が図 1-13 である。指導経験年数が「1年～5年間」が全体の3分の1(36.1%)、「6年～10年間」が全体の6分の1(16.7%)となり、全体の5割が10年以下の指導経験年数となった。また平均指導経験年数は10.2年となっている。

図 1-13. 『指導者調査<放課後子供教室・土曜日の教育活動>』
指導者の「教室」での指導経験年数(全体/N=72/Ave. 10.2)



2. 参加についての全体的な評価

「教室」に参加したことについての全体的な評価を、「参加についての総合評価」、「習っていることの意義」、「継続への意欲・意向」の3つの側面から、検討していくことにする。

(1) 参加についての総合評価

ここでは、「教室」に参加したことについての総合評価を、子供の立場と保護者の立場から分析する。

1) 子供の評価

「教室」に参加したことに関して、子供はどのように思っているのでしょうか。図 2-1 は、「教室」に参加したことに対する子供の評価を示したものである。それによると、「教室」に通った子供のうち、7割弱(67.3%)の者が「とても、よかったと思う」と回答し、3割弱(28.5%)の者が「まあ、よかったと思う」と回答している。両方をあわせると、ほぼ全員が、「教室」に通ったことを「よかった」とみなしている。「教室」へ参加したことに対する子供の評価は、非常に高いといえる。なお、学年別・性別による分析では(表 2-1)、中学2年生、3年生において、「とても、よかったと思う」子供の割合が高くなっている。

図 2-1. 『子供調査』参加についての総合評価（通ってよかったか）（全体/N=1,574）

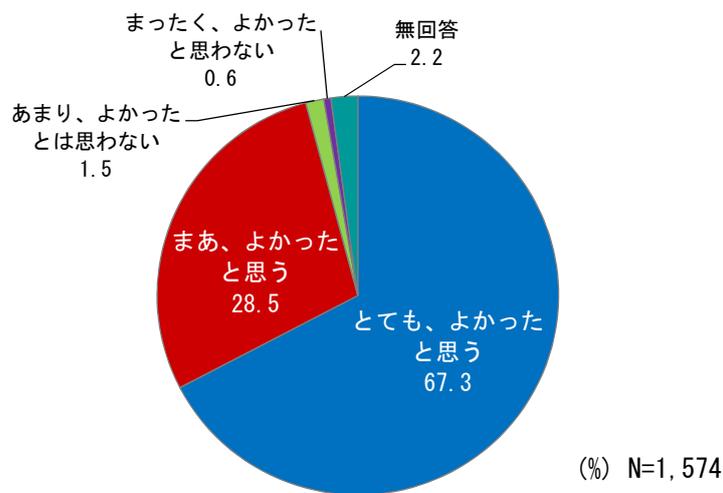


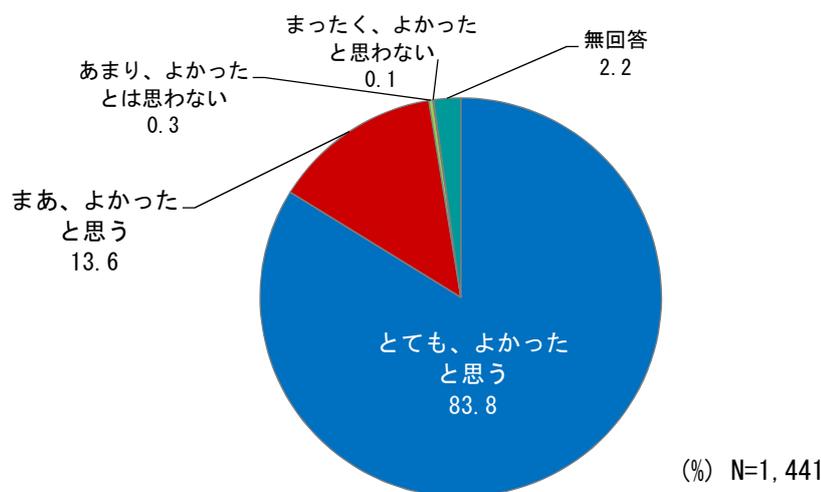
表 2-1. 『子供調査』参加についての総合評価（通ってよかったか）（全体/学年/性別）

		(%)				
		とても、よかった と思う	まあ、よかった と思う	あまり、よかった とは思わない	まったく、よかった とは思わない	無回答
全 体 (N=1,574)		67.3	28.5	1.5	0.6	2.2
学 年	小学4年生 (N=443)	67.7	28.0	2.0	0.9	1.4
	小学5年生 (N=375)	65.6	30.4	0.8	0.3	2.9
	小学6年生 (N=399)	65.2	30.3	1.8	0.8	2.0
	中学1年生 (N=161)	65.2	31.1	1.9	0.0	1.9
	中学2年生 (N=105)	73.3	21.9	0.0	1.0	3.8
	中学3年生 (N= 91)	79.1	17.6	1.1	0.0	2.2
性 別	男 子 (N=637)	66.2	28.4	2.0	0.6	2.7
	女 子 (N=927)	68.0	28.6	1.1	0.5	1.8
	無回答 (N= 10)	80.0	20.0	0.0	0.0	0.0

2) 保護者の評価

「教室」に参加させることに関して、保護者はどのように思っているのでしょうか。図 2-2 は、「教室」に参加させたことに対する保護者の評価を示したものである。それによると、子供を「教室」に通わせたことについて、8 割 (83.8%) の保護者が「とても、よかったと思う」と回答し、1 割 (13.6%) の保護者が「まあ、よかったと思う」と回答している。両方をあわせると、ほぼ全ての保護者が、子供を「教室」に通わせたことを「よかった」とみなしている。「教室」に参加させたことに対する保護者の評価も、非常に高いといえる。なお、学年別・性別による分析では、子供の評価結果と同様に顕著な差がみられなかったため、ここでは全体の結果を表した図を示すに止めておく。

図 2-2. 『保護者調査』 参加させたことについての総合評価（通わせてよかったか）（全体／N=1,441）



(2) 習っていることの意義

ここでは、「教室」で習っていることの意義を、子供の立場と保護者の立場から分析していくことにする。

1) 子供の評価

子供達は、「教室」で習うことの意義をどれくらい感じているのでしょうか。「生活の中で役立つか」という観点から、「教室」で習っていることの意義を探っていくことにする。

図 2-3 に示されているように、3 割弱の子供が、「教室」で習っていることは生活の中で「とても、役に立ちそう」と回答し (28.5%)、5 割の子供が「まあ、役に立ちそう」と回答している (52.7%)。両方をあわせると、8 割以上の子供が、生活の中で「役立つ」と回答しており、多くの子供が「教室」で習ったことの意義を実感していることが分かる。

学年別の分析では、「役に立ちそう」（「とても、役に立ちそう」「まあ、役に立ちそう」の割合の合計）と回答する者の割合が、中学 3 年生では 9 割弱 (89.0%) と他の学年に比べ高くなっている (表 2-2)。性別では、男子よりも女子の方が「役に立ちそう」と回答する者の割合が高くなっている。それぞれ「生活に役立つ」ことの意義を見つけているのかもしれない。

図 2-3. 『子供調査』 習っていることの意義（生活に役立つか）（全体／N=1,574）

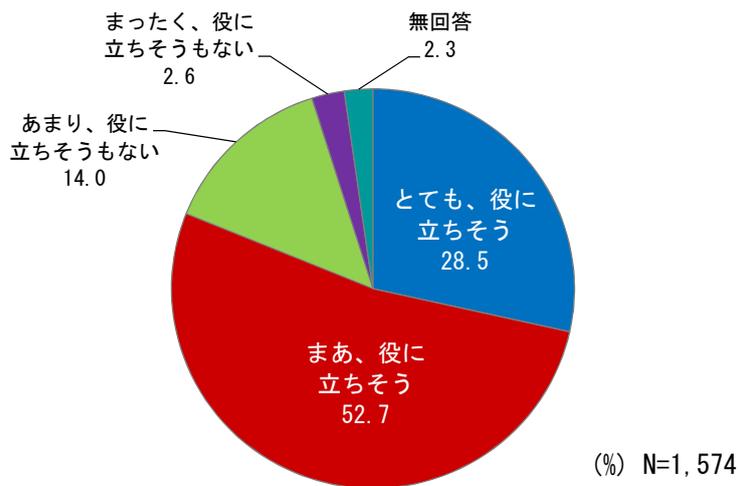


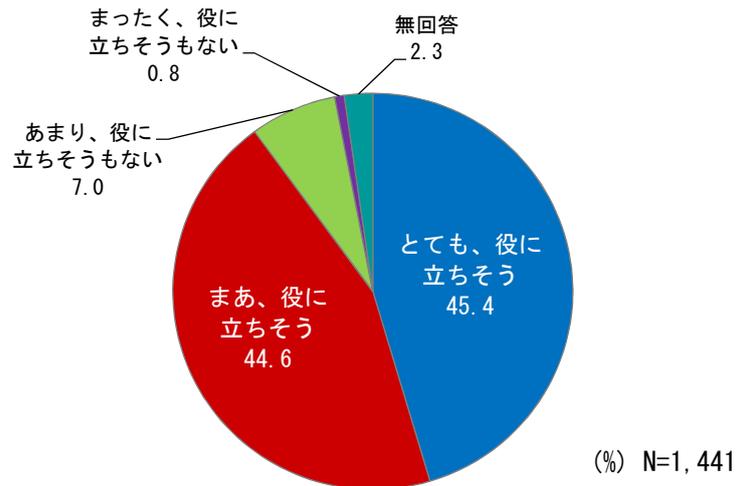
表 2-2. 『子供調査』 習っていることの意義（生活に役立つか）（全体／学年／性別）

		(%)				
		ととも、役に立ちそう	まあ、役に立ちそう	あまり、役に立ちそうもない	まったく、役に立ちそうもない	無回答
全	体 (N=1,574)	28.5	52.7	14.0	2.6	2.3
学 年	小学4年生 (N=443)	32.5	51.2	12.9	1.8	1.6
	小学5年生 (N=375)	24.5	57.9	13.9	1.1	2.7
	小学6年生 (N=399)	28.3	49.4	15.3	4.8	2.3
	中学1年生 (N=161)	24.2	55.9	14.9	2.5	2.5
	中学2年生 (N=105)	21.0	52.4	17.1	5.7	3.8
	中学3年生 (N= 91)	41.8	47.3	8.8	0.0	2.2
性 別	男 子 (N=637)	27.5	50.9	15.7	3.5	2.5
	女 子 (N=927)	29.0	54.2	12.7	2.0	2.0
	無回答 (N= 10)	40.0	30.0	20.0	0.0	10.0

2) 保護者の評価

保護者は、子供が「教室」で習っていることに関して、どれくらい意義を感じているのであろうか。図 2-4 に示したように、4 割以上の保護者が、「教室」で習っていることは生活の中で「ととも、役に立ちそう」と回答し（45.4%）、同じく 4 割以上の保護者が「まあ、役に立ちそう」と回答している（44.6%）。両方をあわせると、9 割の保護者が、生活の中で「役立つ」と回答しており、子供同様、多くの保護者が「教室」で習うことの意義を実感していることが分かる。なお、学年別・性別による分析では、顕著な差がみられなかったため、ここでは全体の結果を表した図を示すに止めておく。

図 2-4. 『保護者調査』 習っていることの意義（生活に役立つか）（全体／N=1,441）



(3) 継続への意欲・意向

ここでは、「教室」で習い続けていく意欲・意向を、子供の立場と保護者の立場から分析していくことにする。

1) 習い続けていくことについての子供の意欲

子供達は、「教室」に通い続けたいと思っているのであろうか。子供達の継続への意欲をみてみると（図 2-5）、8 割弱の子供が、「教室」で習い続けたい」と回答している（79.5%）。大半の子供が、「教室」で習っていることに満足し、このまま習い続けたいと思っている様子が窺える。

学年別の分析では、「教室」で習い続けたい」と回答する割合が小学 4 年生（86.9%）、中学 3 年生（85.7%）では 8 割以上と他の学年に比べ高くなっている（表 2-3）。性別の分析では、男女に顕著な差がみられなかった。

図 2-5. 『子供調査』 習い続けていくことについての意欲（全体／N=1,574）

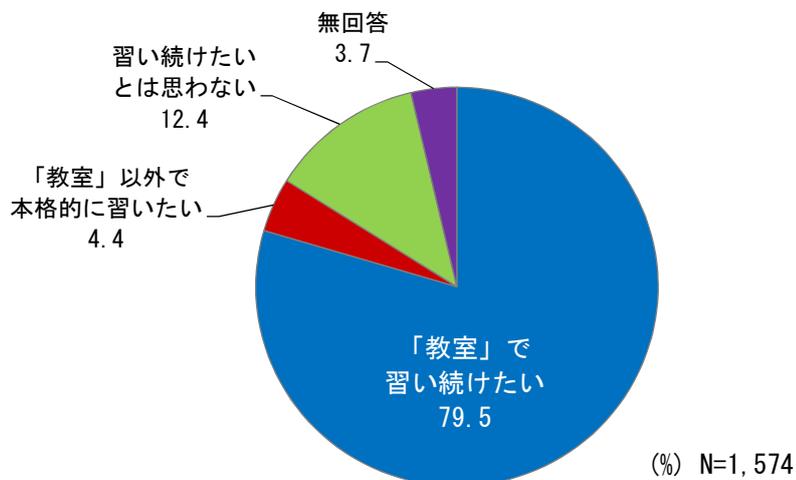


表 2-3. 『子供調査』 習い続けていくことについての意欲（全体／学年／性別）

		(%)			
		「教室」で 習い続けたい	「教室」以外で 本格的に習いたい	習い続けたい とは思わない	無回答
全 体 (N=1,574)		79.5	4.4	12.4	3.7
学 年	小学4年生 (N=443)	86.9	1.6	8.4	3.2
	小学5年生 (N=375)	80.0	5.3	12.0	2.7
	小学6年生 (N=399)	72.2	5.3	18.3	4.3
	中学1年生 (N=161)	80.1	4.3	11.8	3.7
	中学2年生 (N=105)	68.6	6.7	18.1	6.7
	中学3年生 (N= 91)	85.7	7.7	2.2	4.4
性 別	男 子 (N=637)	79.3	3.6	13.7	3.5
	女 子 (N=927)	79.6	5.0	11.7	3.8
	無回答 (N= 10)	90.0	0.0	0.0	10.0

2) 習い続けさせたいかについての保護者の意向

保護者は、「教室」に子供を通い続けさせたいと思っているのであろうか。保護者の継続への意向をみると（図 2-6）、8 割以上の保護者が「教室」で続けて習わせたい」と回答している（84.5%）。大半の保護者が、「教室」での活動に満足し、このまま習い続けさせたいと思っている様子が窺える。

学年別・性別による分析では、「習い続けたいとは思わない」と回答する割合が小学6年生（15.4%）と他の学年に比べ高くなっている（表 2-4）。中学受験等が影響しているかもしれない。また性別の分析では、男女に顕著な差がみられなかった。

図 2-6. 『保護者調査』 子供に習い続けさせたいかについての意向（全体／N=1,441）

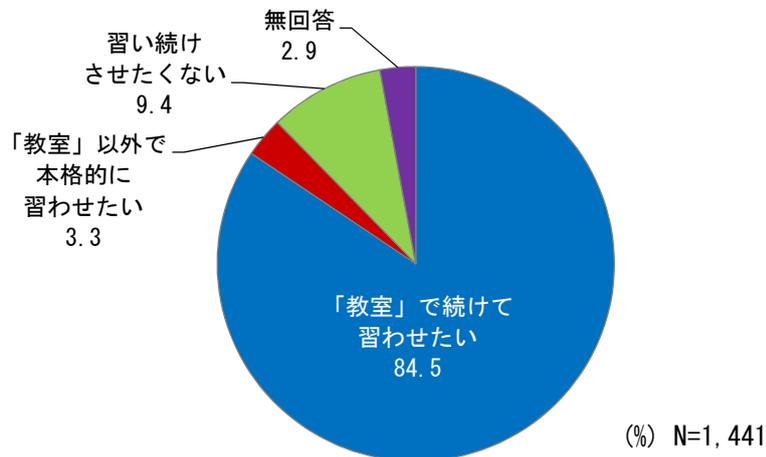


表 2-4. 『保護者調査』 子供に習い続けさせたいかについての意向（全体／学年／性別）

(%)

		「教室」で続けて 習わせたい	「教室」以外で 本格的に習わせたい	習い続け させたくない	無回答
全 体 (N=1,441)		84.5	3.3	9.4	2.9
学 年	小学4年生 (N=421)	88.8	1.0	8.3	1.9
	小学5年生 (N=347)	84.7	2.6	8.9	3.7
	小学6年生 (N=351)	76.6	4.0	15.4	4.0
	中学1年生 (N=145)	86.2	6.9	5.5	1.4
	中学2年生 (N= 95)	85.3	5.3	5.3	4.2
	中学3年生 (N= 82)	90.2	6.1	2.4	1.2
性 別	男 子 (N=562)	83.8	2.7	10.1	3.4
	女 子 (N=811)	85.1	3.6	8.8	2.6
	無回答 (N= 68)	82.4	4.4	10.3	2.9

本章の主要な結果をまとめると、以下のようになる。

第1に、子供、保護者双方とも、ほぼ全員が「教室」に参加させて「よかった」と思っており、総合評価は高いといえる。第2に、「教室」で習っていることの意義に関しては、子供の8割以上、保護者の9割が、生活の中で「役立つ」と思っている。第3に、継続への意欲・意向に関しては、子供の8割近く、保護者の8割以上が、「教室」への継続的な参加を希望している。

3. 参加の動機・理由ときっかけ

「教室」に参加した動機やきっかけ等に関して、子供側の立場と保護者側の立場から、検討していくことにする。

(1) 参加した子供の立場から

ここでは、子供の立場から「参加のきっかけ」、「参加の動機」を分析していくことにする。

1) 参加のきっかけ

子供達は、どのようなきっかけから「教室」に通うようになったのであろうか（図 3-1）。「教室」に通うようになったきっかけとして、「自分から通ってみようと思った」者は4割（40.2%）、「誰かから誘われたり、言われたりして通うようになった」者は6割弱（57.6%）となっている。他の人に勧められて「教室」に通い始める子供の方が多いといえる。なお、学年別・性別による分析では、全体的に顕著な差はみられないが、中学3年生においてのみ、「自分から通ってみようと思った」者の割合が高くなっていた（表 3-1）。

図 3-1. 『子供調査』参加のきっかけ（全体／N=1,574）

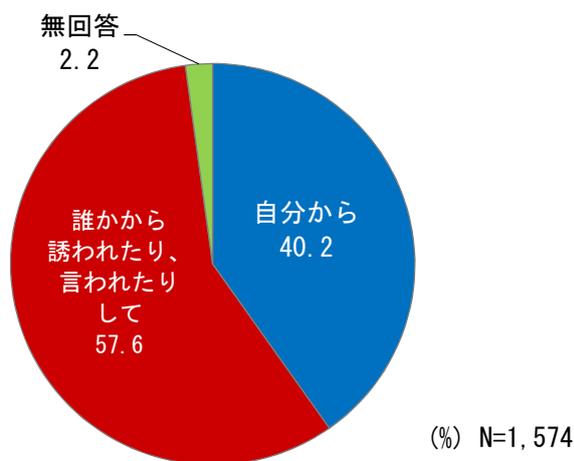
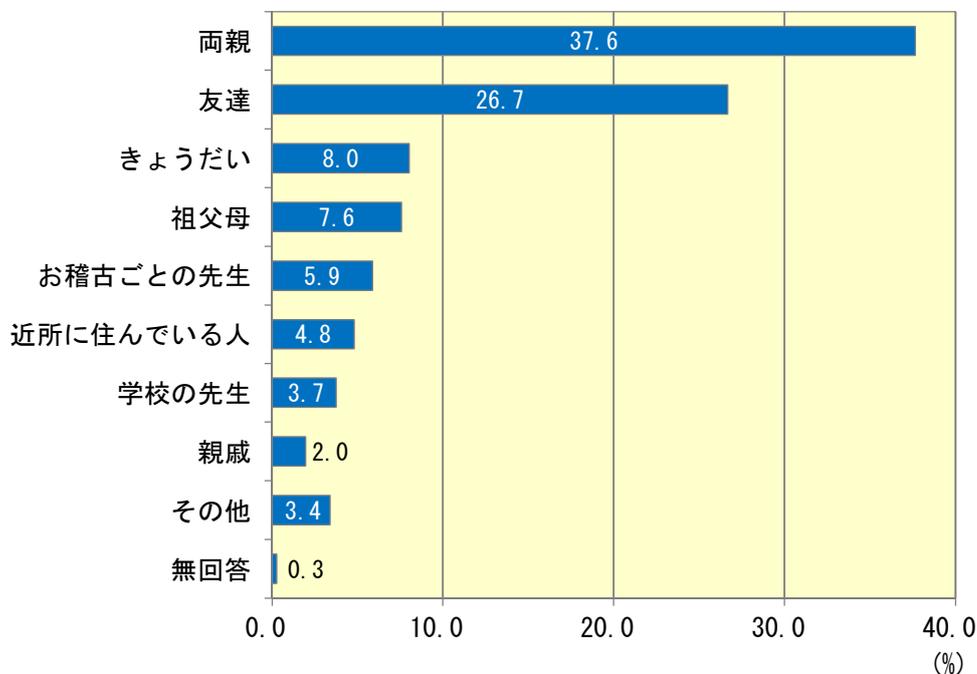


表 3-1. 『子供調査』参加のきっかけ（全体／学年／性別）

		自分から	誰かから誘われたり、言われたりして	無回答
全 体 (N=1,574)		40.2	57.6	2.2
学 年	小学4年生 (N=443)	39.5	59.1	1.4
	小学5年生 (N=375)	41.6	55.5	2.9
	小学6年生 (N=399)	38.1	59.1	2.8
	中学1年生 (N=161)	39.1	59.6	1.2
	中学2年生 (N=105)	40.0	57.1	2.9
	中学3年生 (N= 91)	49.5	49.5	1.1
性 別	男 子 (N=637)	40.8	57.0	2.2
	女 子 (N=927)	39.6	58.3	2.2
	無回答 (N= 10)	60.0	40.0	0.0

他人に勧められて「教室」に通い始める子供が多いが、「教室」に行くように誘ったのは誰なのであろうか。図 3-2 によれば、「両親」が 37.6%、「友達」が 26.7%となっており、他の人に比べて割合がかなり高く、身近にいる人から誘われたことをきっかけに「教室」に通い始めている状況である。

図 3-2. 『子供調査』参加のきっかけになった人（複数回答）（全体/N=1,121）



学年別・性別による分析では、「両親」に誘われるのは女子よりも男子の方が多く、「友達」に誘われるのは男子よりも女子の方が多かった（表 3-2）。男子と女子とでは、自らの行動に影響を及ぼす人物に違いがあることを窺い知ることができる。

表 3-2. 『子供調査』参加のきっかけになった人（複数回答）（全体/学年/性別）

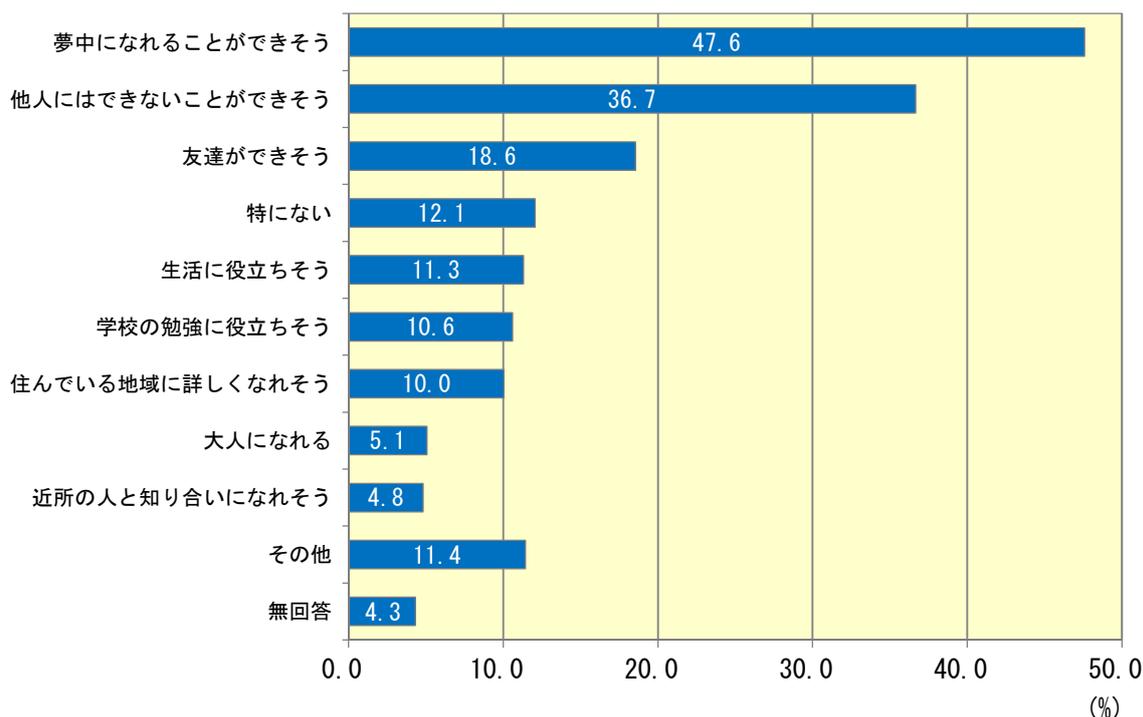
(%)

		両親	きょうだい	祖父母	親戚	学校の先生	お稽古ごとの先生	友達	近所に住んでいる人	その他	無回答
全 体 (N=1,121)		37.6	8.0	7.6	2.0	3.7	5.9	26.7	4.8	3.4	0.3
学 年	小学4年生 (N=312)	38.5	7.7	9.6	2.2	4.5	4.2	25.0	5.1	2.9	0.3
	小学5年生 (N=263)	38.4	7.6	7.2	1.5	4.6	8.0	26.6	3.4	2.7	0.0
	小学6年生 (N=290)	34.5	7.6	6.6	2.1	5.2	6.6	30.3	3.4	3.4	0.3
	中学1年生 (N=124)	41.9	4.8	9.7	0.8	0.0	4.0	25.8	8.9	3.2	0.8
	中学2年生 (N= 76)	34.2	10.5	2.6	1.3	0.0	2.6	32.9	7.9	7.9	0.0
	中学3年生 (N= 56)	41.1	17.9	5.4	5.4	1.8	10.7	10.7	3.6	3.6	0.0
性 別	男 子 (N=443)	44.0	7.4	6.5	2.5	3.4	6.5	18.1	6.8	4.5	0.2
	女 子 (N=674)	33.2	8.5	8.3	1.6	4.0	5.3	32.5	3.6	2.7	0.3
	無回答 (N= 4)	75.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0

2) 参加の動機

子供達は、どのような動機から「教室」に通うようになったのであろうか（図 3-3）。「教室」に通うようになった理由をみてみると、「面白いこと、夢中になれることができそうだったから」と回答する者が約半数を占め、一番多くなっている（47.6%）。続いて「他人にはできないことができそうだったから」が3割を超えて、2番目に多くなっている（36.7%）。以上の2つの動機が、他と比べて飛び抜けて多くなっている。子供にとって「教室」に参加する動機は、何よりもまず「楽しい」と思えることが一番大事であるといえる。また、自分ならではの特技を身につけるといった、自分自身を個性化できることも大事であるといえる。

図 3-3. 『子供調査』参加の動機（複数回答）（全体/N=1,574）



学年別・性別による分析では（表 3-3）、まず学年別にみると「友達ができそうだったから」「学校の勉強に役立ちそうだったから」の項目で、学年、学校段階が上がるにしたがって割合が低くなっている。また「住んでいる町や村について、もっと詳しくなれそうだったから」の項目は、中学2年生（15.2%）、中学3年生（15.4%）では全体の約6分の1の割合となっている。性別でみると、「面白いこと、夢中になれることができそうだったから」の項目では、女子よりも男子の方が、割合が高い。反対に、「生活に役立ちそうだったから」の項目では、男子よりも女子の方が、割合が高くなっている。学年や性別によって、参加の動機に違いがみられる。

表 3-3. 『子供調査』参加の動機（複数回答）（全体／学年／性別）

(%)

		夢中になれる ことができそう	他人には できない ことができそう	大人に なれる	友達が できそう	学校の 勉強に 役立ちそう	生活に 役立ちそう	住んで いる地域 に詳しく なれそう	近所の人 と知り 合いに なれそう	特にな い	その他	無回答
全 体 (N=1,574)		47.6	36.7	5.1	18.6	10.6	11.3	10.0	4.8	12.1	11.4	4.3
学 年	小学4年生 (N=443)	47.6	36.6	6.3	24.4	13.8	12.4	10.2	4.5	11.1	11.5	2.3
	小学5年生 (N=375)	48.8	34.1	4.8	18.1	11.2	12.5	9.9	6.9	12.8	9.9	4.3
	小学6年生 (N=399)	44.4	33.1	4.3	16.8	8.8	11.5	7.5	2.5	14.5	14.3	5.3
	中学1年生 (N=161)	47.2	41.0	3.7	16.8	8.1	9.3	9.9	4.3	9.3	13.0	5.6
	中学2年生 (N=105)	50.5	41.9	6.7	10.5	5.7	5.7	15.2	7.6	12.4	8.6	4.8
	中学3年生 (N= 91)	53.8	49.5	4.4	12.1	11.0	9.9	15.4	5.5	7.7	5.5	7.7
性 別	男 子 (N=637)	50.5	35.3	4.2	17.3	11.8	8.6	11.6	6.0	9.9	10.2	4.1
	女 子 (N=927)	45.7	37.5	5.7	19.6	9.8	13.2	9.1	4.1	13.6	12.1	4.5
	無回答 (N= 10)	30.0	40.0	0.0	0.0	10.0	10.0	0.0	0.0	10.0	30.0	0.0

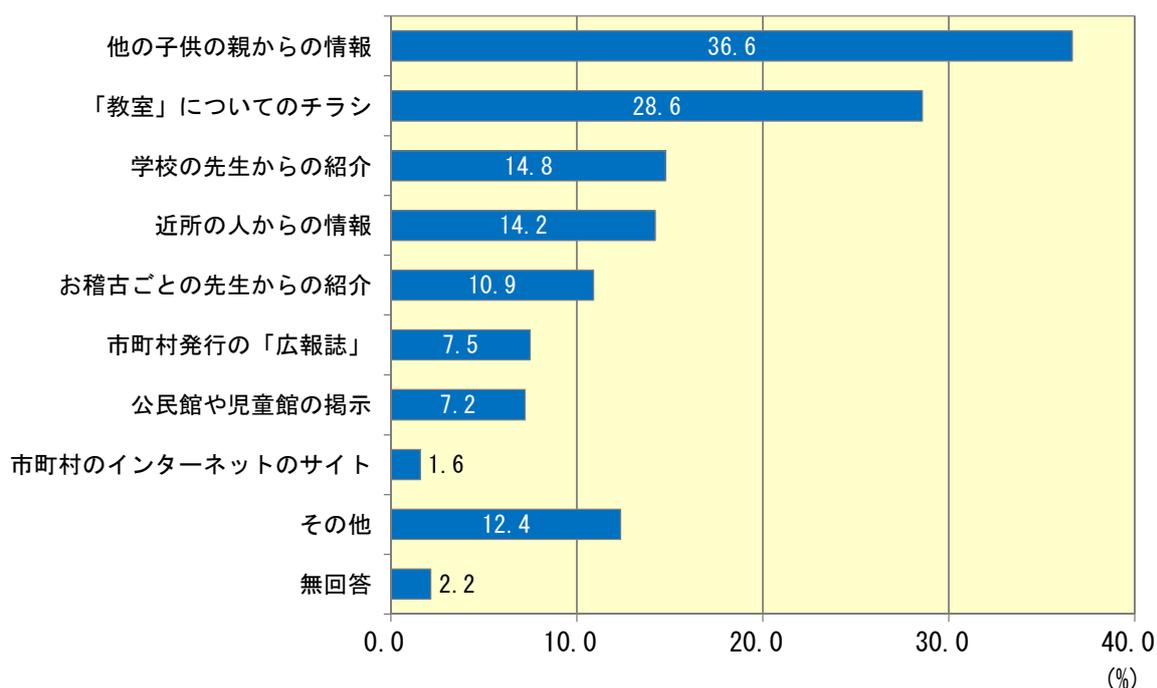
(2) 参加させた保護者の立場から

ここでは、保護者の立場から「教室」についての情報源「子供を参加させた理由」を分析していくことにする。

1) 「教室」についての情報源

保護者は、「教室」があることをどのように知ったのであろうか。「教室」についての情報源を尋ねたところ、「子供の友達の保護者からの情報」（36.6%）、「教室」についてのチラシ（28.6%）の2つが、他の情報源よりも割合が比較的高くなっている（図 3-4）。続いて「学校の先生からの紹介」（14.8%）、「近所の人からの情報」（14.2%）、「お稽古ごとの先生からの紹介」（10.9%）の順に割合が高くなっている。チラシのような紙媒体から情報を得る者がいる一方で、他の子供の親、近所の人、学校やお稽古ごとの先生といった人づてに情報を得る者もかなり多い。保護者の人脈の広さや、口コミ的な情報の重要性を窺い知ることができる。

図 3-4. 『保護者調査』「教室」についての情報源（複数回答）（全体／N=1,441）

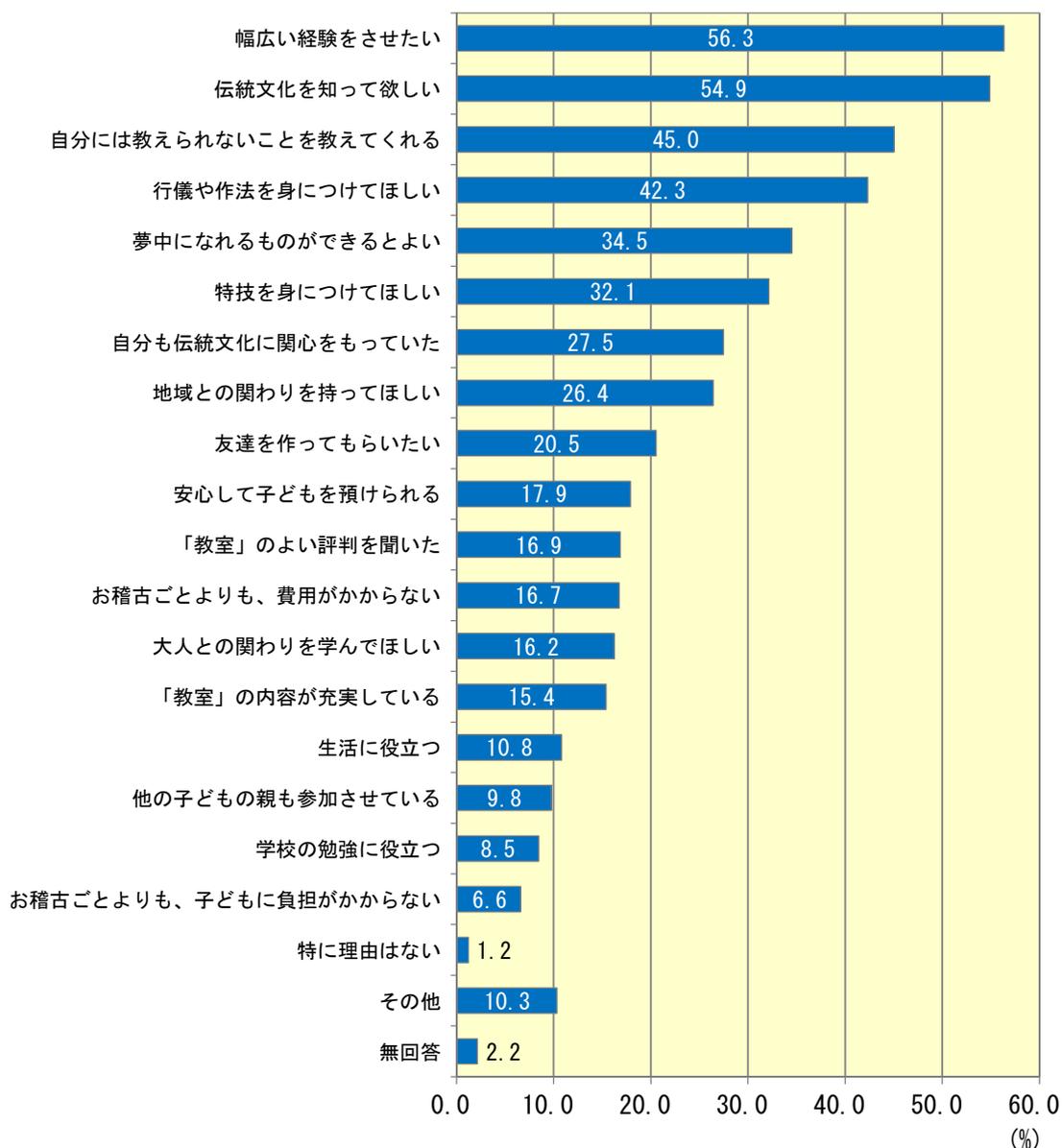


2) 子供を参加させた理由

保護者は、どのような理由で子供を「教室」に参加させたのであろうか。参加理由を尋ねたところ（図 3-5）、「子供に幅広い経験をさせたかったので」（56.3%）、「子供に伝統文化を知って欲しいと思ったので」（54.9%）の順に高くなっており、5割を超えている。続いて、「自分には教えられないことを教えてもらえるので」（45.0%）、「子供に行儀や作法を身につけてもらいたかったので」（42.3%）の順に高くなっており、4割を超えている。保護者自身が教えることができず、普段の生活では経験させることができない、伝統文化の世界にふれさせることで、様々な知識や行動様式を身につけさせたいと考えている保護者の心情を察することができる。

なお、子供の「教室」への参加理由で、約半数を示し1位に挙がっていた「面白いこと、夢中になれることができそうだったから」（『保護者調査』の項目では「子供に夢中になれるものができる」とよいと思ったので）は、保護者では4割未満にしかすぎず、順位も5位に後退している。子供と保護者との参加理由のズレの一端が垣間見られる。

図 3-5. 『保護者調査』子供を参加させた理由（複数回答）（全体/N=1,441）



本章の主要な結果をまとめると、以下のようになる。

第1に、「参加のきっかけ」では、子供は、「自分から通ってみよう」と思う者よりも、「誰かに誘われて」通い始める者の方が多い。その中でも、「両親」「友達」から誘われる者が多い。なお、性別による違いが認められた。第2に、子供の「参加の動機」では、「夢中になれる」から、「他人にはできないことができそう」だからという理由で「教室」に参加する者が多い。なお、学年別、性別による違いが認められた。第3に、保護者にとって「教室」に関する情報源となるものは、「他の子供の親」から聞いたり「教室」についてのチラシを読んだり、見たりすることが多い。第4に、保護者の「参加させた理由」では、「幅広い経験をさせたい」「伝統文化を知ってほしい」という理由が多く、「教室」の教育的な機能に期待している様子が窺える。

4. 参加による子供の変化

「親子教室」に参加したことで、子供達はどのように変わったのか。ここでは、子供自身、保護者、指導者が、変化をどのように認識しているのかについて明らかにする。

(1) 子供自身の認識

図 4-1 は、「教室」に参加するようになって自分がどのように変わったのかを子供達自身に尋ねた結果である。回答は、それぞれ、どのくらい「そう思うか」で求めている。図に示したのは、「とてもそう思う」と「まあそう思う」と答えた子供の割合である。

これをみると、「教室」に参加したことで「変化した」と思っている子供の割合は高い。また、「変化」の認識も多岐にわたっている。8割以上の子供が「そう思う」と答えた項目は、24項目中15項目である。7割以上では、20項目となっている。

特に、「変化した」とする子供が目立っているのは次の2項目である。この2項目については、9割以上の子供が変化を認めている。

ア) 習っていることが、上手にできるようになった (94.5%)

イ) 習っていることが、おもしろく感じられるようになった (94.2%)

このように、ほとんどの子供達が、「教室」に参加することで習っていることが上達したり、それに、より興味を持ったりしたと思っている。「ネ)最後まで頑張ってやり遂げようと思うことが増えた」(87.9%)とする子供も9割近くになっており、「教室」が子供達の頑張りや意欲につながった様が窺える。

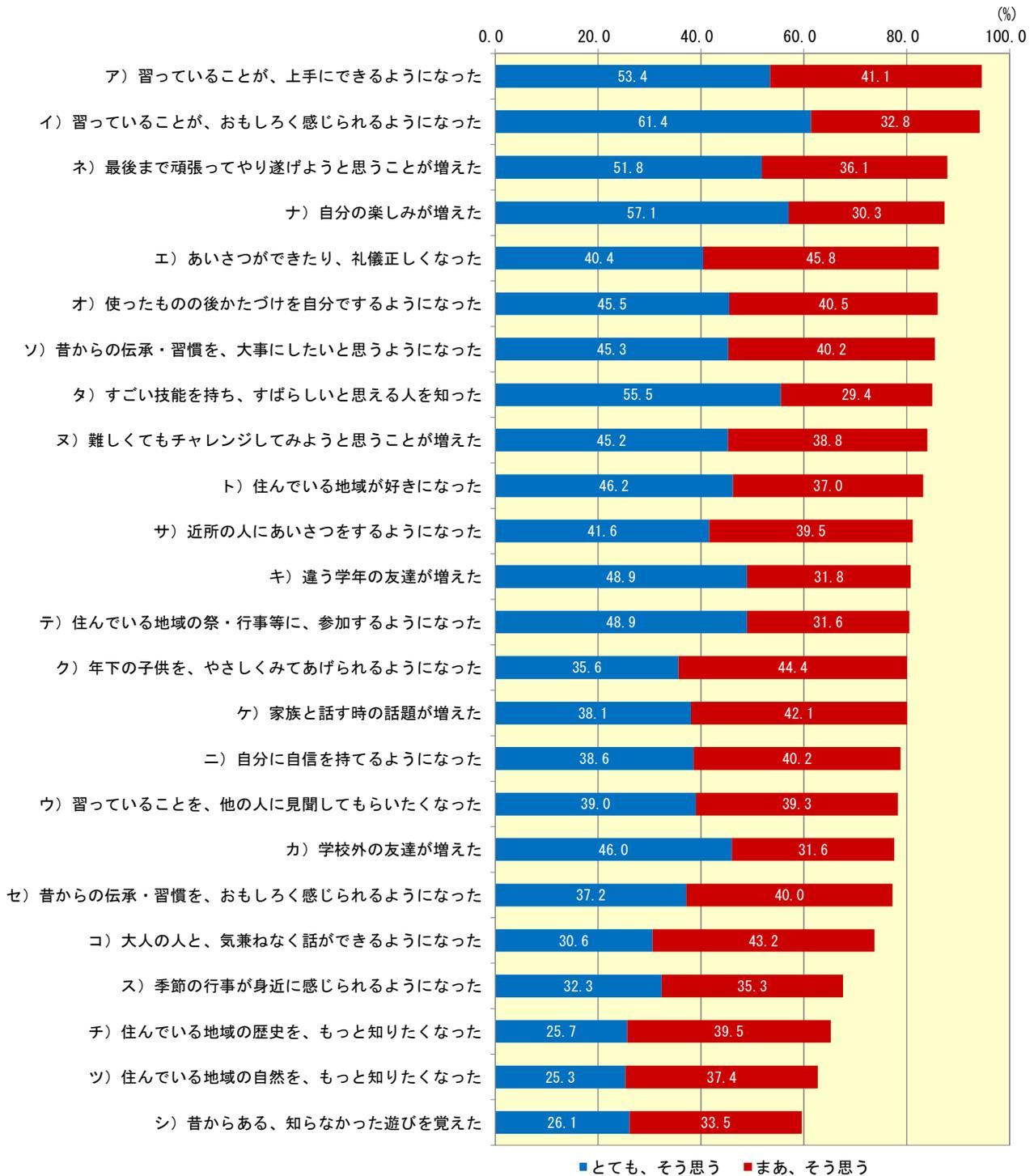
「教室」に参加することが、技量や意欲の向上につながったとする子供も目立っている。「ナ)自分の楽しみが増えた」(87.4%)とする子供や、「ヌ)難しくてもチャレンジしてみようと思うことが増えた」(84.0%)とする子供が8割を超えている。

さらに言えば、多くの子供が「教室」に参加して、あいさつや片づけなど、日常的な振る舞いも変わったとしている。「エ)あいさつができたり、礼儀正しくなった」(86.2%)、「オ)使ったものの後かたづけを、自分でするようになった」(86.0%)、「サ)近所の人にあいさつをするようになった」(81.1%)、「ケ)家の人と話す時の話題が増えた」(80.1%)とする子供の割合も高い。

伝統文化とのかかわりでは、「ソ)昔からの伝承・習慣を、大事にしたいと思うようになった」(85.5%)、「ト)住んでいるところが好きになった」(83.2%)、「テ)住んでいるところの祭・行事等に、参加するようになった」(80.5%)とする子供達が8割以上になっている。「タ)すごい技能を持ち、すばらしいと思える人を知った」(84.9%)とする子供の割合も高い。

このように、全体として「変化した」という子供が多くなっているものの、逆に、子供達が「変化」を認める割合が相対的に低いのは、「シ)昔からある、知らなかった遊びを覚えた」(59.6%)、「ツ)住んでいるところの自然を、もっと知りたくなった」(62.7%)、「チ)住んでいるところの歴史を、もっと知りたくなった」(65.2%)などである。遊びの修得や知識の獲得については、相対的に、変化が小さいという結果である。「ス)季節の行事が身近に感じられるようになった」(67.6%)とする子供の割合も、相対的に低い。

図 4-1. 『子供調査』「教室」に参加したことによる変化（子供自身の認識）（全体／N=1,574）



子供自身の認識を、「とてもそう思う」と答えた子供の割合に着目して学年及び性別にみると（表 4-1）、それほど大きな差はみて取れない。学年や性別によって「変化」の認識が大きくことなることはない。

学年や性別による違いが認められる項目についてみていくと、学年別では、「ア）習っていることが、上手にできるようになった」「イ）習っていることが、おもしろく感じられるようになった」「エ）あいさつができたり、礼儀正しくなった」「カ）学校外の友達が増えた」「キ）違う学年の友達が増えた」「タ）すごい技能を持ち、すばらしいと思える人を知った」に「とてもそう思う」と答えた子供の割合が、小学校高学年生よりも中学生で高くなっている。逆に、小学校高学年生において「とてもそう思う」とする子供の割合が高くなっ

ているのが「シ）昔からある、知らなかった遊びを覚えた」「ス）季節の行事が身近に感じられるようになった」といった項目である。小学生に比べて中学生の場合、「教室」に通うことで、技術の向上や友達が増えたなどを実感しているようである。

性別では、男子において女子よりも「ツ）住んでいる地域の自然を、もっと知りたくなった」「ト）住んでいる地域が好きになった」とする子供が多くなっている。逆に、女子では「ク）年下の子供を、やさしくみてあげられるようになった」「ス）季節の行事が身近に感じられるようになった」「ソ）昔からの伝承・習慣を、大事にしたいと思うようになった」「ネ）最後まで頑張っってやり遂げようと思うことが増えた」という子供が目立っている。

表 4-1. 『子供調査』「教室」に参加したことによる変化（子供自身の認識）（全体／学年／性別）

	（%）					
	全体 (N=1,574)	学年		性別		
		小学校 高学年生 (N=1,217)	中学生 (N=357)	男子 (N=637)	女子 (N=927)	無回答 (N=10)
ア）習っていることが、上手にできるようになった	53.4	51.5	59.9	53.5	53.3	60.0
イ）習っていることが、おもしろく感じられるようになった	61.4	60.2	65.3	60.6	61.8	70.0
ウ）習っていることを、他の人に見聞してもらいたくなった	39.0	38.5	40.6	37.0	40.3	40.0
エ）あいさつができたり、礼儀正しくなった	40.4	39.1	44.8	41.6	39.6	40.0
オ）使ったものの後かたづけを自分でするようになった	45.5	44.9	47.6	45.4	45.6	40.0
カ）学校外の友達が増えた	46.0	44.8	50.1	45.5	46.3	50.0
キ）違う学年の友達が増えた	48.9	47.7	52.9	49.0	48.8	60.0
ク）年下の子供を、やさしくみてあげられるようになった	35.6	34.8	38.7	31.7	38.0	70.0
ケ）家族と話す時の話題が増えた	38.1	37.4	40.3	37.2	38.7	30.0
コ）大人のひと、気兼ねなく話ができるようになった	30.6	30.3	31.4	30.8	30.4	30.0
サ）近所の人にあいさつをするようになった	41.6	42.2	39.5	42.7	41.0	30.0
シ）昔からある、知らなかった遊びを覚えた	26.1	28.3	18.5	24.6	27.1	30.0
ス）季節の行事が身近に感じられるようになった	32.3	33.7	27.7	27.9	35.2	50.0
セ）昔からの伝承・習慣を、おもしろく感じられるようになった	37.2	37.6	35.6	34.4	39.2	30.0
ソ）昔からの伝承・習慣を、大事にしたいと思うようになった	45.3	44.9	46.5	42.2	47.5	40.0
タ）すごい技能を持ち、すばらしいと思える人を知った	55.5	53.6	62.2	54.9	55.8	70.0
チ）住んでいる地域の歴史を、もっと知りたくなった	25.7	26.4	23.2	28.3	23.6	50.0
ツ）住んでいる地域の自然を、もっと知りたくなった	25.3	26.4	21.6	28.4	22.8	60.0
テ）住んでいる地域の祭・行事等に、参加するようになった	48.9	50.0	45.1	51.8	47.0	40.0
ト）住んでいる地域が好きになった	46.2	47.0	43.4	49.3	43.8	70.0
ナ）自分の楽しみが増えた	57.1	56.9	57.7	55.3	58.1	70.0
ニ）自分に自信を持てるようになった	38.6	39.2	36.4	38.8	38.3	50.0
ヌ）難しくてもチャレンジしてみようと思うことが増えた	45.2	45.4	44.5	44.9	45.5	40.0
ネ）最後まで頑張っってやり遂げようと思うことが増えた	51.8	51.9	51.3	48.7	53.9	50.0

注）「とても、そう思う」の割合

※網掛け部分：「小学校高学年生」と「中学生」、あるいは「男子」と「女子」の間で5%以上の差があった項目

参加している「教室」の分野に着目してみると（表 4-2）、「民俗芸能」の「教室」に参加している子供において、「ア）習っていることが、上手にできるようになった」「ウ）習っていることを、他の人に見聞してもらいたくなった」「エ）あいさつができたり、礼儀正しくなった」「オ）使ったものの後かたづけを自分でするようになった」「カ）学校外の友達が増えた」「キ）違う学年の友達が増えた」「ケ）家族と話す時の話題が増えた」「コ）大人のひと、気兼ねなく話ができるようになった」「ソ）昔からの伝承・習慣を、大事にしたいと思うようになった」「チ）住んでいる地域の歴史を、もっと知りたくなった」「テ）住んでいる地域の祭・行事等に、参加するようになった」とする子供の割合が高くなっている。「民俗芸能」の場合、地域との繋がりが密接である。「民俗芸能」に関わる教室に参加した子供たちは、他の種類の「教室」に参加した子供達に比べて、自分が住んでいるところの割合に、より目を向けるようになったようである。

「古典芸能」では、「セ）昔からの伝承・習慣を、おもしろく感じられるようになった」とする子供の割合が高くなっている。「古典芸能」では、技芸を磨いてそれを表現することが多い。難しいことに挑戦し、技芸

を極めることは、子供自身の自信につながっていくであろう。

「生活文化」では、「イ）習っていることが、おもしろく感じられるようになった」「ス）季節の行事が身近に感じられるようになった」とする子供が目立っている。「生活文化」の関わる「教室」は、暮らしに密着しており、その分、子供達の日常生活への影響も強いことが推察される。

「その他」では、「ク）年下の子供を、やさしくみてあげられるようになった」「サ）近所の人にあいさつをするようになった」「シ）昔からある、知らなかった遊びを覚えた」「タ）すごい技能を持ち、素晴らしいと思える人を知った」「ツ）住んでいる地域の自然を、もっと知りたくなった」「ト）住んでいる地域が好きになった」「ナ）自分の楽しみが増えた」「ニ）自分に自信を持てるようになった」「ヌ）難しくてもチャレンジしてみようと思うことが増えた」「ネ）最後まで頑張っってやり遂げようと思うことが増えた」とする子供の割合が高くなっている。「その他」の中心は「武道」であり、その「武道」に代表される「教室」に参加している子供達は、礼儀作法を重じることや、意欲の向上にもつながった傾向がみとれる。

表 4-2. 『子供調査』「教室」に参加したことによる変化（子供自身の認識）
（全体／参加している「教室」の分野別）

	(%)				
	全体 (N=1,574)	参加している「教室」の分野（大分類）			
		民俗芸能 (N=563)	古典芸能 (N=421)	生活文化 (N=540)	その他 (N=274)
ア）習っていることが、上手にできるようになった	53.4	55.6	51.3	50.6	51.8
イ）習っていることが、おもしろく感じられるようになった	61.4	60.6	58.7	65.7	59.1
ウ）習っていることを、他の人に見聞してもらいたくなった	39.0	46.4	41.3	32.2	39.8
エ）あいさつができた、礼儀正しくなった	40.4	45.5	41.1	37.0	39.1
オ）使ったものの後かたづけを自分でするようになった	45.5	48.1	42.8	45.2	44.2
カ）学校外の友達が増えた	46.0	52.2	44.2	41.5	45.3
キ）違う学年の友達が増えた	48.9	57.4	47.0	44.3	47.1
ク）年下の子供を、やさしくみてあげられるようになった	35.6	37.5	35.9	33.3	40.5
ケ）家族と話す時の話題が増えた	38.1	40.7	36.1	39.3	35.0
コ）大人のひと、気兼ねなく話ができるようになった	30.6	34.6	29.5	28.3	28.5
サ）近所の人にあいさつをするようになった	41.6	44.6	42.0	38.9	47.1
シ）昔からある、知らなかった遊びを覚えた	26.1	22.2	27.8	28.1	32.5
ス）季節の行事が身近に感じられるようになった	32.3	30.6	33.7	35.2	34.3
セ）昔からの伝承・習慣を、おもしろく感じられるようになった	37.2	39.4	39.7	34.6	37.6
ソ）昔からの伝承・習慣を、大事にしたいと思うようになった	45.3	50.4	47.0	39.8	44.9
タ）すごい技能を持ち、素晴らしいと思える人を知った	55.5	55.6	54.6	55.9	56.6
チ）住んでいる地域の歴史を、もっと知りたくなった	25.7	31.1	26.1	21.1	28.1
ツ）住んでいる地域の自然を、もっと知りたくなった	25.3	28.6	25.2	22.0	28.8
テ）住んでいる地域の祭・行事等に、参加するようになった	48.9	66.8	46.3	31.5	48.9
ト）住んでいる地域が好きになった	46.2	52.0	45.1	37.6	55.5
ナ）自分の楽しみが増えた	57.1	56.5	52.0	59.1	59.5
ニ）自分に自信を持てるようになった	38.6	39.1	36.8	39.3	40.9
ヌ）難しくてもチャレンジしてみようと思うことが増えた	45.2	45.5	45.1	43.7	49.6
ネ）最後まで頑張っってやり遂げようと思うことが増えた	51.8	52.8	49.6	50.6	54.0

注）「とても、そう思う」の割合

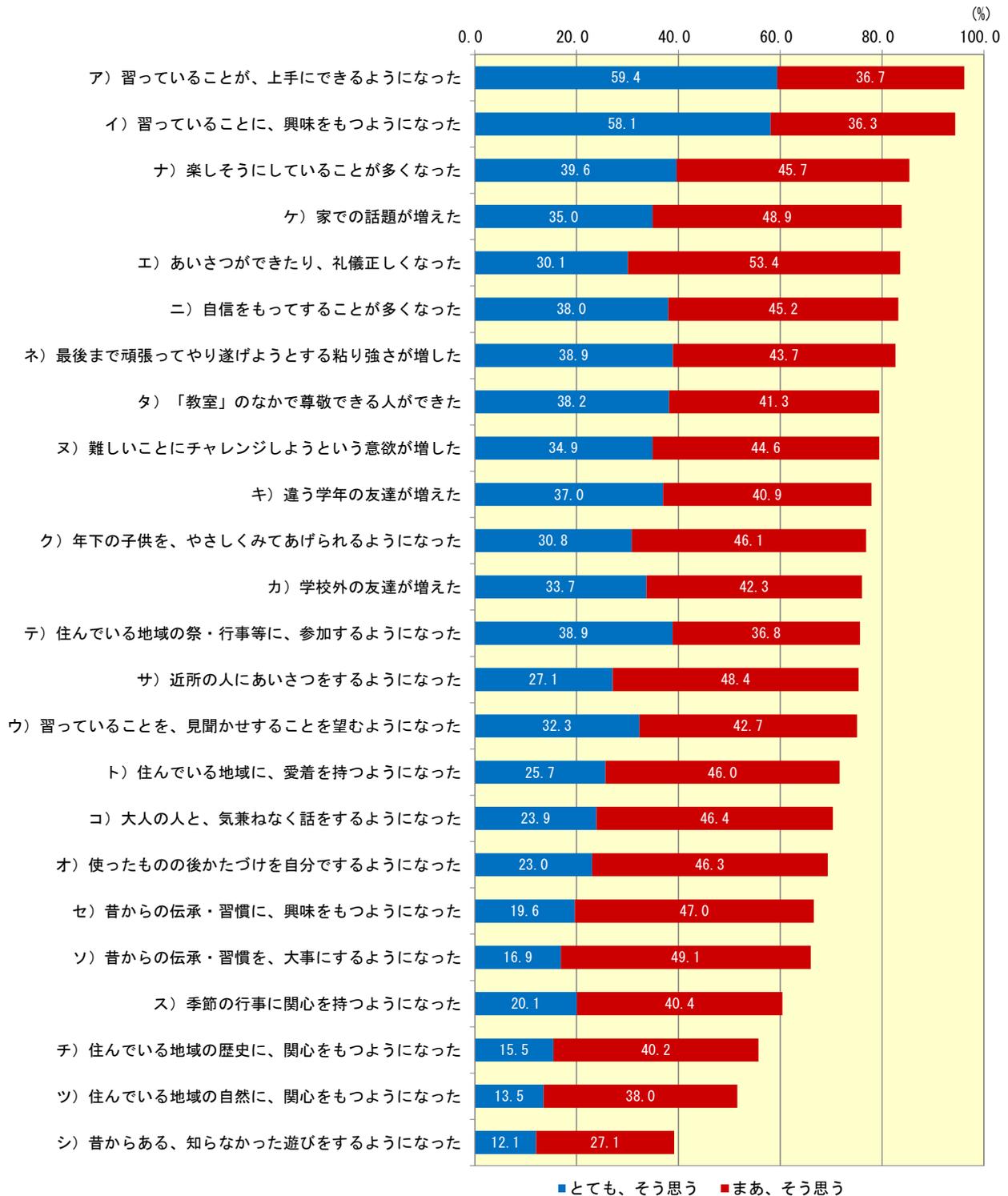
※網掛け部分：「とても、そう思う」の割合が最も高かった分野

(2) 保護者の認識

次に、『保護者調査』の結果をもとに、「教室」に参加したことによる子供の変化を保護者がどのように認識しているかについてみておく。

図 4-2 は、その結果である。保護者においても、参加することによる「子供の変化」を認める傾向が強い。8 割以上の保護者が「そう思う」とした項目は、24 項目中 7 項目であり、7 割以上の保護者まで広げると、その項目の数は 17 項目に及んでいる。

図 4-2. 『保護者調査』「教室」に参加したことによる子供の変化（保護者の認識）（全体／N=1,441）



では、どのようなところに子供の変化をみているのであろうか。結果をみると、特に、多くの保護者が見取っている子供の変化は、子供自身の場合と同様、「ア）習っていることが、上手にできるようになった」「イ）習っていることに、興味をもつようになった」である。「ナ）楽しそうにしていることが多くなった」とする保護者の割合も高い。保護者の場合には、子供の家での様子にも目が止まるのであろう。「ケ）家での話題が増えた」ことも認めている。

逆に、相対的に「変化」が認められる度合いが低いのは、「シ）昔からある、知らなかった遊びをするよう

になった」「ツ)住んでいる地域の自然に、関心をもつようになった」「チ)住んでいる地域の歴史に、関心をもつようになった」「ス)季節の行事に関心を持つようになった」ということがらである。「教室」への参加によって、子供が地域のことや遊び、行事を知ることになったとする割合は、他のことがらに比べて、相対的に低くなっている。

表 4-3 は、保護者が認める子供の変化を、子供の学年及び性別にみたものである。これをみると、学年では、子供が中学生の保護者に、「教室」に参加したことによる子供の変化を見て取る傾向が強いようである。「とてもそう思う」とする保護者の割合が、多くの項目において子供が小学生の保護者より高くなっている。この点について、両者の間で 5%以上の違いがあった項目を挙げておくと、「ア)習っていることが、上手にできるようになった」「イ)習っていることが、おもしろく感じられるようになった」「エ)あいさつができた、礼儀正しくなった」「オ)使ったものの後かたづけを自分でするようになった」「カ)学校外の友達が増えた」「キ)違う学年の友達が増えた」「ク)年下の子供を、やさしくみてあげられるようになった」「ケ)家族と話す時の話題が増えた」「コ)大人のひと、気兼ねなく話ができるようになった」「サ)近所の人にあいさつをするようになった」「タ)すごい技能を持ち、すばらしいと思える人を知った」「テ)住んでいる地域の祭・行事等に、参加するようになった」「ナ)自分の楽しみが増えた」「ヌ)難しくてもチャレンジしてみようと思うことが増えた」「ネ)最後まで頑張ってもやり遂げようと思うことが増えた」といった項目がそれに該当する。子供が中学生の場合には、小学生である場合と比べて、「教室」に参加させた結果として子供の人間関係が変わったとみる傾向が認められる。中学生の保護者の場合、子供の人間関係の変化に「教室」の効果をみているものと推測される。

表 4-3. 『保護者調査』「教室」に参加したことによる子供の変化（保護者の認識）
（全体／子供の学年／子供の性別）

	(%)					
	全体 (N=1,441)	子供の学年		子供の性別		無回答 (N=68)
	小学校 高学年生 (N=1,119)	中学生 (N=322)	男子 (N=562)	女子 (N=811)		
ア) 習っていることが、上手にできるようになった	59.4	56.3	70.2	57.3	60.4	64.7
イ) 習っていることが、おもしろく感じられるようになった	58.1	56.8	62.4	55.2	59.7	63.2
ウ) 習っていることを、他の人に見聞してもらいたくなった	32.3	32.0	33.5	30.1	32.9	44.1
エ) あいさつができた、礼儀正しくなった	30.1	27.3	39.8	30.8	28.9	39.7
オ) 使ったものの後かたづけを自分でするようになった	23.0	21.5	28.3	18.5	25.3	33.8
カ) 学校外の友達が増えた	33.7	31.1	42.9	31.1	34.3	48.5
キ) 違う学年の友達が増えた	37.0	35.1	43.5	35.8	36.6	51.5
ク) 年下の子供を、やさしくみてあげられるようになった	30.8	29.3	36.0	28.8	30.9	45.6
ケ) 家族と話す時の話題が増えた	35.0	33.2	41.0	32.6	35.8	45.6
コ) 大人のひと、気兼ねなく話ができるようになった	23.9	22.5	28.9	23.0	23.9	32.4
サ) 近所の人にあいさつをするようになった	27.1	24.9	34.5	28.5	24.9	41.2
シ) 昔からある、知らなかった遊びを覚えた	12.1	12.9	9.3	11.6	11.6	22.1
ス) 季節の行事が身近に感じられるようになった	20.1	20.0	20.2	17.3	21.1	30.9
セ) 昔からの伝承・習慣を、おもしろく感じられるようになった	19.6	19.4	20.5	17.6	20.2	29.4
ソ) 昔からの伝承・習慣を、大事にしたいと思うようになった	16.9	16.6	18.0	15.8	16.9	26.5
タ) すごい技能を持ち、すばらしいと思える人を知った	38.2	35.7	46.9	38.1	37.5	47.1
チ) 住んでいる地域の歴史を、もっと知りたくなった	15.5	14.9	17.4	16.0	13.8	30.9
ツ) 住んでいる地域の自然を、もっと知りたくなった	13.5	12.8	16.1	12.5	13.3	25.0
テ) 住んでいる地域の祭・行事等に、参加するようになった	38.9	37.2	44.7	42.0	35.5	52.9
ト) 住んでいる地域が好きになった	25.7	24.6	29.5	28.6	22.9	33.8
ナ) 自分の楽しみが増えた	39.6	38.5	43.5	39.7	39.0	47.1
ニ) 自分に自信を持てるようになった	38.0	37.4	40.1	37.9	37.7	42.6
ヌ) 難しくてもチャレンジしてみようと思うことが増えた	34.9	33.7	39.1	34.5	34.9	38.2
ネ) 最後まで頑張ってもやり遂げようと思うことが増えた	38.9	37.0	45.7	37.0	40.1	41.2

注) 「とても、そう思う」の割合

※網掛け部分：「小学校高学年生」と「中学生」、あるいは「男子」と「女子」の間で5%以上の差があった項目

性別ではどうか。子供が男子の保護者と女子の保護者である場合とで、見て取る子供の変化に大きな違いはみられない。その上で特徴的な違いとして、両者の間で「とてもそう思う」に答えた人の割合が5%以上、違っていた項目をあげておく。「オ)使ったものの後かたづけを自分でするようになった」は、女子の保護者において、「とてもそう思う」の割合が高くなっている。一方、「テ)住んでいる地域の祭・行事等に、参加するようになった」「ト)住んでいる地域が好きになった」といった項目は、男子の保護者において、「とてもそう思う」の割合が高くなっている。男子の保護者は、女子の保護者に比べて、子供を「教室」に参加させることで、その子の地域との関わり合いが変わったとみる傾向にある。

先にみたように、参加している「教室」の分野によって子供達は自身の変化について、幾分、異なった捉え方をしていた。保護者の捉え方ではどうか。表 4-4 は、保護者の捉えた子供の変化を「教室」の分野別にみたものである。値は、「とても、そう思う」の割合である。

表 4-4. 『保護者調査』「教室」に参加したことによる子供の変化（保護者の認識）
（全体／参加している「教室」の分野別）

	(%)				
	全体 (N=1,441)	参加している「教室」の分野（大分類）			
		民俗芸能 (N=500)	古典芸能 (N=374)	生活文化 (N=444)	その他 (N=238)
ア) 習っていることが、上手にできるようになった	59.4	62.0	59.6	59.0	57.1
イ) 習っていることが、おもしろく感じられるようになった	58.1	58.2	52.7	61.7	55.9
ウ) 習っていることを、他の人に見聞してもらいたくなった	32.3	37.2	36.1	30.2	31.5
エ) あいさつができた、礼儀正しくなった	30.1	31.6	29.1	25.0	36.6
オ) 使ったものの後かたづけを自分でするようになった	23.0	23.4	23.5	22.1	22.3
カ) 学校外の友達が増えた	33.7	41.2	29.1	30.0	29.8
キ) 違う学年の友達が増えた	37.0	48.0	33.2	29.1	34.5
ク) 年下の子供を、やさしくみてあげられるようになった	30.8	36.0	30.5	22.7	36.6
ケ) 家族と話す時の話題が増えた	35.0	36.8	29.7	37.2	36.1
コ) 大人の人と、気兼ねなく話ができるようになった	23.9	26.4	26.7	18.9	25.2
サ) 近所の人にあいさつをするようになった	27.1	30.8	28.1	18.0	37.8
シ) 昔からある、知らなかった遊びを覚えた	12.1	10.2	12.0	15.1	15.5
ス) 季節の行事が身近に感じられるようになった	20.1	18.0	21.1	22.1	23.5
セ) 昔からの伝承・習慣を、おもしろく感じられるようになった	19.6	17.6	21.1	22.7	19.3
ソ) 昔からの伝承・習慣を、大事にしたいと思うようになった	16.9	16.4	19.3	16.9	16.0
タ) すごい技能を持ち、すばらしいと思える人を知った	38.2	36.4	41.4	38.5	37.4
チ) 住んでいる地域の歴史を、もっと知りたくなった	15.5	20.0	15.2	11.0	15.1
ツ) 住んでいる地域の自然を、もっと知りたくなった	13.5	16.8	12.8	12.8	13.0
テ) 住んでいる地域の祭・行事等に、参加するようになった	38.9	57.4	39.0	21.8	36.6
ト) 住んでいる地域が好きになった	25.7	31.0	24.1	18.2	29.0
ナ) 自分の楽しみが増えた	39.6	38.6	37.4	36.9	48.3
ニ) 自分に自信を持てるようになった	38.0	36.0	37.4	35.1	47.1
ヌ) 難しくてもチャレンジしてみようと思うことが増えた	34.9	33.4	36.1	33.6	42.4
ネ) 最後まで頑張っやうと逃げようと思うことが増えた	38.9	36.0	39.6	36.0	48.7

注) 「とても、そう思う」の割合

※網掛け部分：「とても、そう思う」の割合が最も高かった分野

これをみると、まず「民俗芸能」の「教室」に子供を通わせている保護者では、子供が「教室」に参加したことで「ア)習っていることが、上手にできるようになった」「ウ)習っていることを、他の人に見聞してもらいたくなった」「カ)学校外の友達が増えた」「キ)違う学年の友達が増えた」「チ)住んでいる地域の歴史を、もっと知りたくなった」「ツ)住んでいる地域の自然を、もっと知りたくなった」「テ)住んでいる地域の祭・行事等に、参加するようになった」「ト)住んでいる地域が好きになった」とする保護者の割合が高くなって

いる。この点について、地域との繋がりが密接である「民俗芸能」の特徴が反映された結果と言える。

「古典芸能」の分野では、子供が「オ）使ったものの後かたづけを自分でするようになった」「コ）大人のひと、気兼ねなく話ができるようになった」「ソ）昔からの伝承・習慣を、大事にしたいと思うようになった」「タ）すごい技能を持ち、すばらしいと思える人を知った」とする保護者の割合が、他に比べて高くなっている。これもまた、「古典芸能」の特徴を反映していると言えよう。

「生活文化」の分野では、「イ）習っていることが、おもしろく感じられるようになった」「ケ）家族と話す時の話題が増えた」「セ）昔からの伝承・習慣を、おもしろく感じられるようになった」とする保護者の割合が高くなっている。この点についても、分野の特徴が反映されているものと推測される。

「武道」を中心とする「その他」の分野では、「エ）あいさつができたり、礼儀正しくなった」「ク）年下の子供を、やさしくみてあげられるようになった」「サ）近所の人にあいさつをするようになった」「シ）昔からある、知らなかった遊びを覚えた」「ス）季節の行事が身近に感じられるようになった」「ナ）自分の楽しみが増えた」など、良好な人間関係を築けるようになったことや、「武道」の特徴が、保護者の子供の変化についての見方に反映されているとみることができる。他にも、「ニ）自分に自信を持てるようになった」「ヌ）難しくてもチャレンジしてみようと思うことが増えた」「ネ）最後まで頑張ってやり遂げようと思うことが増えた」など、意欲の向上につながったとみる保護者の割合も高くなっている。

以上、みてきたように、「教室」に子供を通わせている保護者たちは、分野に特徴的な変化を子供に見て取っている。保護者は子供が通っている「教室」の分野を前提に質問に回答しており、その点でこのような結果が出ることは十分に予想される場所ではあるが、保護者が捉えるところによれば、「教室」はその活動に内在する特徴に沿って子供を変化させている。「教室」は、子供の人間形成に有効であり得ていることを窺わせる結果である。

(3) 指導者の認識

「子供の変化」を「教室」の指導に携わっている指導者は、どのように捉えているであろうか。図4-3は、指導者に尋ねた結果である。これをみると、各項目において子供が「変化した」とする指導者の割合は極めて高くなっている。しかも、そうした項目が多岐にわたっている。9割以上の指導者が、「そう思う」とする項目は、19項目中10項目であり、8割以上では、13項目となっている。

上位に位置している項目は、「ア）習っていることが、上手にできるようになった」「イ）習っていることに、興味をもつようになった」「テ）最後まで頑張ってやり遂げようとする粘り強さが増した」といった項目である。「教室」で行っていることについて、上達したり興味を持つようになったりすると同時に、物事をやり遂げる力がついたと指導者は捉えている。さらに特徴的なのは、「エ）あいさつができたり、礼儀正しくなった」「オ）使ったものの後かたづけを自分でするようになった」とする指導者が多くなっていることである。「ク）年下の子供を、やさしくみてあげられるようになった」も含めて、指導者には、「教室」への参加が基本的な生活習慣の獲得につながったとする傾向が認められる。全体的に「変化した」とする割合が高いなかで、相対的にその割合が低いのは、「コ）昔からある、知らなかった遊びをするようになった」「ソ）住んでいる地域の自然に、関心をもつようになった」「サ）季節の行事に関心を持つようになった」「セ）住んでいる地域の歴史に、関心をもつようになった」といった項目である。保護者の場合と同様、「教室」への参加は、相対的にみて、地域のことや遊び、行事について知ることになりにくいとする傾向にある。

図 4-3. 『指導者調査』「教室」に参加したことによる子供の変化（指導者の認識）（全体／N=375）

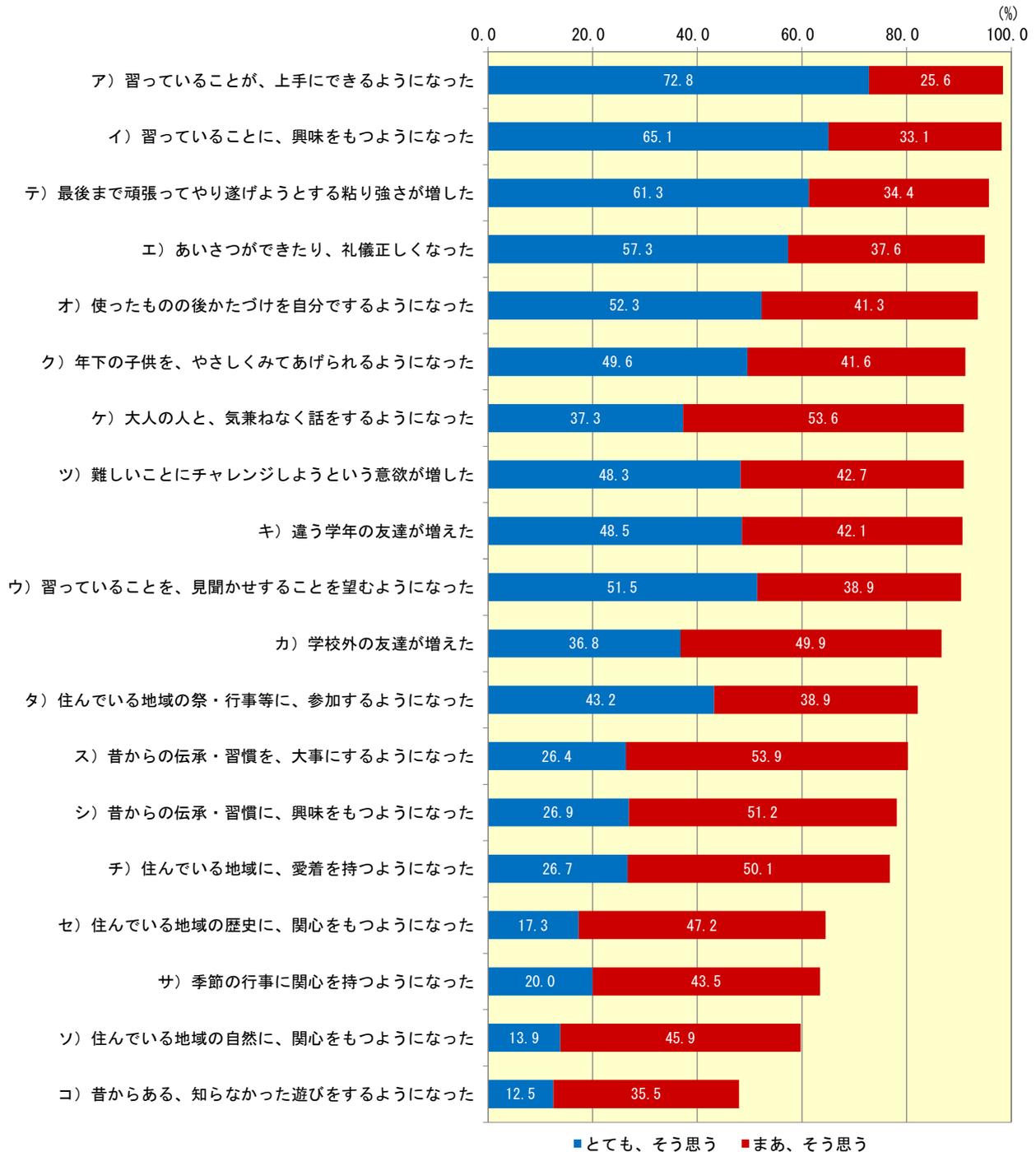


表 4-5 は、指導者からみた子供の変化を、指導者の年齢・性別にみたものである。これをみると、年齢の低い指導者において「とてもそう思う」とする人の割合が高くなっている。特に 40 歳代以下の指導者には、その傾向が強く、「教室」に参加したことによる子供の変化を大きく捉える傾向が見て取れる。年齢の低い指導者が、特に大きく認める子供の変化は、子供の友人関係における変化である。「教室」に参加したことによって、「イ)習っていることに、興味をもつようになった」「サ)季節の行事に関心を持つようになった」「シ)昔からの伝承・習慣に、興味をもつようになった」「テ)最後まで頑張ってやり遂げようとする粘り強さが増した」とする指導者の割合が、年長の指導者よりもかなり高くなっている。

性別では、男性の指導者よりも女性の指導者の方が子供の変化を大きく捉える傾向にあり、「とてもそう思

う」という人の割合は、女性の指導者で高くなっている。「変化」の詳細をみると、女性の指導者においては、第一に、日常生活習慣に「子供の変化」を見て取る傾向にある。「エ）あいさつができた、礼儀正しくなった」「オ）使ったものの後かたづけを、自分でするようになった」といった項目において、「とてもそう思う」とする者の割合が高くなっている。第二には、行事や伝承・習慣に対する構えの変化である。男性の指導者に比べて、「教室」に参加したことで子供達は、「サ）季節の行事に関心を持つようになった」「シ）昔からの伝承・習慣に、興味をもつようになった」「ス）昔からの伝承・習慣を、大事にするようになった」とする傾向が見て取れる。第三には、意欲や態度における変化である。男性の指導者と比べると、「教室」へ参加した子供達に、「ツ）難しいことにチャレンジしようという意欲が増した」「テ）最後まで頑張ってやり遂げようとする粘り強さが増した」点での変化を、より大きく認めている。

表 4-5. 『指導者調査』「教室」に参加したことによる子供の変化（指導者の認識）
（全体／指導者の年齢／性別）

	全体 (N=375)	指導者の年齢						性別		
		～39歳 (N=47)	40歳～ 49歳 (N=62)	50歳～ 59歳 (N=66)	60歳～ 69歳 (N=110)	70歳～ (N=82)	無回答 (N=7)	男性 (N=182)	女性 (N=186)	無回答 (N=7)
ア) 習っていることが、上手にできるようになった	72.8	81.3	79.0	71.2	76.4	62.2	42.9	69.2	77.4	42.9
イ) 習っていることに、興味をもつようになった	65.1	68.8	72.6	57.6	69.1	62.2	14.3	53.8	77.4	28.6
ウ) 習っていることを、見聞かせすることを望むようになった	51.5	58.3	40.3	56.1	58.2	46.3	14.3	40.7	62.9	28.6
エ) あいさつができた、礼儀正しくなった	57.3	64.6	61.3	56.1	60.0	51.2	14.3	50.0	65.6	28.6
オ) 使ったものの後かたづけを自分でするようになった	52.3	56.3	48.4	48.5	58.2	51.2	14.3	42.9	62.4	28.6
カ) 学校外の友達が増えた	36.8	33.3	58.1	37.9	29.1	34.1	14.3	31.9	41.9	28.6
キ) 違う学年の友達が増えた	48.5	45.8	59.7	60.6	43.6	41.5	14.3	46.7	51.1	28.6
ク) 年下の子供を、やさしくみてあげられるようになった	49.6	41.7	50.0	54.5	55.5	45.1	14.3	44.5	55.4	28.6
ケ) 大人の人と、気兼ねなく話をするようになった	37.3	39.6	46.8	48.5	26.4	36.6	14.3	31.3	43.5	28.6
コ) 昔からある、知らなかった遊びをするようになった	12.5	18.8	16.1	16.7	9.1	8.5	0.0	11.5	13.4	14.3
サ) 季節の行事に関心を持つようになった	20.0	20.8	30.6	19.7	16.4	18.3	0.0	18.1	22.0	14.3
シ) 昔からの伝承・習慣に、興味をもつようになった	26.9	37.5	35.5	25.8	24.5	20.7	0.0	23.1	31.2	14.3
ス) 昔からの伝承・習慣を、大事にするようになった	26.4	33.3	32.3	19.7	28.2	23.2	0.0	23.6	29.6	14.3
セ) 住んでいる地域の歴史に、関心をもつようになった	17.3	18.8	19.4	12.1	19.1	17.1	14.3	18.1	16.1	28.6
ソ) 住んでいる地域の自然に、関心をもつようになった	13.9	12.5	22.6	7.6	13.6	13.4	14.3	11.5	15.6	28.6
タ) 住んでいる地域の祭・行事等に、参加するようになった	43.2	54.2	45.2	43.9	39.1	42.7	14.3	46.7	40.3	28.6
チ) 住んでいる地域に、愛着を持つようになった	26.7	39.6	27.4	22.7	22.7	29.3	0.0	27.5	26.3	14.3
ツ) 難しいことにチャレンジしようという意欲が増した	48.3	54.2	48.4	48.5	50.9	43.9	14.3	37.4	59.7	28.6
テ) 最後まで頑張ってやり遂げようとする粘り強さが増した	61.3	68.8	71.0	56.1	63.6	54.9	14.3	52.7	71.0	28.6

注) 「とても、そう思う」の割合

表 4-6 は、指導している「教室」の分野別の結果である。これをみると、「民俗芸能」を指導している指導者にとっては、「教室」に参加したことによる子供達の変化を、「タ）住んでいる地域の祭・行事等に、参加するようになった」といった点で捉える傾向が顕著である。「民俗芸能」であればこそ、その「教室」に参加した子供達も上記のような変化を遂げるのであろうし、また、このような分野の指導に携わっていればこそ、その指導者達も上記のような変化に目を止めていると言える。

「古典芸能」についてはどうか。この分野の指導者に顕著なのは、「教室」に参加することで、子供達は「ツ）難しいことにチャレンジしようという意欲が増した」「テ）最後まで頑張ってやり遂げようとする粘り強さが増した」とする傾向である。極めることが目指される「古典芸能」の世界であればこそその子供達の変化であり、それをみる指導者の視線であると言える。ちなみに、「エ）あいさつができた、礼儀正しくなった」「オ）使ったものの後かたづけを、自分でするようになった」という点で子供達は変化した、とする指導者の割合が高い点にも、この分野の特徴が見て取れる。

「生活文化」では、他の分野と比べると全体的に割合が低くなっている。この分野の代表は「茶道や華道」であるが、こうした結果にも「生活文化」の「教室」としての特徴と言えるのかもしれない。

「その他」の分野では、「サ）季節の行事に関心を持つようになった」「シ）昔からの伝承・習慣に、興味を

もつようになった」「ソ)住んでいる地域の自然に、関心をもつようになった」といった項目において、「そう思う」とする指導者の割合が他の分野と比べて高くなっている。

表 4-6. 『指導者調査』「教室」に参加したことによる子供の変化（指導者の認識）
（全体／指導している「教室」の分野別）

	(%)				
	全体 (N=375)	指導している「教室」の分野（大分類）			
		民俗芸能 (N=129)	古典芸能 (N=93)	生活文化 (N=123)	その他 (N=64)
ア) 習っていることが、上手にできるようになった	72.8	76.7	84.9	61.0	67.2
イ) 習っていることに、興味をもつようになった	65.1	58.9	78.5	61.0	71.9
ウ) 習っていることを、見聞かせすることを望むようになった	51.5	51.9	67.7	40.7	48.4
エ) あいさつができたり、礼儀正しくなった	57.3	51.9	72.0	54.5	59.4
オ) 使ったものの後かたづけを自分でするようになった	52.3	48.1	60.2	51.2	54.7
カ) 学校外の友達が増えた	36.8	40.3	39.8	30.9	37.5
キ) 違う学年の友達が増えた	48.5	51.9	55.9	38.2	59.4
ク) 年下の子供を、やさしくみてあげられるようになった	49.6	57.4	60.2	33.3	54.7
ケ) 大人の人と、気兼ねなく話をするようになった	37.3	39.5	40.9	30.1	46.9
コ) 昔からある、知らなかった遊びをするようになった	12.5	10.9	9.7	13.0	17.2
サ) 季節の行事に関心を持つようになった	20.0	17.1	16.1	22.8	35.9
シ) 昔からの伝承・習慣に、興味をもつようになった	26.9	21.7	32.3	27.6	42.2
ス) 昔からの伝承・習慣を、大事にするようになった	26.4	26.4	30.1	21.1	40.6
セ) 住んでいる地域の歴史に、関心をもつようになった	17.3	25.6	20.4	6.5	29.7
ソ) 住んでいる地域の自然に、関心をもつようになった	13.9	14.7	15.1	8.9	25.0
タ) 住んでいる地域の祭・行事等に、参加するようになった	43.2	75.2	40.9	17.1	39.1
チ) 住んでいる地域に、愛着を持つようになった	26.7	34.1	25.8	17.1	32.8
ツ) 難しいことにチャレンジしようという意欲が増した	48.3	43.4	60.2	40.7	51.6
テ) 最後まで頑張っってやり遂げようとする粘り強さが増した	61.3	62.0	75.3	48.8	67.2

注) 「とても、そう思う」の割合

(4) 指導者<放課後子供教室・土曜日の教育活動>の認識

放課後子供教室・土曜日の教育活動の「教室」の指導に携わっている指導者は、「子供の変化」をどのように捉えているであろうか。図 4-4 は、指導者に尋ねた結果である。これをみると、各項目において子供が「変化した」とする指導者の割合は極めて高くなっている。しかも、そうした項目が多岐にわたっている。9 割以上の指導者が、「そう思う」とする項目は、19 項目中 7 項目であり、8 割以上では、10 項目となっている。

「イ)習っていることに、興味をもつようになった」が 10 割となっているほか、その他に上位に位置している項目は、「エ)あいさつができたり、礼儀正しくなった」「ア)習っていることが、上手にできるようになった」「テ)最後まで頑張っってやり遂げようとする粘り強さが増した」といった項目である。伝統文化親子教室と同様に、放課後子供教室・土曜日の教育活動の「教室」で行っていることについて、上達したり興味を持つようになったりすると同時に、物事をやり遂げる力がついたと指導者は捉えている。また「オ)使ったものの後かたづけを自分でするようになった」「ケ)大人の人と、気兼ねなく話をするようになった」「ツ)難しいことにチャレンジしようという意欲が増した」も割合が高くなっている。全体的に「変化した」とする割合が高いなかで、最も割合が低いのは、「セ)住んでいる地域の歴史に、関心をもつようになった」の項目である。放課後子供教室・土曜日の教育活動では、地域の歴史について知ることになりにくいとする傾向にある。

図 4-4. 『指導者調査＜放課後子供教室・土曜日の教育活動＞』
「教室」に参加したことによる子供の変化（指導者の認識）（全体／N=72）

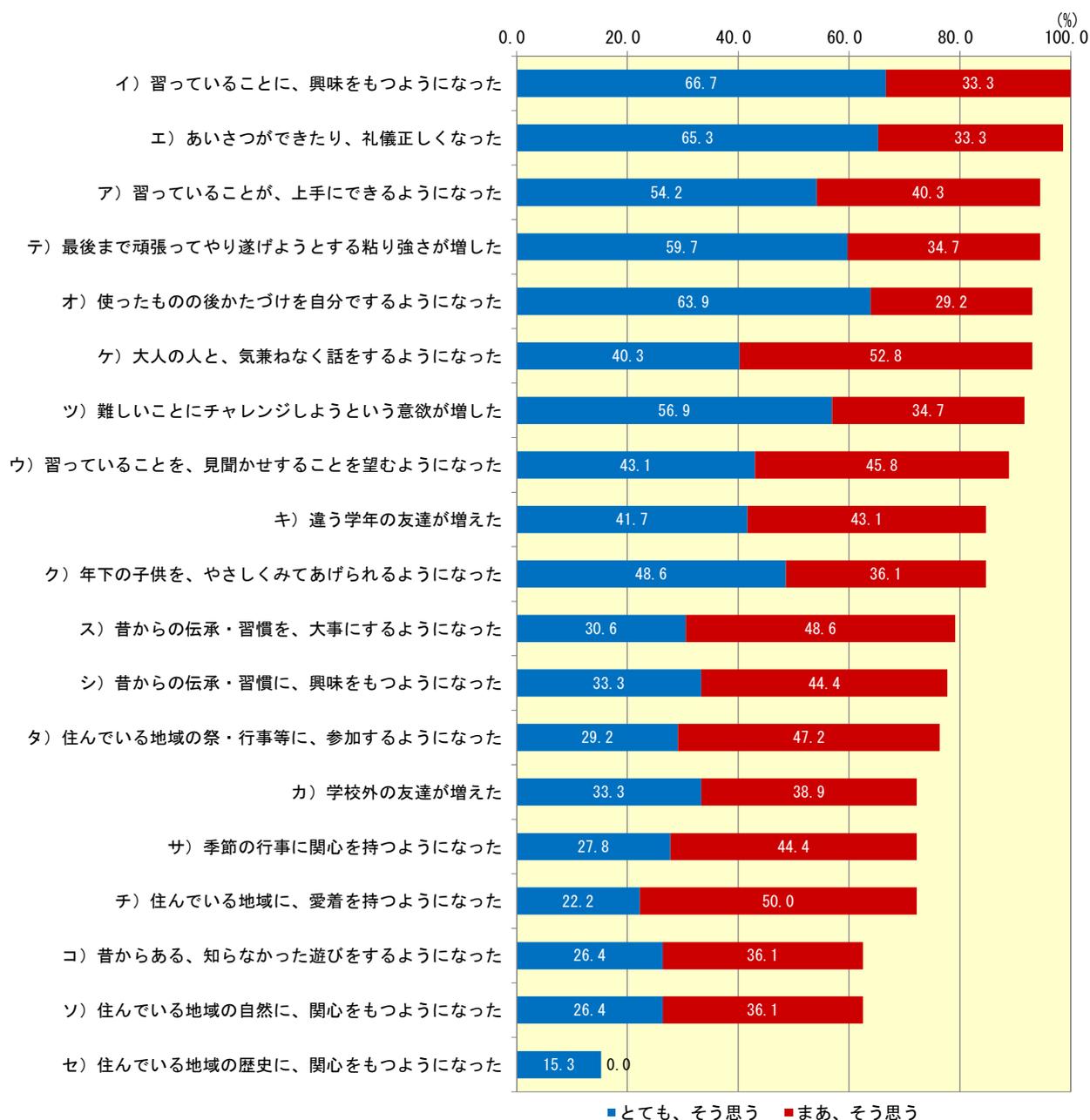


表 4-7 は、指導者からみた子供の変化を、指導者の年齢・性別にみたものである。これをみると、伝統文化親子教室の指導者と比べ、年齢層で割合の差が大きくでている項目がみられる。特に 39 歳以下の指導者では、「イ）習っていることに、興味をもつようになった」の割合が 10 割となっているほか、「ア）習っていることが、上手にできるようになった」「ウ）習っていることを、見聞かせすることを望むようになった」「シ）昔からの伝承・習慣に、興味をもつようになった」とする指導者の割合が、年長の指導者よりも高くなっている。

性別では、男性の指導者よりも女性の指導者の方が子供の変化を大きく捉える傾向にあり、「とてもそう思う」という人の割合は、女性の指導者で高くなっている。特に「ア）習っていることが、上手にできるようになった」「イ）習っていることに、興味をもつようになった」「ク）年下の子供を、やさしくみてあげられるよ

うになった」「ケ)大人のひとと、気兼ねなく話をするようになった」「サ)季節の行事に関心を持つようになった」「タ)住んでいる地域の祭・行事等に、参加するようになった」「ツ)難しいことにチャレンジしようという意欲が増した」点での変化を、より大きく認めている。

表 4-7. 『指導者調査<放課後子供教室・土曜日の教育活動>』

「教室」に参加したことによる子供の変化（指導者の認識）（全体／指導者の年齢／性別）

	全体 (N=72)	指導者の年齢						性別		
		~39歳 (N=8)	40歳~ 49歳 (N=19)	50歳~ 59歳 (N=13)	60歳~ 69歳 (N=22)	70歳~ (N=9)	無回答 (N=1)	男性 (N=21)	女性 (N=50)	無回答 (N=1)
ア) 習っていることが、上手にできるようになった	54.2	62.5	52.6	61.5	59.1	22.2	100.0	47.6	56.0	100.0
イ) 習っていることに、興味をもつようになった	66.7	100.0	52.6	69.2	72.7	44.4	100.0	57.1	70.0	100.0
ウ) 習っていることを、見聞かせずすることを望むようになった	43.1	62.5	42.1	46.2	40.9	22.2	100.0	42.9	42.0	100.0
エ) あいさつができた、礼儀正しくなった	65.3	37.5	73.7	76.9	72.7	33.3	100.0	66.7	64.0	100.0
オ) 使ったもの後かたづけを自分でするようになった	63.9	50.0	73.7	53.8	68.2	55.6	100.0	57.1	66.0	100.0
カ) 学校外の友達が増えた	33.3	37.5	31.6	38.5	36.4	11.1	100.0	38.1	30.0	100.0
キ) 違う学年の友達が増えた	41.7	37.5	57.9	30.8	40.9	22.2	100.0	38.1	42.0	100.0
ク) 年下の子ども、やさしくみてあげられるようになった	48.6	25.0	57.9	38.5	63.6	22.2	100.0	38.1	52.0	100.0
ケ) 大人のひとと、気兼ねなく話をするようになった	40.3	50.0	47.4	38.5	40.9	11.1	100.0	28.6	44.0	100.0
コ) 昔からある、知らなかった遊びをするようになった	26.4	25.0	36.8	23.1	22.7	11.1	100.0	19.0	28.0	100.0
サ) 季節の行事に関心を持つようになった	27.8	12.5	21.1	30.8	36.4	22.2	100.0	14.3	32.0	100.0
シ) 昔からの伝承・習慣に、興味をもつようになった	33.3	50.0	47.4	23.1	22.7	22.2	100.0	38.1	30.0	100.0
ス) 昔からの伝承・習慣を、大事にするようになった	30.6	25.0	47.4	30.8	18.2	22.2	100.0	33.3	28.0	100.0
セ) 住んでいる地域の歴史に、関心をもつようになった	15.3	12.5	21.1	7.7	13.6	22.2	0.0	19.0	14.0	0.0
ソ) 住んでいる地域の自然に、関心をもつようになった	26.4	12.5	21.1	23.1	36.4	22.2	100.0	23.8	26.0	100.0
タ) 住んでいる地域の祭・行事等に、参加するようになった	29.2	12.5	21.1	30.8	40.9	22.2	100.0	19.0	32.0	100.0
チ) 住んでいる地域に、愛着を持つようになった	22.2	25.0	26.3	7.7	22.7	22.2	100.0	33.3	16.0	100.0
ツ) 難しいことにチャレンジしようという意欲が増した	56.9	37.5	57.9	53.8	68.2	44.4	100.0	47.6	60.0	100.0
テ) 最後まで頑張っやり遂げようとする粘り強さが増した	59.7	37.5	57.9	69.2	68.2	44.4	100.0	61.9	58.0	100.0

注) 「とても、そう思う」の割合

表 4-8 は、放課後子供教室・土曜日の教育活動で指導している「教室」の分野別の結果である。これを見ると、「古典芸能」を指導している指導者にとっては、他の分野の指導者よりも子供の変化を、より大きく認めている傾向にある。

「民俗芸能」についてはどうか。この分野の指導者に顕著なのは、「教室」に参加することで、子供達の「コ)昔からある、知らなかった遊びをするようになった」「サ)季節の行事に関心を持つようになった」「ス)昔からの伝承・習慣を、大事にするようになった」という点で変化がみられないとする傾向である。

「生活文化」では、「イ)習っていることに、興味をもつようになった」「サ)季節の行事に関心を持つようになった」「ツ)難しいことにチャレンジしようという意欲が増した」「テ)最後まで頑張っやり遂げようとする粘り強さが増した」という点で子供達は変化した、とする指導者の割合が高くなっている。

「その他」の分野では、「コ)昔からある、知らなかった遊びをするようになった」という点において、「そう思う」とする指導者の割合が他の分野と比べて高くなっている。

表 4-8. 『指導者調査＜放課後子供教室・土曜日の教育活動＞』

「教室」に参加したことによる子供の変化（指導者の認識）（全体／指導している「教室」の分野別）

	(%)				
	全体 (N=72)	指導している「教室」の分野（大分類）			
		民俗芸能 (N=12)	古典芸能 (N=20)	生活文化 (N=33)	その他 (N=24)
ア) 習っていることが、上手にできるようになった	54.2	58.3	75.0	45.5	41.7
イ) 習っていることに、興味をもつようになった	66.7	58.3	80.0	66.7	50.0
ウ) 習っていることを、見聞かせすることを望むようになった	43.1	58.3	50.0	36.4	33.3
エ) あいさつができたり、礼儀正しくなった	65.3	33.3	85.0	63.6	41.7
オ) 使ったものの後かたづけを自分でするようになった	63.9	41.7	85.0	63.6	41.7
カ) 学校外の友達が増えた	33.3	33.3	55.0	24.2	33.3
キ) 違う学年の友達が増えた	41.7	50.0	50.0	33.3	45.8
ク) 年下の子供を、やさしくみてあげられるようになった	48.6	41.7	60.0	36.4	58.3
ケ) 大人のひとと、気兼ねなく話をするようになった	40.3	33.3	60.0	24.2	37.5
コ) 昔からある、知らなかった遊びをするようになった	26.4	0.0	20.0	30.3	54.2
サ) 季節の行事に関心を持つようになった	27.8	8.3	20.0	39.4	25.0
シ) 昔からの伝承・習慣に、興味をもつようになった	33.3	16.7	45.0	30.3	29.2
ス) 昔からの伝承・習慣を、大事にするようになった	30.6	8.3	40.0	27.3	25.0
セ) 住んでいる地域の歴史に、関心をもつようになった	15.3	16.7	15.0	9.1	20.8
ソ) 住んでいる地域の自然に、関心をもつようになった	26.4	16.7	20.0	27.3	25.0
タ) 住んでいる地域の祭・行事等に、参加するようになった	29.2	16.7	35.0	30.3	25.0
チ) 住んでいる地域に、愛着を持つようになった	22.2	16.7	20.0	24.2	16.7
ツ) 難しいことにチャレンジしようという意欲が増した	56.9	25.0	70.0	66.7	29.2
テ) 最後まで頑張ってやり遂げようとする粘り強さが増した	59.7	50.0	70.0	60.6	37.5

注) 「とても、そう思う」の割合

(5) 子供自身からみた変化と保護者、指導者からみた変化

子供自身からみた場合と、保護者、指導者、指導者＜放課後子供教室・土曜日の教育活動＞からみた場合とでは、子供の変化について見方が、若干、異なっている。この点を示したのが表 4-9 である。この表は、『子供調査』による子供自身の変化の認識と、『保護者調査』による保護者の立場からの子供の変化の認識を比べている。網掛けの部分は、4 者のうち、「とてもそう思う」の割合が最も高い項目であり、表の右側は、その割合の高い方からの順位である。細かな説明は省略するが、これをみると、子供自身は、概して「教室」での活動内容に関わる部分で自身の変化を認める傾向にある。それに対して指導者は、習っていることの上達や興味の促進、意欲や頑張り、さらに日常の生活態度において子供の変化を認める傾向にある。

表 4-9. 『子供調査』『保護者調査』『指導者調査』
『指導者調査＜放課後子供教室・土曜日の教育活動＞』

子供自身からみた変化と
保護者、指導者、指導者＜放課後子供教室・土曜日の教育活動＞
からみた変化（全体の比較）

	「とても、そう思う」の割合 (%)				順位 (位)			
	子供	保護者	指導者	指導者 ＜放課後 子供教室・ 土曜日の 教育活動＞	子供	保護者	指導者	指導者 ＜放課後 子供教室・ 土曜日の 教育活動＞
	N=1,574	N=1,441	N=375	N=72				
ア) 習っていることが、上手にできるようになった	53.4	59.4	72.8	54.2	4	1	1	6
イ) 習っていることが、おもしろく感じられるようになった	61.4	58.1	65.1	66.7	1	2	2	1
ウ) 習っていることを、他の人に見聞してもらいたくなった	39.0	32.3	51.5	43.1	15	12	6	8
エ) あいさつができたり、礼儀正しくなった	40.4	30.1	57.3	65.3	14	14	4	2
オ) 使ったものの後かたづけを自分でするようになった	45.5	23.0	52.3	63.9	10	18	5	3
カ) 学校外の友達が増えた	46.0	33.7	36.8	33.3	9	11	12	11
キ) 違う学年の友達が増えた	48.9	37.0	48.5	41.7	6	8	8	9
ク) 年下の子供を、やさしくみてあげられるようになった	35.6	30.8	49.6	48.6	19	13	7	7
ケ) 家族と話す時の話題が増えた	38.1	35.0			17	9		
コ) 大人の人と、気兼ねなく話ができるようになった	30.6	23.9	37.3	40.3	21	17	11	10
サ) 近所の人にあいさつをするようになった	41.6	27.1			13	15		
シ) 昔からある、知らなかった遊びを覚えた	26.1	12.1	12.5	26.4	22	24	19	16
ス) 季節の行事が身近に感じられるようになった	32.3	20.1	20.0	27.8	20	19	16	15
セ) 昔からの伝承・習慣を、おもしろく感じられるようになった	37.2	19.6	26.9	33.3	18	20	13	11
ソ) 昔からの伝承・習慣を、大事にしたいと思うようになった	45.3	16.9	26.4	30.6	11	21	15	13
タ) すごい技能を持ち、すばらしいと思える人を知った	55.5	38.2			3	6		
チ) 住んでいる地域の歴史を、もっと知りたくなった	25.7	15.5	17.3	15.3	23	22	17	19
ツ) 住んでいる地域の自然を、もっと知りたくなった	25.3	13.5	13.9	26.4	24	23	18	16
テ) 住んでいる地域の祭・行事等に、参加するようになった	48.9	38.9	43.2	29.2	6	5	10	14
ト) 住んでいる地域が好きになった	46.2	25.7	26.7	22.2	8	16	14	18
ナ) 自分の楽しみが増えた	57.1	39.6			2	3		
ニ) 自分に自信を持てるようになった	38.6	38.0			16	7		
ヌ) 難しくてもチャレンジしてみようと思うことが増えた	45.2	34.9	48.3	56.9	12	10	9	5
ネ) 最後まで頑張ってもやり遂げようと思うことが増えた	51.8	38.9	61.3	59.7	5	4	3	4

注) 「とても、そう思う」の割合

※網掛け部分：4者のうち「とても、そう思う」の割合が最も高い項目

5. 「伝統文化親子教室」事業の意義

本調査の目的は、「1. 調査の概要」にも記したように、「伝統文化親子教室」に参加した子供たちの意識や行動がどのように変化したかを明らかにして、この事業の成果を把握することにある。子供達の変化については、あくまでも子供達、保護者、指導者、指導者<放課後子供教室・土曜日の教育活動>、それぞれの見方においてではあるが、前章においてその実際を明らかにした。

では、保護者や指導者や指導者<放課後子供教室・土曜日の教育活動>はこの事業について、どのように考えているのであろうか。最後にこの事業とその意義についての保護者や指導者や指導者<放課後子供教室・土曜日の教育活動>の見方・考え方について、調査の結果を示しておく。

(1) 保護者の立場から

1) 「伝統文化」についての保護者の考え

「教室」に子供を参加させる場合に鍵となるのは、保護者が「伝統文化」についてどのように考えているかであると思われる。その点で、「伝統文化親子教室」事業は、保護者の「伝統文化」についての考えに支えられている。

図 5-1. 『保護者調査』「伝統文化」についての考え（全体/N=1,441）

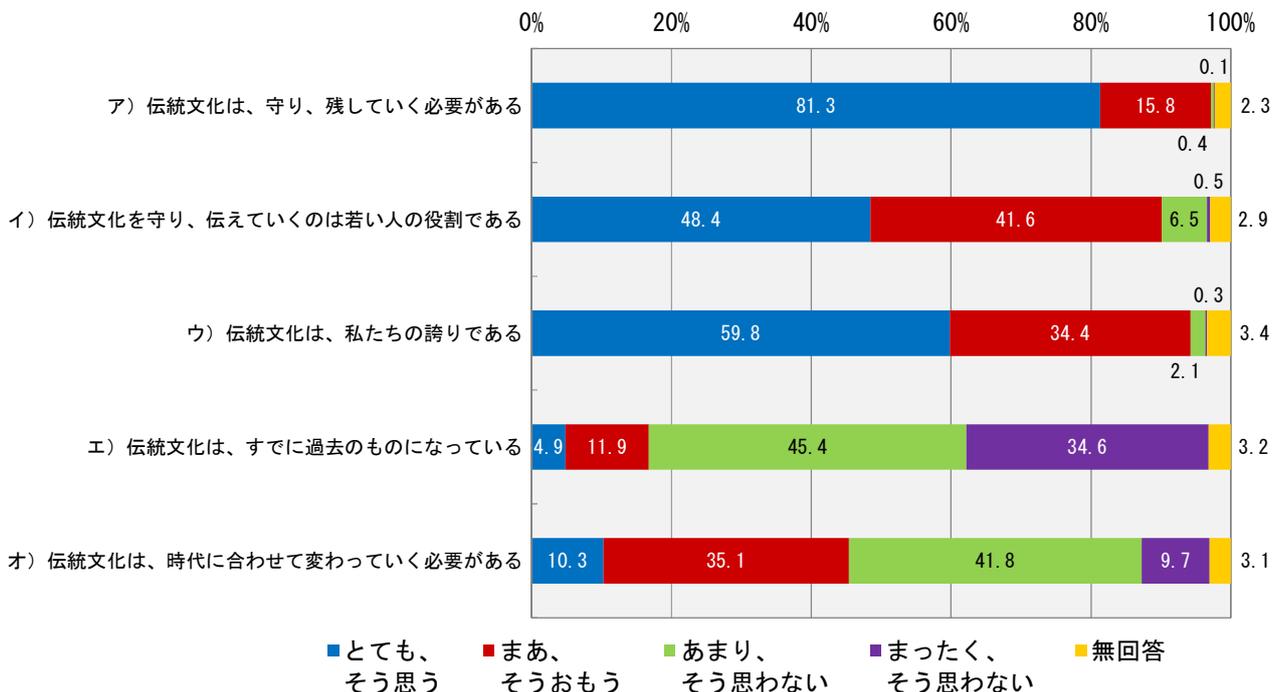


図 5-1 は、保護者に「伝統文化」についての考えを聞いた結果である。これをみると、子供を「教室」に参加させていることから、ほとんどすべての保護者が伝統文化の保存・継承に理解を示している。「ア）伝統文化は、守り、残していく必要がある」という人は、ほぼ、全員である。「イ）伝統文化を守り、伝えていくのは若い人の役割である」とする保護者も、「とてもそう思う」という人と「まあそう思う」という人に分かれるものの、全体としては、守り・伝えていく役割が若い人にあると考えている。「ウ）伝統文化は、私た

ちの誇りである」と思う人も、かなりの割合に及んでいる。

一方、「エ）伝統文化は、すでに過去のものになっている」と考える保護者は、ごく、わずかである。この点でも保護者は「伝統文化」の保存・継承に好意的である。ただ、「オ）伝統文化は、時代に合わせて変わっていく必要がある」かどうかに関しては、保護者のなかでも、考えが分かれている。

表 5-1. 『保護者調査』「伝統文化」についての考え（子供が参加している「教室」の分野別

	全体 (N=1,441)	子供が参加している「教室」の分野（大分類）			
		民俗芸能 (N=500)	古典芸能 (N=374)	生活文化 (N=444)	その他 (N=238)
ア) 伝統文化は、守り、残していく必要がある	81.3	80.0	80.2	81.3	84.5
イ) 伝統文化を守り、伝えていくのは若い人の役割である	48.4	47.4	52.4	47.5	50.0
ウ) 伝統文化は、私たちの誇りである	59.8	56.0	61.2	61.9	61.8
エ) 伝統文化は、すでに過去のものになっている	16.8	19.0	17.6	10.4	25.6
オ) 伝統文化は、時代に合わせて変わっていく必要がある	45.4	45.8	44.7	42.8	48.7

注) 「ア」～「ウ」：「とても、そう思う」に答えた人の割合

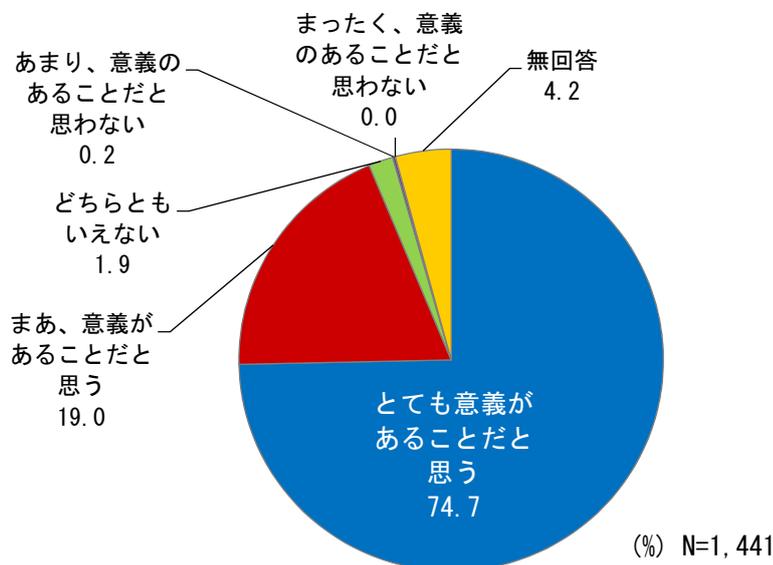
「エ」～「オ」：「とても、そう思う」または「まあ、そう思う」に答えた人の割合

表 5-1 は、子供が参加している「教室」の分野別に、保護者の「伝統文化」についての考えをみたものである。この点について分野による大きな違いは目立たない。あえて結果の特徴を示しておけば、「生活文化」の「教室」に子供を参加させている保護者において、「エ）伝統文化は、既に過去のものになっている」とする人の割合が低くなっている。

2) 保護者からみた「伝統文化親子教室」事業の意義

図 5-2 は、「伝統文化親子教室」事業がどの程度、意義のあるものかを保護者に尋ねた結果である。子供を「教室」に参加させている以上、その意義を低くみるとは考えられず、高い評価が下されて当然なのではあるが、結果は 7 割以上（74.7%）の保護者が「とても、意義のあることだと思う」とのことである。これに「まあ、意義のあることだと思う」保護者を加えると、ほとんどすべての保護者が事業に「意義がある」としており、評価は非常に高くなっている。

図 5-2. 『保護者調査』保護者からみた「伝統文化親子教室」事業の意義（全体／N=1,441）



(2) 指導者の立場から

1) 指導者からみた「伝統文化親子教室」事業の社会における役割

それでは指導者たちは、この事業をどのように捉えているのか。図 5-3 は、指導者の人達に、事業が社会的にどのような役割を果たしているのかを尋ねた結果である。これをみると、ほとんどすべての指導者が事業の社会における役割を肯定的に捉えている。調査で尋ねた 8 項目すべてにおいて、「とても」と「まあ」を合わせて「役立っている」とする指導者の割合は 9 割を超えている。「とても、役立っている」という指導者の割合に目を向けても、項目による違いは大きくない。敢えて違いを指摘するならば、「オ) 地域活動を活発にする」「カ) 地域の歴史や伝統、文化に対する人々の理解を深め、広める」「エ) 地域の人々のつながりを生み出す」など地域に対する役割よりも、「キ) 子どもたちに豊かな人間性を身につけさせる」「ア) 日本の歴史や伝統、文化に対する人々の理解を深め、広める」「イ) 歴史や伝統、文化に対する子どもの関心を高める」など、子供達個人に対する役割を高く見積もる傾向にある。

図 5-3. 『指導者調査』指導者からみた「伝統文化親子教室」事業の社会における役割（全体／N=375）

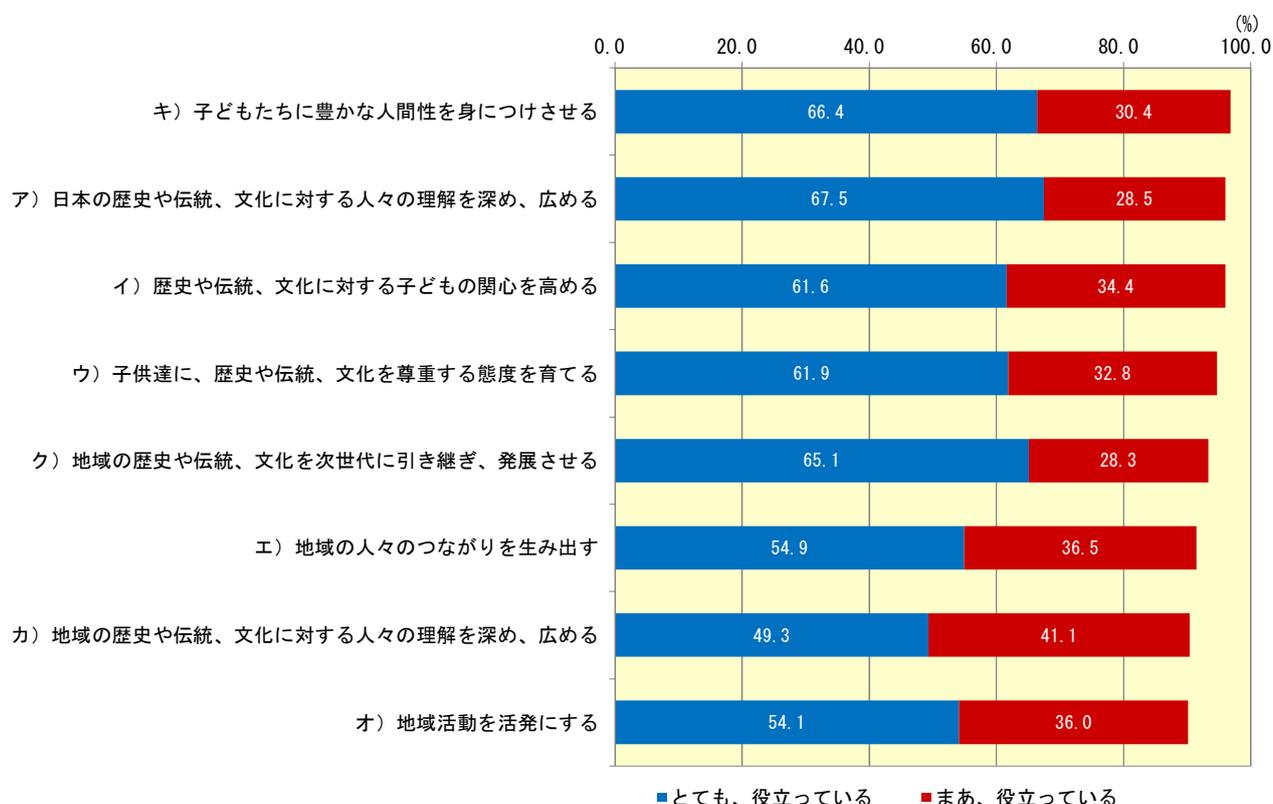


表 5-2 は、この事業の社会における役割を、指導者の年齢別にみたものである。数値は、「とても、役立っている」とした人の割合である。これをみると、「とても、役立っている」という人の割合には、年齢による違いが見て取れる。事業の社会的な役割を強く認識しているのは、39 歳以下の指導者である。若い指導者の方が、使命感に燃えて指導に取り組んでいるということであろう。

表 5-2. 『指導者調査』 指導者からみた「伝統文化親子教室」事業の社会における役割
(全体／指導者の年齢別)

(%)

	全体	指導者の年齢					無回答 (N=7)
	(N=375)	30歳～ 39歳 (N=31)	40歳～ 49歳 (N=62)	50歳～ 59歳 (N=66)	60歳～ 69歳 (N=110)	70歳～ (N=82)	
ア) 日本の歴史や伝統、文化に対する人々の理解を深め、広める	67.5	74.2	75.8	72.7	63.6	64.6	14.3
イ) 歴史や伝統、文化に対する子どもの関心を高める	61.6	64.5	75.8	71.2	55.5	52.4	14.3
ウ) 子供達に、歴史や伝統、文化を尊重する態度を育てる	61.9	64.5	69.4	75.8	61.8	51.2	0.0
エ) 地域の人々のつながりを生み出す	54.9	58.1	58.1	59.1	56.4	47.6	28.6
オ) 地域活動を活発にする	54.1	58.1	58.1	54.5	59.1	43.9	28.6
カ) 地域の歴史や伝統、文化に対する人々の理解を深め、広める	49.3	64.5	53.2	60.6	44.5	42.7	14.3
キ) 子どもたちに豊かな人間性を身につけさせる	66.4	58.1	67.7	71.2	71.8	64.6	14.3
ク) 地域の歴史や伝統、文化を次世代に引き継ぎ、発展させる	65.1	77.4	71.0	72.7	65.5	53.7	0.0

注) 「とても、役立っている」の割合

指導している「教室」の分野との関係もみておく(表 5-3)。表に示したように、「民俗芸能」の指導者の場合、「エ) 地域の人々のつながりを生み出す」「オ) 地域活動を活発にする」「ク) 地域の歴史や伝統、文化を次世代に引き継ぎ、発展させる」といった役割に目を止める傾向にある。「民俗芸能」はそれぞれの地域に根差している場合が多く、地域に果たす「教室」の役割を自負しているものと思われる。「古典芸能」の場合、指導者が目に止めているのは「ア) 日本の歴史や伝統、文化に対する人々の理解を深め、広める」「イ) 歴史、伝統、文化に対する子ども関心を高める」「ウ) 子供達に歴史や伝統、文化を尊重する態度を育てる」「キ) 子どもたちに豊かな人間性を身につけさせる」といった役割である。ここでも指導者は、自分が指導している「古典芸能」の特性を踏まえて、「教室」の役割を考えている。「その他」の分野では、「カ) 地域の歴史や伝統、文化に対する人々の理解を深め、広める」といった役割に目を止める傾向にある。

表 5-3. 『指導者調査』 指導者からみた「伝統文化親子教室」事業の社会における役割
(全体／指導している「教室」の分野別)

(%)

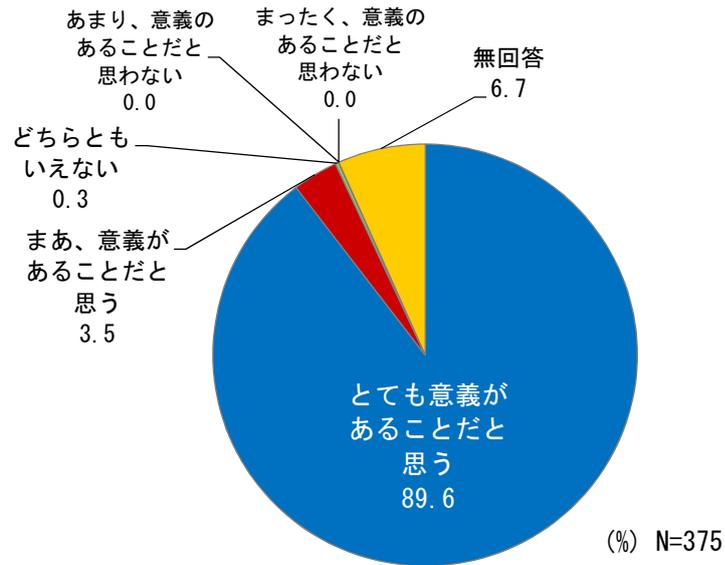
	全体	指導している「教室」の分野(大分類)			
	(N=375)	民俗芸能 (N=129)	古典芸能 (N=95)	生活文化 (N=124)	その他 (N=64)
ア) 日本の歴史や伝統、文化に対する人々の理解を深め、広める	67.5	60.5	84.2	61.3	75.0
イ) 歴史や伝統、文化に対する子どもの関心を高める	61.6	58.9	75.8	50.8	71.9
ウ) 子供達に、歴史や伝統、文化を尊重する態度を育てる	61.9	63.6	75.8	46.8	71.9
エ) 地域の人々のつながりを生み出す	54.9	73.6	51.6	39.5	54.7
オ) 地域活動を活発にする	54.1	75.2	57.9	34.7	51.6
カ) 地域の歴史や伝統、文化に対する人々の理解を深め、広める	49.3	59.7	52.6	34.7	60.9
キ) 子どもたちに豊かな人間性を身につけさせる	66.4	60.5	72.6	64.5	71.9
ク) 地域の歴史や伝統、文化を次世代に引き継ぎ、発展させる	65.1	80.6	67.4	50.8	68.8

注) 「とても、役立っている」の割合

2) 指導者からみた「伝統文化親子教室」事業の意義

図 5-4 は、指導者からみた「伝統文化親子教室」事業の意義についてである。これをみると指導者のほとんどすべてが「教室」の事業を「とても、意義あることだと思う」とし、その意義を大きく位置づけている。「まあ」も合わせると「意義のあることだと思う」とする指導者の割合は、9 割以上(93.1%)に達しており、指導者は、この事業の意義を大きく考えていると捉えられる。

図 5-4. 『指導者調査』 指導者からみた「伝統文化親子教室」事業の意義（全体／N=375）



(3) 指導者＜放課後子供教室・土曜日の教育活動＞の立場から

1) 指導者から見た＜放課後子供教室・土曜日の教育活動＞の社会における役割

放課後子供教室・土曜日の教育活動の指導者たちは、放課後子供教室・土曜日の教育活動をどのように捉えているのか。図 5-5 は、指導者の人達に、放課後子供教室・土曜日の教育活動が社会的にどのような役割を果たしているのかを尋ねた結果である。これをみると、ほとんどすべての指導者が、放課後子供教室・土曜日の教育活動の社会における役割を肯定的に捉えている。調査で尋ねた 8 項目すべてにおいて、「とても」と「まあ」を合わせて「役立っている」とする指導者の割合は 8 割を超えている。そのなかでも「エ) 地域の人々のつながりを生み出す」「キ) 子どもたちに豊かな人間性を身につけさせる」「オ) 地域活動を活発にする」「ア) 日本の歴史や伝統、文化に対する人々の理解を深め、広める」とする指導者の割合は 9 割を超えている。

図 5-5. 『指導者調査＜放課後子供教室・土曜日の教育活動＞』

指導者からみた放課後子供教室・土曜日の教育活動の社会における役割（全体／N=72）

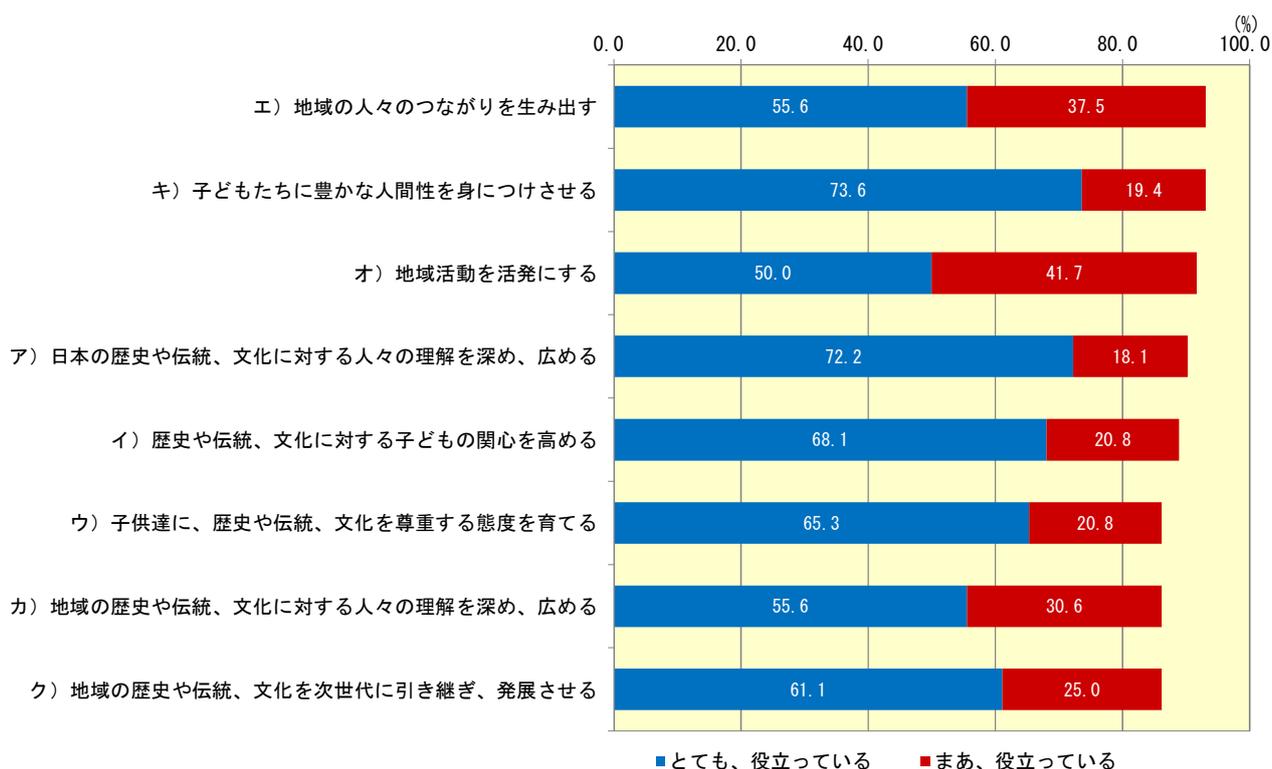


表 5-4 は、放課後子供教室・土曜日の教育活動の社会における役割を、指導者の年齢別にみたものである。数値は、「とても、役立っている」とした人の割合である。これをみると、「とても、役立っている」という人の割合には、年齢による違いが見て取れる。

表 5-4. 『指導者調査＜放課後子供教室・土曜日の教育活動＞』

指導者からみた放課後子供教室・土曜日の教育活動の社会における役割

(全体／指導者の年齢別)

	全体 (N=72)	指導者の年齢					無回答 (N=1)
		～39歳 (N=8)	40歳～ 49歳 (N=19)	50歳～ 59歳 (N=13)	60歳～ 69歳 (N=22)	70歳～ (N=9)	
ア) 日本の歴史や伝統、文化に対する人々の理解を深め、広める	72.2	75.0	73.7	69.2	77.3	66.7	0.0
イ) 歴史や伝統、文化に対する子どもの関心を高める	68.1	75.0	68.4	69.2	68.2	66.7	0.0
ウ) 子供達に、歴史や伝統、文化を尊重する態度を育てる	65.3	75.0	63.2	76.9	59.1	66.7	0.0
エ) 地域の人々のつながりを生み出す	55.6	50.0	52.6	61.5	59.1	55.6	0.0
オ) 地域活動を活発にする	50.0	50.0	52.6	53.8	45.5	55.6	0.0
カ) 地域の歴史や伝統、文化に対する人々の理解を深め、広める	55.6	62.5	63.2	53.8	50.0	55.6	0.0
キ) 子どもたちに豊かな人間性を身につけさせる	73.6	75.0	63.2	69.2	86.4	77.8	0.0
ク) 地域の歴史や伝統、文化を次世代に引き継ぎ、発展させる	61.1	62.5	57.9	76.9	59.1	55.6	0.0

注) 「とても、役立っている」の割合

放課後子供教室・土曜日の教育活動で指導している「教室」の分野との関係もみておく（表 5-5）。表に示したように、「古典芸能」では全体的に割合が高く、「古典芸能」の指導者が社会における役割を高く意識しているものと思われる。一方、「民俗芸能」では、他の分野に比べて割合が低くなっている。

表 5-5. 『指導者調査＜放課後子供教室・土曜日の教育活動＞』
指導者からみた放課後子供教室・土曜日の教育活動の社会における役割
（全体／指導している「教室」の分野別）

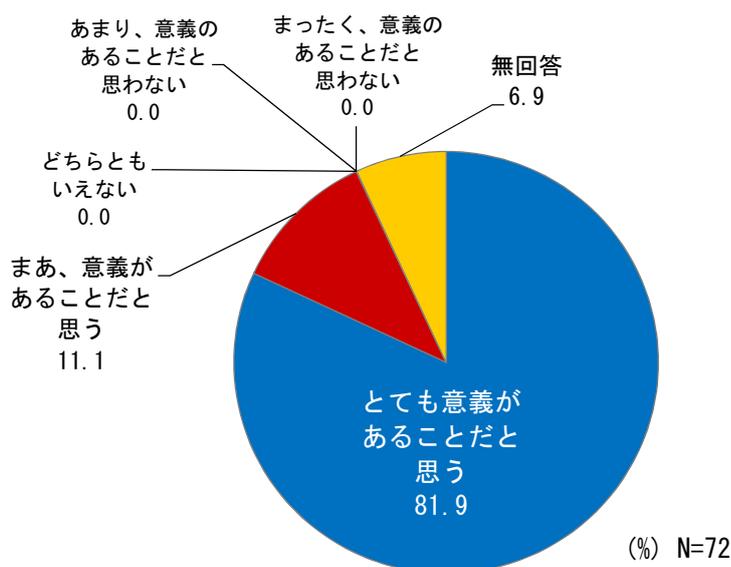
	(%)				
	全体 (N=72)	指導している「教室」の分野（大分類）			
		民俗芸能 (N=12)	古典芸能 (N=20)	生活文化 (N=33)	その他 (N=24)
ア) 日本の歴史や伝統、文化に対する人々の理解を深め、広める	72.2	50.0	80.0	75.8	66.7
イ) 歴史や伝統、文化に対する子どもの関心を高める	68.1	58.3	65.0	75.8	62.5
ウ) 子供達に、歴史や伝統、文化を尊重する態度を育てる	65.3	58.3	70.0	69.7	58.3
エ) 地域の人々のつながりを生み出す	55.6	33.3	65.0	57.6	62.5
オ) 地域活動を活発にする	50.0	41.7	65.0	48.5	37.5
カ) 地域の歴史や伝統、文化に対する人々の理解を深め、広める	55.6	41.7	70.0	54.5	58.3
キ) 子どもたちに豊かな人間性を身につけさせる	73.6	50.0	70.0	84.8	66.7
ク) 地域の歴史や伝統、文化を次世代に引き継ぎ、発展させる	61.1	41.7	80.0	57.6	62.5

注) 「とても、役立っている」の割合

2) 指導者からみた＜放課後子供教室・土曜日の教育活動＞の意義

図 5-6 は、指導者からみた放課後子供教室・土曜日の教育活動の意義についてである。これをみると指導者のほとんどすべてが「教室」の事業を「とても、意義あることだと思う」とし、その意義を大きく位置づけている。「まあ」も合わせると「意義のあることだと思う」とする指導者の割合は、9 割以上（93.0%）に達しており、指導者は、この事業の意義を大きく考えていると捉えられる。

図 5-6. 『指導者調査＜放課後子供教室・土曜日の教育活動＞』
指導者からみた放課後子供教室・土曜日の教育活動の意義（全体／N=72）



3) 指導者からみた「伝統文化親子教室」事業と＜放課後子供教室・土曜日の教育活動＞の連携

図 5-7 は、指導者からみた「伝統文化親子教室」事業と、放課後子供教室・土曜日の教育活動の連携効果についてである。これをみると指導者のほとんどが連携した結果、「効果があったと思う」としている。「とても、効果があったと思う」「まあ、効果があったと思う」を合わせると、その割合は9割弱（87.5%）に達している。指導者は、「伝統文化親子教室」事業と、放課後子供教室・土曜日の教育活動が連携効果を大きく考えていると捉えられる。

図 5-7. 『指導者調査＜放課後子供教室・土曜日の教育活動＞』
指導者からみた「伝統文化親子教室」事業と、放課後子供教室・土曜日の教育活動の連携効果
(全体/N=72)

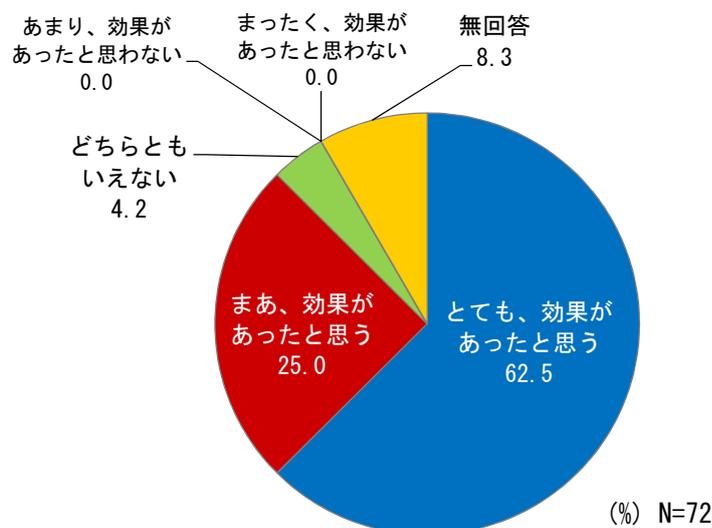
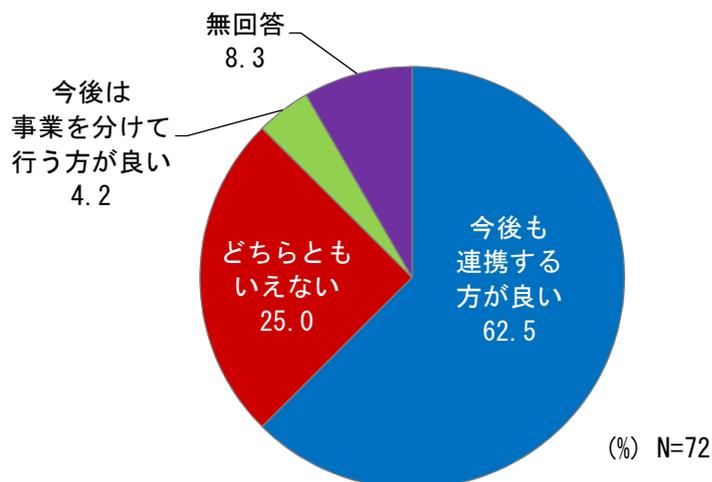


図 5-8 は、指導者からみた「伝統文化親子教室」事業と、放課後子供教室・土曜日の教育活動の今後の連携についてである。これをみると、「今後も連携する方が良い」とする指導者は6割（62.5%）を超えているため、今後も連携した方が、それぞれの「教室」でも効果があると思われる。

図 5-8. 『指導者調査＜放課後子供教室・土曜日の教育活動＞』
指導者からみた「伝統文化親子教室」事業と、放課後子供教室・土曜日の教育活動の今後の連携について (全体/N=72)



以上、『子供調査』『保護者調査』『指導者調査』『指導者調査＜放課後子供教室・土曜日の教育活動＞』の4つの調査を通じて、まず第一に、「伝統文化親子教室」に参加した子供達とその保護者が、子供達の「教室」への参加をどのように評価しているかを明らかにした。第二に、子供達は、何をきっかけにどのような動機でもって「教室」に参加したか、保護者はどこから「教室」についての情報を得て、何故に子供を「教室」に参加させたかを概観した。第三に、「教室」に参加したことによる変化を、子供達自身、保護者、そして伝統文化親子教室の指導者、放課後子供教室・土曜日の教育活動の指導者たちがどのように捉えているかを明示した。そして、最後に、保護者と指導者、指導者＜放課後子供教室・土曜日の教育活動＞が、「教室」の事業の意義をどのように考えているかについて調査結果を報告した。

こうした一連の作業から言えることは、「伝統文化親子教室」がそこに参加した子供達に総じて好ましい変化をもたらし、それゆえに子供達自身も保護者も「教室」を高く評価しているということである。また、この伝統文化親子教室事業、放課後子供教室・土曜日の教育活動、そのものの意義も、保護者や指導者に高く認められているということである。むろん、調査の対象は、実際に「教室」に参加している子供達とその保護者、そして子供達の指導にあたっている指導者であり、その点で、子供達の変化についての認識も自ずから好ましいものとなって不思議はない。また、「教室」についての評価も高く、事業の意義も大きく見積もられて当然である。これらのことがらについては、自分が「教室」に参加していればこそ、子供を参加させていればこそ、あるいは「教室」を実際に指導していればこそ、判断が下せることであることもまた確かである。それゆえ、この判断は、実際に「教室」に関係する者たちが下した判断として、十分に尊重されるべきものである。

また今回の調査において、子供調査、保護者調査で無効となる調査票が散見された。無効となった理由としては、子供調査、保護者調査ともに対象外の学年の回答がほとんどであった。代表者に対して、対象学年での調査を依頼しているものの、回答者（子供、保護者）には伝わっていないことが原因と思われる。また調査票自体は有効であるが、回答を無効とせざるを得ない設問も散見された。これらの課題を創意工夫して解決することで、今後も同様の調査を実施する場合、有効回答数の増加、及び調査結果の精度が向上するものと思われる。

6. 付 録

○調査票及び単純集計結果

「伝統文化親子教室」についての調査

この調査は、「伝統文化親子教室」に通う小学生・中学生が、「教室」の活動にどのように取り組み、そこから何を学んでいるかを調べて、これから、どのような「教室」にしていったらよいかを考える時の参考にしようというものです。

テストではありませんし、名前を書いていただく必要もありません。書いていただいた答えは、数字に直してしまいます。思ったこと、考えたことなどを、ありのままに答えてください。

よろしくお願いします。

平成26年12月

伝統文化親子教室事業 事務局
(近畿日本ツーリストグループ 株式会社 KNT ビジネスクリエイト内)
〒160-0023 東京都新宿区西新宿 8-14-24 西新宿 KF ビル 3 階
TEL : 03-6730-3348 FAX : 03-6730-6029
E-mail : oyakokyoshitsu@gp.knt.co.jp
[お問い合わせ対応時間 平日 10:00~17:00]

答えていただくときの注意

1. この調査は、小学校4年生から中学校3年生にお願いをしています。
あなたがそれ以外の学年の場合には、「教室」の先生に申し出てください。
2. 調査は、あなたの「教室」に通っているみなさんのうちの何人かにお願いしています。全員にお願いをしているわけではありません。
3. 数字に○をつけて答えてください。
4. 「教室」で、活動の間の時間を使って答えてください。
答え終わった調査票は、「教室」の先生にわたしてください。

各教室の代表者の方へお願い

児童・生徒の皆さんが回答して下さった調査票は、以下に「団体コード」をご記入の上、取りまとめて事務局までご返送ください。

団体コード - -

◎まず、あなたのことをお聞きします。

Q 1. 学年と性別について、それぞれ、あてはまるところに○をつけてください。

A) あなたの学年は…

1. 小学4年生 28.1
2. 小学5年生 23.8
3. 小学6年生 25.3
4. 中学1年生 10.2
5. 中学2年生 6.7
6. 中学3年生 5.8 N.A 0.0

B) あなたは、男の子ですか、女の子ですか。 あてはまる方に○をつけてください。

1. 男 40.5
2. 女 58.9 N.A 0.6

◎ここからは、「伝統文化親子教室」（これからあと、「教室」とよびます）への参加についてお聞きします。

Q 2. 「教室」では何を習っていますか？ あてはまるところに○をつけてください。

どこに○をつけてよいか、わからないときには、「教室」の先生に聞いてください。

1. 神楽（かぐら）、獅子舞（ししまい）、お囃子（おはやし） 17.5
2. 民謡や町や村に昔から伝わっている踊り、お芝居（おしばい）や
人形芝居（にんぎょうしばい） 7.2
3. 能楽（のうがく）、雅楽（ががく） 7.8
4. 邦楽（ほうがく）：お箏（おこと）、三味線（しゃみせん）、尺八（しゃくはち）、
笛（ふえ）、太鼓（たいこ）など 13.2
5. 和太鼓（わだいこ） 11.0
6. 日本舞踊（にほんぶよう） 5.8
7. 伝統工芸（でんとうこうげい）：昔から伝えられてきた物づくり 5.2
8. 百人一首（ひやくにんいっしゅ）、カルタ、囲碁（いご）、将棋（しょうぎ） 15.2
9. 茶道（さどう：お茶）、華道（かどう：お花） 14.8
10. 武道（ぶどう）：柔道（じゅうどう）、剣道（けんどう）、古式泳法（こしきえいほう）、
相撲（すもう）、弓道（きゅうどう）など 2.4
11. 書道（しょどう） 1.0
12. 着物の着付けや作法（さほう） 3.3
13. 昔の遊びや仕事（おりがみ、お手玉（おてだま）、さかなとり、田植え（たうえ）など） 2.7
14. その他（何ですか？： _____） 7.1
N.A 0.5

Q 3. あなたが今、習っていることは、「教室」に通うようになってはじめて習ったことですか？
それとも、「教室」に通う前にも習っていたことですか？ あてはまる方に○をつけてください。

- 1. 「教室」に通うようになってはじめて習ったこと **77.8**
- 2. 「教室」に通う前にも習っていたこと **18.8 N.A 3.4**

Q 4. あなたが「教室」に通うのは、今年で何年目ですか？
通わなかった年や「教室」が開かれなかった年のはのぞいて、何年目になるのか、
あてはまる方に○をつけてください。

- 1. 今年はじめて **28.3**
- 2. 2年目 **55.7 N.A 15.9**

Q 5. 「教室」には、自分から通ってみようと思ったのですか？
それとも、誰かからさそわれたり、言われたりして通うようになったのですか？
あてはまる方に○をつけてください。

- 1. 自分から通ってみようと思った。—————→Q 6へ **40.2**
- 2. 誰かからさそわれたり、言われたりして通うようになった。 **57.6**
N.A 2.2

↓
「2」に○をつけた人だけ、教えてください。

SQ. それは誰ですか？

あなたをさそったり、通うように言った人、あてはまるものすべてに○をつけてください。

- 1. お父さんやお母さん **46.5**
- 2. きょうだい **9.9**
- 3. おじいさんやおばあさん **9.4**
- 4. しんせきの人 **2.4**
- 5. 学校の先生 **4.6**
- 6. おけいこで通っているところの先生 **7.3**
- 7. 友だち **33.0**
- 8. 近所に住んでいる人 **6.0**
- 9. その他（だれですか？：_____） **4.2**

N.A 0.3

Q 6. この「教室」に通うことにしたのは、なぜですか？
あなたに、あてはまるものすべてに○をつけてください。

*この「教室」に通うと…

- | | |
|-----------------------------------|------|
| 1. おもしろいこと、むちゅうになれることができそうだったから。 | 47.6 |
| 2. ほかに人にはできないことができそうだったから。 | 36.7 |
| 3. おとなになれるような気がしたから。 | 5.1 |
| 4. 友だちができそうだったから。 | 18.6 |
| 5. 学校の勉強に役立ちそうだったから。 | 10.6 |
| 6. 生活に役立ちそうだったから。 | 11.3 |
| 7. 住んでいる町や村について、もっとくわしくなれそうだったから。 | 10.0 |
| 8. 家の近くに住んでいる人と、知り合いになれそうだったから。 | 4.8 |
| 9. とくにわけはない。 | 12.1 |
| 10. その他（なぜですか？： _____） | 11.4 |

N.A 4.3

Q 7. この「教室」に通うようになって、あなたがどのように変わったかをお聞きします。
つぎのア)～ネ)のそれぞれの質問について、どのくらい「そう思うか」、あてはまるところ

◎「教室」に通うようになって…	1. とても そう 思う	2. まあ そう 思う	3. あまり そう 思わない	4. ぜんぜん そう 思わない	5. N ・ A
ア) 習っていることが、上手にできるようになりましたか？	53.4	41.1	3.4	0.7	1.3
イ) 習っていることが、おもしろく感じられるようになりましたか？	61.4	32.8	4.1	0.6	1.1
ウ) 習っていることを、他の人に見てもらったり、聞いてもらったりしてほしくなりましたか？	39.0	39.3	15.8	4.4	1.5
エ) 返事やお礼がしっかり言えたり、あいさつができたり、礼儀正しくなりましたか？	40.4	45.8	10.2	1.8	1.7
オ) 使ったものの後かたづけを自分でするようになりましたか？	45.5	40.5	10.9	1.2	1.8
カ) 学校の友だちのほかに、友だちがふえましたか？	46.0	31.6	13.4	7.4	1.7
キ) 年上の友だちや、年下の友だちがふえましたか？	48.9	31.8	12.3	5.4	1.6

ひとつに○をつけてください。

* 次のページに続きます。

◎「教室」に通うようになって…	1. とても そう思う	2. まあ そう思う	3. あまり そう思わない	4. ぜんぜん そう思わない	5. N ・ A
ク) 年下の子供をやさしくみてあげられるようになりましたか？	35.6	44.4	14.7	3.0	2.2
ケ) お父さんやお母さんなど、家の人と話す時の話題がふえましたか？	38.1	42.1	14.8	3.0	2.1
コ) 大人の人と、きがねなく、話ができるようになりましたか？	30.6	43.2	20.3	3.6	2.3
サ) 近所の人にあいさつをするようになりましたか？	41.6	39.5	13.5	3.4	2.0
シ) 昔からある、知らなかった遊びを覚えましたか？	26.1	33.5	27.1	10.1	3.2
ス) お正月や豆まき、ひな祭りや七夕などの季節の行事が身近に感じられるようになりましたか？	32.3	35.3	23.8	5.8	2.9
セ) 生活のなかの昔から伝えられてきていることや守られてきていることを、おもしろく思うようになりましたか？	37.2	40.0	16.6	3.5	2.7
ソ) 生活のなかの昔から伝えられてきていることや守られてきていることを、大事にしたいと思うようになりましたか？	45.3	40.2	10.6	1.4	2.5
タ) 「教室」のなかですごい技や力をもって、すばらしいと思える人を知りましたか？	55.5	29.4	10.1	2.4	2.5
チ) 住んでいるところの歴史をもっと知りたくなりましたか？	25.7	39.5	25.9	6.0	2.9
ツ) 住んでいるところの自然をもっと知りたくなりましたか？	25.3	37.4	28.0	6.4	3.0
テ) 住んでいるところのお祭や行事に参加するようになりましたか？	48.9	31.6	13.5	3.4	2.7
ト) 住んでいるところが好きになりましたか？	46.2	37.0	11.8	2.4	2.7
ナ) 自分の楽しみがふえましたか？	57.1	30.3	8.4	1.8	2.4
ニ) 自分に自信がもてるようになりましたか？	38.6	40.2	15.1	3.3	2.8
ヌ) むずかしくてもチャレンジしてみようという気持ちになることがふえましたか？	45.2	38.8	11.1	2.4	2.5
ネ) 最後までがんばってやりとげようと思うことがふえましたか？	51.8	36.1	8.7	1.3	2.1

Q 8. 「教室」には、どのくらいの割合で参加していますか？

あてはまるところひとつに○をつけてください。

1. 毎回、参加している。 **45.8**
2. 時々、休むことがある。 **42.1**
3. 参加することと、休むことがそれぞれ半分くらい。 **5.0**
4. 時々、参加するくらい。 **3.6**
5. ほとんど、参加していない。 **1.3 N.A 2.4**

Q 9. 「教室」で習っていることについて書かれている本を、読むことがありますか？

あてはまるところひとつに○をつけてください。

1. よく、ある。 **10.0**
2. 時々、ある。 **32.0**
3. ほとんど、ない。 **31.1**
4. ぜんぜん、ない。 **24.8 N.A 2.2**

Q10. 「教室」で習っていることをとりあげたテレビ番組を、見ることがありますか？

あてはまるところひとつに○をつけてください。

1. よく、ある。 **11.9**
2. 時々、ある。 **36.5**
3. ほとんど、ない。 **27.7**
4. ぜんぜん、ない。 **21.8 N.A 2.1**

Q11. あなたは、「教室」に通ってよかったと思いますか？ それとも思いませんか？

あてはまるところひとつに○をつけてください。

1. とても、よかったと思う。 **67.3**
2. まあ、よかったと思う。 **28.5**
3. あまり、よかったと思わない。 **1.5**
4. まったく、よかったと思わない。 **0.6 N.A 2.2**

Q12. 「教室」で習っていることは、生活のなかで、どのくらい、役に立ちそうですか？

あてはまるところひとつに○をつけてください。

1. とても、役に立ちそう。 **28.5**
2. まあ、役に立ちそう。 **52.7**
3. あまり、役に立ちそうもない。 **14.0**
4. まったく、役に立ちそうもない。 **2.6 N.A 2.3**

Q13. あなたは、「教室」で習っていることを、これからも続けて習っていきたいと思いますか？
それとも思いませんか？ あてはまるところひとつに○をつけてください。

- | | | |
|---------------------------------|-------------|----------------|
| 1. 「教室」で続けて習っていきたい。 | 79.5 | |
| 2. 「教室」とは別のところで本格的に習っていきたい。 | 4.4 | |
| 3. この「教室」で習うだけにして、習い続けたいとは思わない。 | 12.4 | N.A 3.7 |

Q14. あなたは、博物館や美術館などに行くことがありますか？
あてはまるところひとつに○をつけてください。

- | | | |
|-------------|-------------|----------------|
| 1. よく、ある。 | 10.3 | |
| 2. 時々、ある。 | 36.3 | |
| 3. ほとんど、ない。 | 33.7 | |
| 4. ぜんぜん、ない。 | 16.8 | N.A 2.9 |

Q15. 伝統文化は大切だと思いますか？ それとも思いませんか？
あてはまるところひとつに○をつけてください。

- | | | |
|-------------------|-------------|----------------|
| 1. とても、大切だと思う。 | 65.7 | |
| 2. まあ、大切だと思う。 | 28.4 | |
| 3. あまり、大切だと思わない。 | 2.4 | |
| 4. ぜんぜん、大切だと思わない。 | 0.6 | N.A 2.9 |

質問はこれでおわりです。「教室」の先生にわたしてください。
最後まで答えてくださり、ありがとうございました。

「伝統文化親子教室」についての調査

朝夕は寒気が肌を刺す今日このごろ、ご健勝にお過ごしのことと思います。日頃、「伝統文化親子教室」についてご理解くださり、また、お子さまを「教室」の活動に参加させてくださり、感謝申し上げます。

このたび、文化庁の委託を受けて「伝統文化親子教室」の事業を実施しています伝統文化親子教室事業事務局では、お子さまの「教室」への参加の実態と、お子さまが「教室」での活動に参加されたことでどのように変わられたかを調べ、「教室」の成果を検証することになりました。つきましては、お子さまの保護者の皆さんにも、調査にご協力をいただきたく、お願い申し上げます。

調査は、無記名で行います。また、書いていただいた答えは数字に直して処理いたしますので、どなたが、どのようにお答えになったかはわからないようになっています。調査データの保管や取扱いには、十分に注意いたします。その点、ご安心のうえ、お答えください。

調査の趣旨をご理解くださり、よろしくご協力をお願いいたします。

平成26年12月

伝統文化親子教室事業事務局
(近畿日本ツーリストグループ株式会社 KNT ビジネススクリエイト内)
〒160-0023 東京都新宿区西新宿 8-14-24 西新宿 KF ビル 3階
TEL : 03-6730-3348 FAX : 03-6730-6029
E-mail : oyakokyoshitsu@gp.knt.co.jp
[お問い合わせ対応時間 平日 10:00~17:00]

お答えいただくときの注意

1. この調査は、「伝統文化親子教室」に通っていらっしゃる小学校4年生から中学校3年生の保護者の方にお願いをしています。
2. 調査は、「教室」に通っているお子さんのうちの何人かの保護者の方にお願いをしています。すべての保護者の方にお願いをしているわけではありませんので、その点、ご承知おきください。
3. 数字に○をつけてお答えください。
4. 記入済の調査票は、活動の日に、お子さんを通じて、「教室」までご提出ください。
5. 調査のことについておわかりにならないことなどがありましたら、上記の「伝統文化親子教室事業事務局」までお問い合わせください。

各教室の代表者の方にお願い

保護者の方にお答えいただいた調査票は、以下に「団体コード」をご記入の上、取りまとめて事務局までご返送ください。

団体コード

<input type="text"/>	<input type="text"/>	-	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	-	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
----------------------	----------------------	---	----------------------	----------------------	----------------------	---	----------------------	----------------------	----------------------

◎「伝統文化親子教室」（以下、「教室」と呼びます）より、この調査票を持ち帰ったお子さん（以下、「お子さん」と呼ばさせていただきます）について、お伺いします。

Q 1. あなたとこの調査票を持ち帰ったお子さんとの関係をお聞きます。あなたは、調査票を持ち帰ったお子さんの何にあたりますか。あてはまるところに○をつけてください。

- | | | | |
|---------------------------|-------------|------------|----------------|
| 1. 母親 | 78.4 | | |
| 2. 父親 | 16.1 | | |
| 3. 祖母 | 3.5 | | |
| 4. 祖父 | 1.1 | | |
| 5. その他（どのような関係ですか： _____） | | 0.5 | N.A 0.4 |

Q 2. この調査票を持ち帰ったお子さんの学年と性別をお聞きます。あてはまるところに○をつけてください。

A) お子さんの学年は…

- | | | | |
|----------|-------------|------------|------------|
| 1. 小学4年生 | 29.2 | | |
| 2. 小学5年生 | 24.1 | | |
| 3. 小学6年生 | 24.4 | | |
| 4. 中学1年生 | 10.1 | | |
| 5. 中学2年生 | 6.6 | | |
| 6. 中学3年生 | 5.7 | N.A | 0.0 |

B) お子さんの性別は…

- | | | | |
|------|-------------|------------|------------|
| 1. 男 | 39.0 | | |
| 2. 女 | 56.3 | N.A | 4.7 |

Q 3. お子さんは、「教室」で何を習っていますか。あてはまるところ 1つ に○をつけてください。

- | | | | |
|-----------------------------------|-------------|------------|------------|
| 1. 神楽、獅子舞、お囃子 | 17.0 | | |
| 2. 民謡や町や村に昔から伝わっている踊り、お芝居や人形芝居 | | 7.7 | |
| 3. 能楽、雅楽 | 7.7 | | |
| 4. 邦楽：箏、三味線、尺八、笛、太鼓など | 12.1 | | |
| 5. 和太鼓 | 10.0 | | |
| 6. 日本舞踊 | 6.1 | | |
| 7. 伝統工芸：昔から伝えられてきた物づくり | 4.5 | | |
| 8. 百人一首、カルタ、囲碁、将棋 | 13.9 | | |
| 9. 茶道、華道 | 13.6 | | |
| 10. 武道：柔道、剣道、古式泳法、相撲、弓道など | 2.8 | | |
| 11. 書道 | 0.8 | | |
| 12. 着物の着付けや作法 | 2.5 | | |
| 13. 昔の遊びや仕事（おりがみ、お手玉、さかなとり、田植えなど） | | 1.8 | |
| 14. その他（何ですか？： _____） | | 7.4 | |
| | | N.A | 1.3 |

Q 4. お子さんは、この「伝統文化親子教室事業」の「教室」になる前から、「教室」に通っていましたか？あてはまる方に○をつけてください。

- | | |
|--------|-------------|
| 1. はい | 51.4 |
| 2. いいえ | 46.9 |

* 次のページに続きます。

→ Q 5 へ
N.A 1.7

Q4で「1」に○を付けた人だけ、答えてください。

SQ. お子さんが「教室」に通うのは、今年で何年目ですか？ 通わなかった年や「教室」が開かれなかった年は除いて、何年目になるのか、あてはまるところに○をつけてください。

- | | | |
|---------------|------|---------|
| 1. 2年目 | 25.2 | |
| 2. 3年目 | 20.5 | |
| 3. 4年目 | 14.3 | |
| 4. 5年目 | 13.1 | |
| 5. もっと長く通っている | 25.5 | N.A 1.3 |

Q5. お子さんを「教室」に参加させたのは、なぜですか。 あてはまるものすべてに○をつけてください。

- | | |
|--------------------------------|------|
| 1. 子供に伝統文化を知ってほしいと思ったので。 | 54.9 |
| 2. 子供に特技を身につけてもらいたいと思ったので。 | 32.1 |
| 3. 子供に行儀や作法を身につけてもらいたかったので。 | 42.3 |
| 4. 子供に幅広い経験をさせたかったので。 | 56.3 |
| 5. 子供に夢中になれるものができるとよいと思ったので。 | 34.5 |
| 6. 子供に友だちをつくってもらいたいと思ったので。 | 20.5 |
| 7. 子供に大人との関わりを学んでもらいたかったので。 | 16.2 |
| 8. 子供に地域との関わりをもってもらいたいと思ったので。 | 26.4 |
| 9. 学校の勉強に役立つと思ったので。 | 8.5 |
| 10. 生活に役立つと思ったので。 | 10.8 |
| 11. 自分には教えられないことを教えてもらえるので。 | 45.0 |
| 12. 自分も伝統文化に関心をもっていたので。 | 27.5 |
| 13. おけいごとをするよりも、費用がかからないので。 | 16.7 |
| 14. おけいごとをするよりも、子供に負担がかからないので。 | 6.6 |
| 15. 安心して子供を預けておけるので。 | 17.9 |
| 16. 他の子供の親も参加させているので。 | 9.8 |
| 17. 「教室」の内容が充実していたので。 | 15.4 |
| 18. 「教室」についてよい評判を聞いたので。 | 16.9 |
| 19. とくに理由はない。 | 1.2 |
| 20. その他（詳しく教えてください： _____） | 10.3 |

N.A 2.2

Q6. このような「教室」があることを、どのようにして知りましたか。

知るきっかけとなったものすべてに○をつけてください。

- | | |
|---------------------------|------|
| 1. 学校の先生からの紹介 | 14.8 |
| 2. おけいごとの先生からの紹介 | 10.9 |
| 3. 「教室」についてのチラシ | 28.6 |
| 4. 市町村が発行している「広報紙」 | 7.5 |
| 5. 市町村のインターネットのサイト | 1.6 |
| 6. 公民館や児童館のポスターや掲示 | 7.2 |
| 7. お子さんの友だちの保護者の方からの情報 | 36.6 |
| 8. 近所の人からの情報 | 14.2 |
| 9. その他（どのようにしてですか： _____） | 12.4 |

N.A 2.2

Q 7. お子さんが「教室」に通うことについて、あなたがどのようにされているかをお聞きます。

次のア)～オ)のそれぞれの質問について、どの程度あてはまるか、あてはまるところ1つに○をつけてください。

◎次のことは、あなたに…	1. とても あてはまる	2. まあ あてはまる	3. あまり あてはまらない	4. まったく あてはまらない	5. N ・ A
ア)「教室」で学んだことやあったことを、お子さんから聞いたり、お子さんと話したりしている。	53.6	41.8	3.1	0.2	1.4
イ)「教室」に休まずに行くようにさせている。	52.9	38.4	6.2	0.8	1.7
ウ)「教室」でお子さんが学んでいるところを見に行っている。	38.0	28.9	20.8	10.0	2.3
エ)「教室」で学んでいることの助けとなるように、本を買ったり、お子さんといっしょに関係するテレビ番組を見たりしている。	12.9	30.5	38.3	16.2	2.0
オ)「教室」で学んでいることの助けとなるように、地域の行事や博物館などに出かけている。	13.7	32.4	37.0	14.6	2.4

Q 8. お子さんは「教室」に、どのくらいの割合で参加していますか。

あてはまるところ1つに○をつけてください。

- 1. 毎回、参加している。 **52.1**
- 2. 時々、休むことがある。 **38.7**
- 3. 参加することと、休むことがそれぞれ半分くらい。 **4.0**
- 4. 時々、参加するくらい。 **2.2**
- 5. ほとんど、参加していない。 **1.0** **N.A** **2.0**

Q 9. 「教室」に通うことでお子さんは変わった、と思いますか。

次のア)～ネ)にあげる変化について、それぞれ、どの程度「そう思うか」、あてはまるところ1つに○をつけてください。

◎「教室」に通うようになって、お子さんは…	1. とても そう思う	2. まあ そう思う	3. あまり そう思わない	4. まったく そう思わない	5. N ・ A
ア) 習っていることが、上手にできるようになった。	59.4	36.7	2.3	0.3	1.2
イ) 習っていることに、興味をもつようになった。	58.1	36.3	3.7	0.3	1.6

*** 次のページに続きます。**

	1. とても そう思う	2. まあ そう思う	3. あまり そう思わない	4. まったく そう思わない	5. N ・ A
◎「教室」に通うようになって、お子さんは…					
ウ) 習っていることを、他の人に見せたり、聞かせたりすることを望むようになった。	32.3	42.7	21.3	1.5	2.1
エ) 返事やお礼がしっかり言えたり、あいさつができたり、礼儀正しくなった。	30.1	53.4	13.7	0.6	2.1
オ) 使ったものの後かたづけを自分でするようになった。	23.0	46.3	26.7	1.6	2.4
カ) 学校の友だちのほか、友だちが増えた。	33.7	42.3	18.0	3.1	2.8
キ) 年上の友だちや年下の友だちが増えた。	37.0	40.9	17.6	1.9	2.6
ク) 年下の子供をやさしくみてあげられるようになった。	30.8	46.1	19.2	1.5	2.5
ケ) 家での話題が増えた。	35.0	48.9	13.2	0.7	2.3
コ) 大人の人と気兼ねなく話をするようになった。	23.9	46.4	25.5	1.6	2.5
サ) 近所の人にあいさつをするようになった。	27.1	48.4	20.4	1.4	2.8
シ) 昔からある、知らなかった遊びをするようになった。	12.1	27.1	51.1	6.6	3.1
ス) お正月や豆まき、ひな祭りや七夕などの季節の行事に関心をもつようになった。	20.1	40.4	33.5	3.5	2.5
セ) 生活のなかの昔から伝えられてきたことや守られてきたことに、興味をもつようになった。	19.6	47.0	28.2	2.5	2.6
ソ) 生活のなかの昔から伝えられてきたことや守られてきたことを、大事にするようになった。	16.9	49.1	28.7	2.1	3.2
タ) 「教室」のなかで、尊敬できる人ができた。	38.2	41.3	16.7	1.0	2.8
チ) 地域の歴史に関心をもつようになった。	15.5	40.2	37.9	3.5	2.9
ツ) 地域の自然に関心をもつようになった。	13.5	38.0	41.4	4.0	3.0
テ) 地域のお祭や行事に参加するようになった。	38.9	36.8	19.2	2.5	2.6
ト) 住んでいるところに愛着をもつようになった。	25.7	46.0	23.3	1.9	3.1
ナ) 楽しそうにしていることが多くなった。	39.6	45.7	11.7	0.5	2.4
ニ) 自信をもってすることが多くなった。	38.0	45.2	13.3	0.8	2.7
ヌ) むずかしいことにチャレンジしようという意欲が増した。	34.9	44.6	17.3	1.0	2.2
ネ) 最後までがんばってやりとげようとする粘り強さが増した。	38.9	43.7	14.3	0.8	2.2

Q10. この「教室」にお子さんを通わせて、あなた自身がどのように変わったか、お聞きします。

次のア)～カ)のそれぞれの質問は、あなたにどの程度、あてはまりますか。

あてはまるところ1つに○をつけてください。

	1. とても あてはまる	2. まあ あてはまる	3. あまり あてはまらない	4. まったく あてはまらない	5. N ・ A
◎お子さんが「教室」に通うようになって、 あなたは…					
ア) これまで見ることがなかった子供の生き生きした表情を見ることができた。	46.0	44.2	7.4	0.2	2.2
イ) これまで知らなかった能力や性格が子供にあることを知った。	42.3	45.1	9.8	0.5	2.4
ウ) 子供の成長を実感した。	58.5	35.3	3.5	0.2	2.5
エ) 伝統文化について、あなた自身、知らなかったことを新たに知ることができた。	51.5	37.8	7.6	0.7	2.4
オ) 「教室」を通じて、地域の人や他のお子さんの保護者の方と知り合いになれた。	46.4	35.5	12.9	2.6	2.6
カ) 自分も何か学びたくなった。	29.6	40.2	23.8	3.7	2.7

Q11. あなたは、お子さんに、今、「教室」で習っていることを、これからも習わせていきたいと思いませんか。それとも
思いませんか。あてはまるところ1つに○をつけてください。

- | | | | |
|-----------------------------------|------|-----|-----|
| 1. 「教室」で続けて習わせていきたい。 | 84.5 | | |
| 2. 「教室」とは別のところで本格的に習わせていきたい。 | 3.3 | | |
| 3. この「教室」で習うだけにして、習い続けさせたいとは思わない。 | 9.4 | N.A | 2.9 |

Q12. あなたは、お子さんを「教室」に通わせてよかったと思いませんか。それとも思いませんか。

あてはまるところ1つに○をつけてください。

- | | | | |
|--------------------|------|-----|-----|
| 1. とても、よかったと思う。 | 83.8 | | |
| 2. まあ、よかったと思う。 | 13.6 | | |
| 3. あまり、よかったと思わない。 | 0.3 | | |
| 4. まったく、よかったと思わない。 | 0.1 | N.A | 2.2 |

Q13. お子さんが「教室」で習っていることは、生活のなかで、どのくらい、役に立ちそうですか。

あてはまるところ1つに○をつけてください。

- | | | | |
|--------------------|------|-----|-----|
| 1. とても、役に立ちそう。 | 45.4 | | |
| 2. まあ、役に立ちそう。 | 44.6 | | |
| 3. あまり、役に立ちそうもない。 | 7.0 | | |
| 4. まったく、役に立ちそうもない。 | 0.8 | N.A | 2.3 |

Q14. 「伝統文化親子教室」の事業は、どのくらい、意義のあることだと思いますか。

あてはまるところ1つに○をつけてください。

- | | |
|------------------------|----------------------------------|
| 1. とても意義のあることだと思う。 | 74.7 |
| 2. まあ、意義のあることだと思う。 | 19.0 |
| 3. どちらともいえない。 | 1.9 |
| 4. あまり、意義のあることだと思わない。 | 0.2 |
| 5. まったく、意義のあることだと思わない。 | 0.0 N.A 4.2 |

Q15. 「伝統文化」についてのあなたの考えをお聞きます。

あなたは、次のア)～オ)のそれぞれの考えについて、どの程度、そう思いますか。

あてはまるところ1つに○をつけてください。

	1. とても そう 思う	2. まあ そう 思う	3. あまり そう 思わ ない	4. ま った く そう 思 わ な い	5. N ・ A
ア) 伝統文化は、守り、残していく必要がある。	81.3	15.8	0.4	0.1	2.3
イ) 伝統文化を守り、伝えていくのは若い人の役割である。	48.4	41.6	6.5	0.5	2.9
ウ) 伝統文化は、私たちの誇りでもある。	59.8	34.4	2.1	0.3	3.4
エ) 伝統文化は、すでに過去のものになっている。	4.9	11.9	45.4	34.6	3.2
オ) 伝統文化は、時代に合わせて変わっていく必要がある。	10.3	35.1	41.8	9.7	3.1

◎最後に、あなた自身のことについてお聞きます。

Q16. あなたの年齢は、次のどこにあてはまりますか。あてはまる場所に○をつけてください。

- | | |
|------------|----------------------------------|
| 1. ～24歳 | 0.4 |
| 2. 25歳～29歳 | 1.1 |
| 3. 30歳～34歳 | 7.5 |
| 4. 35歳～39歳 | 22.1 |
| 5. 40歳～44歳 | 38.2 |
| 6. 45歳～49歳 | 19.3 |
| 7. 50歳～54歳 | 4.4 |
| 8. 55歳～59歳 | 1.0 |
| 9. 60歳～ | 3.7 N.A 2.2 |

質問はこれでおわりです。最後まで答えてくださり、ありがとうございました。

この調査票は、お子さんを通して「教室」までご提出ください。

「伝統文化親子教室」についての調査

朝夕は寒気が肌を刺す今日このごろ、ご健勝にお過ごしのことと思います。日頃、「伝統文化親子教室」の趣旨をご理解くださるとともに、子供たちの指導にご尽力くださり、感謝申し上げます。

このたび、文化庁の委託を受けて「伝統文化親子教室」の事業を実施しています伝統文化親子教室事業事務局では、「教室」における活動の実態と子供たちの「教室」参加の実際、さらには子供たちが「教室」での活動を通じて、どのように変化したかを調べ、「教室」の成果を検証することになりました。つきましては、日頃、「教室」で子供たちの指導にあたられている指導者の皆さまにも、「教室」の成果にかかわる見方や考え方をおうかがいいたしたく、お願いをすることになりました。お忙しいなか、恐縮ではございますが、調査にご協力くださるよう、お願い申し上げます。

調査は、無記名で行い、書いていただいた答えは数字に直して処理いたしますので、どなたが、どのようにお答えになったかはわからないようになっています。調査で得られたデータの保管や取扱いには、十分に注意いたします。その点、ご安心のうえ、お答えください。

調査の趣旨をご理解くださり、よろしくご協力のほど、お願い申し上げます。

平成26年12月

伝統文化親子教室事業事務局
(近畿日本ツーリストグループ株式会社 KNT ビジネスクリエイト内)
〒160-0023 東京都新宿区西新宿 8-14-24 西新宿 KF ビル 3 階
TEL : 03-6730-3348 FAX : 03-6730-6029
E-mail : oyakokyoshitsu@gp.knt.co.jp
[お問い合わせ対応時間 平日 10:00~17:00]

お答えいただくときの注意

1. 各「教室」とも、指導者のなかからお二人を選んでお願いしています。すべての指導者の方をお願いしているわけではありませんので、その点、ご承知おきください。

※指導者がお一人の場合は、回答者は一人でも構いません。

2. 数字に○をつけてお答えください。数字を記入していただく質問もあります。

各教室の代表者の方へお願い

指導者の方にお答えいただいた調査票は、以下に「団体コード」をご記入の上、取りまとめて事務局までご返送ください。

団体コード - -

◎指導をされている文化庁が支援している「伝統文化親子教室」（以下、「教室」と呼びます）について、お伺いします。

Q 1. 「教室」の「分野」は何ですか。 あてはまるところに○をつけてください。

- | | |
|-----------------------------------|----------------|
| 1. 神楽、獅子舞、お囃子 | 18.7 |
| 2. 民謡や町や村に昔から伝わっている踊り、お芝居や人形芝居 | 8.3 |
| 3. 能楽、雅楽 | 8.0 |
| 4. 邦楽：箏、三味線、尺八、笛、太鼓など | 9.9 |
| 5. 和太鼓 | 7.5 |
| 6. 日本舞踊 | 7.5 |
| 7. 伝統工芸：昔から伝えられてきた物づくり | 4.8 |
| 8. 百人一首、カルタ、囲碁、将棋 | 16.5 |
| 9. 茶道、華道 | 13.9 |
| 10. 武道：柔道、剣道、古式泳法、相撲、弓道など | 2.1 |
| 11. 書道 | 0.3 |
| 12. 着物の着付けや作法 | 2.4 |
| 13. 昔の遊びや仕事（おりがみ、お手玉、さかなとり、田植えなど） | 2.4 |
| 14. その他（何ですか？：_____） | 7.7 |
| | N.A 0.5 |

Q 2. 「教室」がある地域は、どのような地域ですか。

最もよくあてはまるところに○をつけてください。

- | | | |
|---------------|------|----------------|
| 1. 商業地域 | 12.5 | |
| 2. 工業地域 | 1.9 | |
| 3. 住宅地域 | 68.8 | |
| 4. 農業・漁業・林業地域 | 16.0 | N.A 0.8 |

Q 3. 「教室」は、主にどこを会場にして開いていらっしゃるでしょうか。

最も使うことの多いところに○をつけてください。

- | | |
|---------------------------|----------------|
| 1. 公民館、自治会館 | 39.7 |
| 2. 市民センター、コミュニティセンター | 20.8 |
| 3. 児童館 | 3.5 |
| 4. 学校の教室や体育館 | 14.9 |
| 5. 神社、お寺 | 5.9 |
| 6. 広場、公園 | 0.8 |
| 7. 指導者の自宅 | 1.6 |
| 8. その他（どのようなところですか：_____） | 10.4 |
| | N.A 2.4 |

Q 4. 伝統文化親子教室事業となつてからの「教室」に参加する子供達の割合は、おおよそどのくらいですか？ 子供達の参加年数別に（ ）のなかに割合を記入してください。

1年目・・・(Ave. 5.45) 割

2年目・・・(Ave. 4.55) 割

Q 5. 「教室」に最後まで参加し、「教室」を終えられていく子供たちは、全体のどのくらいの割合ですか。おおよその割合で結構ですので、昨年度までの実績で、あてはまるところ1つに○をつけてください。

- | | | | |
|-----------------------------|------|-----|-----|
| 1. ほぼ全員が最後まで参加し、「教室」を終えていく。 | 50.1 | | |
| 2. 9割以上 | 16.5 | | |
| 3. 8割以上～9割未満 | 16.3 | | |
| 4. 7割以上～8割未満 | 16.3 | | |
| 5. 6割以上～7割未満 | 2.4 | | |
| 6. 5割以上～6割未満 | 1.3 | | |
| 7. 5割未満 | 1.9 | | |
| 8. わからない | 0.3 | N.A | 2.1 |

Q 6. 平成26年度の「教室」の一回当たりの平均参加人数（子供）は何人ですか。

学年別に（ ）のなかに人数を記入してください。

<小学生>

1年生・・・(Ave. 1.91) 人

2年生・・・(Ave. 2.01) 人

3年生・・・(Ave. 2.34) 人

4年生・・・(Ave. 2.61) 人

5年生・・・(Ave. 2.60) 人

6年生・・・(Ave. 2.82) 人

<中学生>

1年生・・・(Ave. 1.27) 人

2年生・・・(Ave. 1.05) 人

3年生・・・(Ave. 0.69) 人

Q 7. 「教室」では、あなたを含めて、何人の方が指導にあたっていらっしゃいますか。直接、子供の指導にあたる方のほか、指導の補助をする方や「教室」開催の準備をされる方なども含めて、「教室」の開催にかかわっていらっしゃる方的人数をお教えてください。

(Ave. 6.82) 人

Q8. 「教室」に通うことで子供たちは変わった、と思いますか。次のア)～テ) にあける変化について、それぞれ、どの程度「そう思うか」、あてはまるところ1つに○をつけてください。

お答えは、あなたからみた全体的な印象で結構です。

	1. とても そう思う	2. まあ そう思う	3. あまり そう思わない	4. まったく そう思わない	5. N ・ A
◎「教室」に通うことで、子供たちは…					
ア) 習っていることが、上手にできるようになった。	72.8	25.6	0.3	0.0	1.3
イ) 習っていることに、興味をもつようになった。	65.1	33.1	0.8	0.0	1.1
ウ) 習っていることを、他の人に見せたり、聞かせたりすることを望むようになった。	51.5	38.9	7.2	0.3	2.1
エ) 返事やお礼がしっかり言えたり、あいさつができたり、礼儀正しくなった。	57.3	37.6	4.0	0.0	1.1
オ) 使ったものの後かたづけを自分でするようになった。	52.3	41.3	4.0	0.3	2.1
カ) 学校の友だちのほかに、友だちが増えた。	36.8	49.9	8.8	1.6	2.9
キ) 年上の友だちや年下の友だちが増えた。	48.5	42.1	5.6	0.5	3.2
ク) 年下の子供をやさしくみてあげられるようになった。	49.6	41.6	5.6	0.5	2.7
ケ) 大人の人と気兼ねなく話をするようになった。	37.3	53.6	7.2	0.0	1.9
コ) 昔からある、知らなかった遊びをするようになった。	12.5	35.5	39.2	4.5	8.3
サ) お正月や豆まき、ひな祭りや七夕などの季節の行事に関心をもつようになった。	20.0	43.5	25.6	3.2	7.7
シ) 生活のなかの昔から伝えられてきたことや守られてきたことに、興味をもつようになった。	26.9	51.2	14.9	1.6	5.3
ス) 生活のなかの昔から伝えられてきたことや守られてきたことを、大事にするようになった。	26.4	53.9	14.1	0.5	5.1
セ) 地域の歴史に関心をもつようになった。	17.3	47.2	28.5	0.5	6.4
ソ) 地域の自然に関心をもつようになった。	13.9	45.9	30.9	1.6	7.7
タ) 地域のお祭や行事に参加するようになった。	43.2	38.9	12.0	0.0	5.9
チ) 住んでいるところに愛着をもつようになった。	26.7	50.1	14.7	0.0	8.5
ツ) むずかしいことにチャレンジしようという意欲が増した。	48.3	42.7	6.1	0.0	2.9
テ) 最後までがんばってやりとげようとする粘り強さが増した。	61.3	34.4	2.4	0.0	1.9

Q9. 「教室」は、社会でどのような役割を果たしているとお考えですか。

それぞれについて、どの程度、役立っているか、あてはまるところ1つに○をつけてください。

◎「教室」は…	1. とても 役立っている	2. まあ 役立っている	3. あまり 役立っていない	4. まったく 役立っていない	5. N ・ A
ア) わが国の歴史や伝統、文化に対する人々の理解を深めたり、広めたりすることに…	67.5	28.5	1.6	0.0	2.4
イ) 子供たちの、歴史、伝統、文化に対する関心を高めることに…	61.6	34.4	1.3	0.0	2.7
ウ) 子供たちに、歴史、伝統、文化を尊重する態度を育てることに…	61.9	32.8	1.9	0.0	3.5
エ) 地域の人々のつながりを生み出すことに…	54.9	36.5	5.1	0.0	3.5
オ) 地域活動を活発にすることに…	54.1	36.0	5.9	0.0	4.0
カ) 地域の歴史や伝統、文化に対する人々の理解を深めたり、広めたりすることに…	49.3	41.1	6.4	0.0	3.2
キ) 子供たちに、豊かな人間性を身につけさせることに…	66.4	30.4	0.5	0.0	2.7
ク) 地域の歴史や伝統、文化を次世代に引き継ぎ、発展させることに…	65.1	28.3	2.7	0.0	4.0

Q10. 「教室」の指導をするなかで、あなたがどのように感じていらっしゃるかをお聞きします。

次のそれぞれが、どのくらい、あてはまるか、あてはまるところ1つに○をつけてください。

◎「教室」の指導をするなかで…	1. とても あてはまる	2. まあ あてはまる	3. あまり あてはまらない	4. まったく あてはまらない	5. N ・ A
ア) 子供について新たな発見をしている。	69.6	26.7	1.1	0.0	2.7
イ) 自分自身について新たな発見をしている。	46.7	45.1	5.3	0.0	2.9
ウ) 教えている内容について新たな発見をしている。	54.4	38.9	3.5	0.0	3.2
エ) 子供に教えることの喜びを感じている。	78.9	16.8	1.3	0.0	2.9

* 次のページに続きます。

◎「教室」の指導をするなかで…	1. とても あてはまる	2. まあ あてはまる	3. あまり あてはまらない	4. まったく あてはまらない	5. N ・ A
オ) 地域の人々とのつながりができてきている。	62.4	28.3	5.9	0.3	3.2
カ) 地域の歴史や文化、自然についての理解が深まっている。	36.5	48.3	10.1	0.8	4.3
キ) 地域の課題がわかってきている。	26.7	44.3	22.9	1.6	4.5
ク) わが国の伝統文化について、理解が深まっている。	52.8	37.6	5.1	0.3	4.3
ケ) 達成感を感じている。	64.3	30.1	1.6	0.5	3.5
コ) 生きがいを感じている。	55.2	36.0	4.8	0.0	4.0

◎あなたのことをお聞きします。

Q11. あなたの年齢は、次のどこにあてはまりますか。 あてはまるところに○をつけてください。

- | | | | |
|------------|------|-----|-----|
| 1. 19歳以下 | 0.3 | | |
| 2. 20歳～29歳 | 4.3 | | |
| 3. 30歳～39歳 | 8.3 | | |
| 4. 40歳～49歳 | 16.5 | | |
| 5. 50歳～59歳 | 17.6 | | |
| 6. 60歳～69歳 | 29.3 | | |
| 7. 70歳～79歳 | 19.2 | | |
| 8. 80歳以上 | 2.7 | N.A | 1.9 |

Q12. あなたの性別をお教えてください。 あてはまる方に○をつけてください。

- | | | | |
|-------|------|-----|-----|
| 1. 男性 | 48.5 | | |
| 2. 女性 | 49.6 | N.A | 1.9 |

Q13. あなたは「教室」で、主にどのような役割を担っていますか。

あてはまるところ1つに○をつけてください。

- | | |
|--------------------------|------|
| 1. 子供に、直接、指導している。 | 68.8 |
| 2. 指導の補助をしている。 | 17.1 |
| 3. 「教室」を開催するための準備をしている。 | 5.3 |
| 4. その他（どのような役割ですか：_____） | 0.5 |

N.A 8.3

Q14. あなたは、これまで何年間、「教室」で子供たちの指導をされていらっしゃいましたか。

続けて指導をされていらっしゃらなくても結構です。

今年度から実施している「伝統文化親子教室事業」の「教室」となる前から指導されている「教室」も含め、これまで指導された年数の総計をお答えください。

（ **Ave. 9.73** ）年間

Q15. 「伝統文化親子教室」の事業は、どのくらい、意義のあることだと思いますか。

あてはまるところ1つに○をつけてください。

- | | |
|------------------------|------|
| 1. とても意義のあることだと思う。 | 89.6 |
| 2. まあ、意義のあることだと思う。 | 3.5 |
| 3. どちらともいえない。 | 0.3 |
| 4. あまり、意義のあることだと思わない。 | 0.0 |
| 5. まったく、意義のあることだと思わない。 | 0.0 |

N.A 6.7

質問はこれでおわりです。最後までお答えくださり、ありがとうございました。

この調査票は、「教室」の代表者の方におわたしてください。

「放課後子供教室」及び「土曜日の教育活動」についての調査

朝夕は寒気が肌を刺す今日このごろ、ご健勝にお過ごしのことと思います。日頃、「伝統文化親子教室」の趣旨をご理解くださるとともに、子供たちの指導にご尽力くださり、感謝申し上げます。

このたび、文化庁の委託を受けて「伝統文化親子教室」の事業を実施しています伝統文化親子教室事業事務局では、「伝統文化親子教室」における調査に加え、「放課後子供教室」及び「土曜日の教育活動」においても、その活動の実態と子供たちの参加の実際、さらには子供たちが活動を通じて、どのように変化したかを調べ、成果を検証することになりました。

「放課後子供教室」及び「土曜日の教育活動」と連携した取組を実施されている指導者の皆さまにも、成果にかかわる見方や考え方をおうかがいいたしたく、お願いをすることになりました。お忙しいなか、恐縮ではございますが、調査にご協力くださるよう、お願い申し上げます。

調査は、無記名で行い、書いていただいた答えは数字に直して処理いたしますので、どなたが、どのようにお答えになったかはわからないようになっていきます。調査で得られたデータの保管や取扱いには、十分に注意いたします。その点、ご安心のうえ、お答えください。

調査の趣旨をご理解くださり、よろしくご協力のほど、お願い申し上げます。

平成26年12月

伝統文化親子教室事業事務局
(近畿日本ツーリストグループ株式会社 KNT ビジネスクリエイト内)
〒160-0023 東京都新宿区西新宿 8-14-24 西新宿 KF ビル 3 階
TEL : 03-6730-3348 FAX : 03-6730-6029
E-mail : oyakokyoshitsu@gp.knt.co.jp
[お問い合わせ対応時間 平日 10 : 00 ~ 17 : 00]

お答えいただくときの注意

1. 各「教室」とも、指導者のなかからお二人を選んでお願いしています。すべての指導者の方をお願いしているわけではありませんので、その点、ご承知おきください。

※指導者がお一人の場合は、回答者は一人でも構いません。

2. 数字に○をつけてお答えください。数字を記入していただく質問もあります。

各教室の代表者の方へお願い

指導者の方にお答えいただいた調査票は、以下に「団体コード」をご記入の上、取りまとめて事務局までご返送ください。

団体コード - -

◎指導をされている「放課後子供教室」（以下、「子供教室」と呼びます）

及び「土曜日の教育活動」（以下、「教育活動」と呼びます）について、お伺いします。

Q 1. 「子供教室」及び「教育活動」の「分野」は何ですか。

あてはまるものに○をつけてください。

- | | |
|-----------------------------------|---------|
| 1. 神楽、獅子舞、お囃子 | 2.8 |
| 2. 民謡や町や村に昔から伝わっている踊り、お芝居や人形芝居 | 2.8 |
| 3. 能楽、雅楽 | 8.3 |
| 4. 邦楽：箏、三味線、尺八、笛、太鼓など | 11.1 |
| 5. 和太鼓 | 11.1 |
| 6. 日本舞踊 | 8.3 |
| 7. 伝統工芸：昔から伝えられてきた物づくり | 8.3 |
| 8. 百人一首、カルタ、囲碁、将棋 | 15.3 |
| 9. 茶道、華道 | 23.6 |
| 10. 武道：柔道、剣道、古式泳法、相撲、弓道など | 1.4 |
| 11. 書道 | 1.4 |
| 12. 着物の着付けや作法 | 5.6 |
| 13. 昔の遊びや仕事（おりがみ、お手玉、さかなとり、田植えなど） | 13.9 |
| 14. その他（何ですか？：_____） | 9.7 |
| | N.A 0.0 |

Q 2. 「子供教室」及び「教育活動」開催場所がある地域は、どのような地域ですか。

最もよくあてはまるところに○をつけてください。

- | | | |
|---------------|------|---------|
| 1. 商業地域 | 5.6 | |
| 2. 工業地域 | 0.0 | |
| 3. 住宅地域 | 77.8 | |
| 4. 農業・漁業・林業地域 | 16.7 | N.A 0.0 |

Q 3. 「子供教室」及び「教育活動」は、主にどこを会場にして開いていらっしゃいますか。

最も使うことの多いところに○をつけてください。

- | | |
|---------------------------|---------|
| 1. 小学校、学校内施設 | 75.0 |
| 2. 児童館 | 0.0 |
| 3. 公民館 | 12.5 |
| 4. 市民センター、コミュニティセンター | 8.3 |
| 5. その他（どのようなところですか：_____） | 4.2 |
| | N.A 0.0 |

Q 4. 「子供教室」及び「教育活動」は、何をきっかけに知りましたか。

あてはまるものすべてに○をつけてください。

- | | |
|--|------|
| 1. 都道府県の担当部局からの情報提供 | 10.4 |
| 2. 市区町村の担当部局からの情報提供 | 32.3 |
| 3. 「子供教室」及び「教育活動」に申請・参加している他団体からの紹介 | 19.8 |
| 4. 文部科学省のホームページ | 7.3 |
| 5. 「伝統文化親子教室事業」の募集案内 | 18.8 |
| 6. 「伝統文化親子教室事業」の「親子教室」に参加している子供の保護者からの紹介 | 2.1 |
| 7. その他 (_____) | 9.4 |

N. A 0.0

Q 5. 平成26年度の「子供教室」及び「教育活動」の1回当たりの平均参加人数（子供）は何人ですか。

学年別に（ ）のなかに人数を記入してください。

<小学生>

- 1年生・・・(Ave. 6.93)人
2年生・・・(Ave. 7.06)人
3年生・・・(Ave. 5.11)人
4年生・・・(Ave. 4.22)人
5年生・・・(Ave. 2.51)人
6年生・・・(Ave. 3.22)人

<中学生>

- 1年生・・・(Ave. 1.53)人
2年生・・・(Ave. 1.74)人
3年生・・・(Ave. 0.03)人

Q 6. 「子供教室」及び「教育活動」では、あなたを含めて、何人の方が指導にあたっていらっしゃいますか。

直接、子供の指導にあたる方のほか、指導の補助をする方や開催の準備をされる方なども含めて、開催にかかわっていらっしゃる方的人数をお教えてください。

直接指導をしている方的人数 (Ave. 3.06)人

上記の他、指導の補助をする方や開催に関わっている方的人数 (Ave. 4.03)人

Q 7. 「子供教室」及び「教育活動」に通うことで子供たちは変わった、と思いますか。次のア)～テ)にあ

げる変化について、それぞれ、どの程度「そう思うか」、あてはまるところ1つに○をつけてください。

お答えは、あなたからみた全体的な印象で結構です。

*** 次のページに続きます。**

◎「子供教室」及び「教育活動」に通うことで、 子供たちは…	1. とても そう思う	2. まあ そう思う	3. あまり そう思わない	4. まったく そう思わない	5. N ・ A
ア) 習っていることが、上手にできるようになった。	54.2	40.3	5.6	0.0	0.0
イ) 習っていることに、興味をもつようになった。	66.7	33.3	0.0	0.0	0.0
ウ) 習っていることを、他の人に見せたり、聞かせたりすることを望むようになった。	43.1	45.8	11.1	0.0	0.0
エ) 返事やお礼がしっかり言えたり、あいさつができたり、礼儀正しくなった。	65.3	33.3	1.4	0.0	0.0
オ) 使ったものの後かたづけを自分でするようになった。	63.9	29.2	6.9	0.0	0.0
カ) 学校の友だちのほかに、友だちが増えた。	33.3	38.9	15.3	2.8	9.7
キ) 年上の友だちや年下の友だちが増えた。	41.7	43.1	6.9	1.4	6.9
ク) 年下の子供をやさしくみてあげられるようになった。	48.6	36.1	11.1	1.4	2.8
ケ) 大人の人と気兼ねなく話をするようになった。	40.3	52.8	5.6	0.0	1.4
コ) 昔からある、知らなかった遊びをするようになった。	26.4	36.1	25.0	1.4	11.1
サ) お正月や豆まき、ひな祭りや七夕などの季節の行事に関心をもつようになった。	27.8	44.4	13.9	2.8	11.1
シ) 生活のなかの昔から伝えられてきたことや守られてきたことに、興味をもつようになった。	33.3	44.4	9.7	4.2	8.3
ス) 生活のなかの昔から伝えられてきたことや守られてきたことを、大事にするようになった。	30.6	48.6	8.3	4.2	8.3
セ) 地域の歴史に関心をもつようになった。	15.3	0.0	26.4	2.8	11.1
ソ) 地域の自然に関心をもつようになった。	26.4	36.1	25.0	1.4	11.1
タ) 地域のお祭や行事に参加するようになった。	29.2	47.2	13.9	1.4	8.3
チ) 住んでいるところに愛着をもつようになった。	22.2	50.0	15.3	1.4	11.1
ツ) むずかしいことにチャレンジしようという意欲が増した。	56.9	34.7	6.9	1.4	0.0
テ) 最後までがんばってやりとげようとする粘り強さが増した。	59.7	34.7	4.2	1.4	0.0

Q 8. 「子供教室」及び「教育活動」は、社会でどのような役割を果たしているとお考えですか。

それぞれについて、どの程度、役立っているか、あてはまるところ1つに○をつけてください。

◎「子供教室」及び「教育活動」は…	1. とても 役立っている	2. まあ 役立っている	3. あまり 役立っていない	4. まったく 役立っていない	5. N ・ A
ア) わが国の歴史や伝統、文化に対する人々の理解を深めたり、広めたりすることに…	72.2	18.1	5.6	0.0	4.2
イ) 子供たちの、歴史、伝統、文化に対する関心を高めることに…	68.1	20.8	2.8	0.0	8.3
ウ) 子供たちに、歴史、伝統、文化を尊重する態度を育てることに…	65.3	20.8	5.6	0.0	8.3
エ) 地域の人々のつながりを生み出すことに…	55.6	37.5	2.8	0.0	4.2
オ) 地域活動を活発にすることに…	50.0	41.7	2.8	0.0	5.6
カ) 地域の歴史や伝統、文化に対する人々の理解を深めたり、広めたりすることに…	55.6	30.6	2.8	1.4	9.7
キ) 子供たちに、豊かな人間性を身につけさせることに…	73.6	19.4	1.4	0.0	5.6
ク) 地域の歴史や伝統、文化を次世代に引き継ぎ、発展させることに…	61.1	25.0	6.9	0.0	6.9

Q 9. 「子供教室」及び「教育活動」の指導をするなかで、あなたがどのように感じているかをお聞きします。

次のそれぞれが、どのくらい、あてはまるか、あてはまるところ1つに○をつけてください。

◎「子供教室」及び「教育活動」の 指導をするなかで…	1. とても あてはまる	2. まあ あてはまる	3. あまり あてはまらない	4. まったく あてはまらない	5. N ・ A
ア) 子供について新たな発見をしている。	76.4	18.1	0.0	0.0	5.6
イ) 自分自身について新たな発見をしている。	51.4	34.7	8.3	0.0	5.6
ウ) 教えている内容について新たな発見をしている。	61.1	27.8	5.6	0.0	5.6
エ) 子供に教えることの喜びを感じている。	76.4	19.4	2.8	0.0	1.4

* 次のページに続きます。

◎「子供教室」及び「教育活動」の 指導をするなかで…	1. とても あてはまる	2. まあ あてはまる	3. あまり あてはまらない	4. まったく あてはまらない	5. N ・ A
オ) 学校関係者とのつながりができてきている。	58.3	25.0	11.1	0.0	5.6
カ) 地域の人々とのつながりができてきている。	54.2	37.5	2.8	0.0	5.6
キ) 地域の歴史や文化、自然についての理解が深まっている。	30.6	48.6	8.3	0.0	12.5
ク) 地域の課題がわかってきている。	20.8	43.1	19.4	1.4	15.3
ケ) わが国の伝統文化について、理解が深まっている。	52.8	31.9	4.2	1.4	9.7
コ) 達成感を感じている。	55.6	31.9	5.6	0.0	6.9
サ) 生きがいを感じている。	56.9	27.8	8.3	0.0	6.9

◎あなたのことをお聞きします。

Q10. あなたの年齢は、次のどこにあてはまりますか。 あてはまるところに○をつけてください。

- | | | | |
|------------|------|-----|-----|
| 1. 19歳以下 | 1.4 | | |
| 2. 20歳～29歳 | 0.0 | | |
| 3. 30歳～39歳 | 9.7 | | |
| 4. 40歳～49歳 | 26.4 | | |
| 5. 50歳～59歳 | 18.1 | | |
| 6. 60歳～69歳 | 30.6 | | |
| 7. 70歳～79歳 | 9.7 | | |
| 8. 80歳以上 | 2.8 | N.A | 1.4 |

Q11. あなたの性別をお教えてください。 あてはまる方に○をつけてください。

- | | | | |
|-------|------|-----|-----|
| 1. 男性 | 29.2 | | |
| 2. 女性 | 69.4 | N.A | 1.4 |

Q12. あなたは「子供教室」及び「教育活動」で、主にどのような役割を担っていますか。

あてはまるところ1つに○をつけてください。

- | | |
|--------------------------|------|
| 1. 子供に、直接、指導している。 | 68.1 |
| 2. 指導の補助をしている。 | 15.3 |
| 3. 「教室」を開催するための準備をしている。 | 6.9 |
| 4. その他（どのような役割ですか：_____） | 1.4 |

N.A 8.3

Q13. 「子供教室」及び「教育活動」をはじめ、あなたは、これまで何年間、子供たちの指導をされていらっ
しゃいましたか。続けて指導をされていらっしゃらなくても結構です。

これまで指導された年数の総計をお答えください。

（ **Ave. 10.18** ）年間

Q14. 「子供教室」及び「教育活動」の事業は、どのくらい、意義のあることだと思いますか。

あてはまるところ1つに○をつけてください。

- | | |
|------------------------|------|
| 1. とても意義のあることだと思う。 | 81.9 |
| 2. まあ、意義のあることだと思う。 | 11.1 |
| 3. どちらともいえない。 | 0.0 |
| 4. あまり、意義のあることだと思わない。 | 0.0 |
| 5. まったく、意義のあることだと思わない。 | 0.0 |

N.A 6.9

Q15. 「子供教室」及び「教育活動」の事業と、「伝統文化親子教室事業」が連携した結果、どのくらい、効
果があったと思いますか。 あてはまるところ1つに○をつけてください。

- | | |
|----------------------|------|
| 1. とても効果があったと思う。 | 62.5 |
| 2. まあ、効果があったと思う。 | 25.0 |
| 3. どちらともいえない。 | 4.2 |
| 4. あまり、効果があったと思わない。 | 0.0 |
| 5. まったく、効果があったと思わない。 | 0.0 |

N.A 8.3

Q16. 「子供教室」及び「教育活動」の事業と、「伝統文化親子教室事業」との今後の連携はどのように思い
ますか。 あてはまるところ1つに○をつけてください。

- | | |
|---------------------|------|
| 1. 今後も連携する方が良い。 | 77.8 |
| 2. どちらともいえない。 | 11.1 |
| 3. 今後は事業を分けて行う方が良い。 | 2.8 |

N.A 8.3

質問はこれでおわりです。最後までお答えくださり、ありがとうございました。

この調査票は、代表者の方におわたしてください。

7. 資料

■ 調査実施計画

伝統文化親子教室 子供たちの意識・行動に関する調査 実施計画

1. 調査の目的

伝統文化親子教室事業の目的である「伝統文化・生活文化に関する活動を計画的・継続的に体験・修得できる機会を提供する取組に対して補助を行うことにより、伝統文化・生活文化の継承・発展と、子供たちの豊かな人間性の涵養に資する」（平成 26 年度募集案内）ことを踏まえ、本事業を通じて子供たちが計画的・継続的に伝統文化を体験・修得したことで、子供たちの伝統文化への意識や行動がどのように変化したかを調査し、本事業の実施成果を把握する。

2. 調査の概要

上記の目的を達成するために、以下の質問紙調査を実施する。

- (1) 「親子教室」に参加した子供に対する質問紙調査（子供調査）
- (2) 「親子教室」に子供を参加させた保護者に対する質問紙調査（保護者調査）
- (3) 「親子教室」の指導者に対する質問紙調査（指導者調査）
- (4) 「放課後子供教室」及び「土曜日の教育活動」と連携した取組における指導者に対する質問紙調査（指導者調査<放課後子供教室・土曜日の教育活動>）

3. 調査の実施計画

3-1. 各調査における調査対象者

調査	対象者	対象者数
(1) 子供調査	親子教室に参加している小学4年～中学3年の子供	2,500名
(2) 保護者調査	上記の子供の保護者	2,500名
(3) 指導者調査	親子教室の指導者	500名
(4) 指導者調査 <放課後子供教室・土曜日の教育活動>	放課後子供教室 及び 土曜日の教育活動 の指導者	500名

3-2. 調査項目

- ・平成 22 年度文化庁委託事業「伝統文化こども教室 子どもたちの意識・行動に関する調査」の調査項目を基本とする

調査	調査項目
(1) 子供調査	1 A. 学年 1 B. 性別 2. 参加している「教室」の分野 3. 参加前の経験の有無 4. 加年数（今年で何年目か）

調 査	調 査 項 目
(3) 指導者調査	9. 指導者からみた「伝統文化親子教室」事業の社会における役割 10. 指導するなかで感じていること 11. 指導者の年齢 12. 指導者の性別 13. 指導者の「教室」での役割 14. 指導者の「教室」での指導経験年数 15. 指導者からみた「伝統文化親子教室」事業の意義
(4) 指導者調査 ＜放課後子供教室 ・土曜日の教育活動＞	1. 指導している「子供教室」及び「教育活動」の分野 2. 指導している「子供教室」及び「教育活動」の開催場所の地域特性 3. 「子供教室」及び「教育活動」開催場所・施設 4. 「子供教室」及び「教育活動」を知ったきっかけ 5. 参加している子供の人数（学年別） 6. 指導者の人数 7. 「子供教室」及び「教育活動」に参加したことによる子供の变化（指導者の認識） 8. 指導者からみた「子供教室」及び「教育活動」の社会における役割 9. 指導するなかで感じていること 10. 指導者の年齢 11. 指導者の性別 12. 指導者の「子供教室」及び「教育活動」での役割 13. 指導者の「子供教室」及び「教育活動」等での指導経験年数 14. 指導者からみた「子供教室」及び「教育活動」の意義 15. 「子供教室」及び「教育活動」と「伝統文化親子教室事業」との連携効果

3-3. 調査対象者の抽出法

◆調査対象者の抽出：親子教室実施団体を基礎に抽出

【第1段階】親子教室実施団体の抽出

- 抽出の母体の設定： 採択された平成26年度親子教室実施団体のうち、事業の完了日が平成26年12月26日以降であり、事業の実施回数が（複数分野にまたがる場合は合計）5回以上、且つ小学4年生～中学3年生が参加する実施団体から250団体を抽出（「放課後子供教室」及び「土曜日の教育活動」にも参加する団体を考慮し抽出）
- 抽出法：無作為抽出を基本とし、都道府県及び活動分野等が偏らないよう調整

【第2段階】第1段階で抽出した親子教室実施団体から調査対象者を抽出

- (1) 子供調査：当該教室に参加している子供（小学4年生～中学3年生）から10名までを抽出
 - ・抽出は当該教室に一任（特定の学年や性別に集中しないように依頼）
 - ・10名×250団体＝2,500名
- (2) 保護者調査：子供調査の対象となった子供の保護者（1団体あたり10名まで）
 - ・集計に際しては、子供とのマッチングは図らない
 - ・10名×250団体＝2,500名
- (3) 指導者調査：当該教室の指導者から2名までを抽出
 - ・抽出は、当該教室に一任
 - ・2名×250団体＝500名
- (4) 指導者調査＜放課後子供教室・土曜日の教育活動＞
 - ：当該の子供教室・教育活動の指導者から2名までを抽出
 - ・抽出は、当該教室に一任
 - ・2名×250団体＝500名

3-4. 調査票（質問紙）

- ・調査票の素案を作成し、『調査研究委員会』において検討
- ・調査票確認のため調査研究委員会委員から助言を仰ぐ
- ・各調査票は別添のとおり

3-5. 調査系統と調査の方法

- ・伝統文化親子教室事業 事務局から調査対象団体の代表者に調査を依頼
 - [内容物] 依頼文書（別添のとおり）
 - 子供調査・調査票 10部
 - 保護者調査・調査票 10部
 - 指導者調査・調査票 2部
 - 指導者調査＜放課後子供教室・土曜日の教育活動＞・調査票 2部
 - 返信用封筒 1部
- ・回答依頼・調査票の回収
 - (1) 子供調査：教室開催時に調査対象の子供に記入を依頼 → 回収
 - (2) 保護者調査：子供を通して記入を依頼 → 子供を通して回収
 - (3) 指導者調査：指導者が記入
 - (4) 指導者調査＜放課後子供教室・土曜日の教育活動＞：指導者が記入
- ・調査対象団体において（1）～（4）の調査票を取りまとめ、各調査票に「団体コード」を記入
- ・調査対象団体の代表者は、回収した調査票を返信用封筒に封入し提出

3-6. 調査票の作成実務及び検票作業・データの入力・集計作業

◆作業の役割分担

- ・ 調査票の作成実務 : 素案の作成 → イベント&コンベンションハウス
確認・助言 → 調査研究委員会
- ・ 調査票検票作業 : イベント&コンベンションハウス
- ・ データの入力 : イベント&コンベンションハウス
- ・ データの集計・分析 : 素案の作成 → イベント&コンベンションハウス
確認・助言 → 調査研究委員会

3-7. 集計計画及び結果報告の方針

◆集計計画

調 査	集 計 計 画
(1) 子供調査	単純集計 クロス集計：子供の学年別、子供の性別、教室の分野別、他
(2) 保護者調査	単純集計 クロス集計：子供の学年別、子供の性別、教室の分野別、他
(3) 指導者調査	単純集計 クロス集計：教室の分野別、指導者の年齢別、指導者の性別、他
(4) 指導者調査 <small><放課後子供教室・土曜日の教育活動></small>	単純集計 クロス集計：教室の分野別、指導者の年齢別、指導者の性別、他

◆結果報告の方針

- ・ 方針：単純集計結果を中心に報告、クロス集計結果で補足
図表中心（可能な限り、グラフ化）、結果について短く解説

3-8. スケジュール

- ・ 調査計画の立案 : 9月
- ・ 調査計画／調査票の素案検討 : 9月～12月中旬 第1回調査研究委員会
- ・ 調査対象の抽出・選定・確定 : 11月下旬～12月上旬
- ・ 調査計画／調査票の確定 : 12月中旬
- ・ 調査票の印刷 : 12月中旬～下旬
- ・ 調査票の発送・調査の依頼 : 12月下旬
- ・ 調査の実施 : 12月下旬～1月下旬
- ・ 調査票の回収期限 : 1月30日 ※回収済から順次、検票・入力
- ・ 調査票の検票・データ入力の完了 : 2月中旬
- ・ データクリーニング・集計 : 2月中旬～2月下旬
- ・ 集計結果アウトプット完了 : 2月下旬
- ・ 集計結果の分析、報告書草案検討 : 2月下旬～3月上旬 第2回調査研究委員会

- ・ 報告書執筆 : 2月下旬～3月上旬
- ・ 報告書原稿脱稿 : 3月中旬
- ・ 報告書編集 : 3月中旬～3月下旬
- ・ 報告書文化庁提出 : 3月下旬

4. 伝統文化親子教室調査研究委員会の設置・委員会の開催

(1) 委員会の設置

伝統文化親子教室の事業成果に関する調査研究を行うため、「伝統文化親子教室調査研究委員会」をイベント&コンベンションハウスに置く

(2) 委員名簿

<委員長>	佐々木 正直	群馬県立館林美術館長
	飯 田 浩之	筑波大学大学院人間総合研究科准教授
	石 井 久雄	明治学院大学文学部教授
	菊 池 健策	元文化庁文化財部伝統文化課 主任文化財調査官
	星 野 紘	東京文化財研究所名誉研究員

(3) 委員会の開催

- ◆委員の委嘱 平成26年11月～12月
- ◆第1回委員会 平成26年12月 ※調査計画／調査票の素案検討
- ◆第2回委員会 平成27年3月上旬 ※集計結果の分析、報告書草案検討

平成26年12月26日

伝統文化親子教室実施団体

代 表 者 殿

伝統文化親子教室事業 事務局

「伝統文化親子教室 子供たちの意識・行動に関する調査」の
実施について（依頼）

謹啓 時下、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

平成26年度伝統文化親子教室につきましては、計画に沿ってお進めいただいておりますことと存じます。親子教室事業の目的達成に向けてのご尽力に感謝申し上げます。

さて、当事務局は、今年度、文化庁から「伝統文化親子教室事業」業務を委託され、このたび、「伝統文化親子教室 子供たちの意識・行動に関する調査」を実施することになりました。この調査のねらいは、伝統文化親子教室事業を通じて子供たちが計画的・継続的に伝統文化を体験・修得したことで、子供たちの伝統文化への意識や行動がどのように変化したかを調査し、親子教室の実施成果を把握することです。調査の対象は、教室に参加されている「子供」とその「保護者」、そして教室の「指導者」の3者であり、調査の実施については、平成26年度伝統文化親子教室実施団体の中から約250団体を無作為に抽出させていただき、調査票の配布・回収にご協力をいただくことにいたしました。

目下、このような計画にて調査を進めておりますが、このたび、調査にご協力いただく団体を抽出しましたところ、貴団体が、協力団体としてリストにあがってまいりました。

ご協力をいただきたいことは、「別紙」に記させていただいております。詳細は、そちらをご参照いただきたく存じますが、「子供」「保護者」「指導者」のそれぞれに調査票を配布し、記入をお願いさせていただき、その後、これらを回収、取りまとめの上、ご返送いただきたいということが概略でございます。返送の期限は、平成27年1月30日（金）までとしております。なお、回収された調査票は集計し、報告書にまとめることとしております。

貴殿におかれましては、伝統文化親子教室の実施にご尽力いただいているところ、ご面倒な調査をお願いし申し訳ございませんが、この調査の趣旨にご理解を賜り、調査の実施にご協力くださるようお願い申し上げます。

<お問い合わせ先>

伝統文化親子教室事業 事務局

(近畿日本ツーリストグループ 株式会社 KNT ビジネスクリエイト内)

〒160-0023 東京都新宿区西新宿 8-14-24 西新宿 KF ビル 3 階

TEL : 03-6730-3348 FAX : 03-6730-6029 E-mail : oyakokyoshitsu@gp.knt.co.jp

[お問い合わせ対応時間 平日 10 : 00~17 : 00]

別紙

「親子教室」の代表者の方にご協力いただきたいこと

1. 調査の種類

- ① 親子教室に参加している子供にお願いする質問紙調査（「子供調査」）
- ② 親子教室に子供を参加させている保護者にお願いする質問紙調査（「保護者調査」）
- ③ 親子教室の指導者にお願いする質問紙調査（「指導者調査」）

2. 調査対象者の抽出

① 「子供調査」

親子教室に参加している子供の中から、小学校4年生から中学校3年生までの子供10名までを選んでください。子供を選ぶときは、特定の学年や性別に集中しないようにしてください。

※参加している子供が、特定の学年や性別に偏っている場合は、その中から10名までを選んでください。

② 「保護者調査」

「子供調査」の対象となった子供の保護者（10名）にお願いしてください。

③ 「指導者調査」

親子教室の指導者の中から2名までを選んでください。

※指導者が1名の場合は、1名のみで結構です。

3. 調査の流れ（調査票の配布・回収・提出）

(1) 調査対象の「親子教室」の代表者あてに調査を依頼します。

以下4点の資料をお送りします。

- ・「子供調査・調査票」 10部
- ・「保護者調査・調査票」 10部
- ・「指導者調査・調査票」 2部
- ・返信用封筒 1部

(2) 「親子教室」の代表者は、それぞれの調査票を配布し、記入をお願いしてください。そして記入の終わった調査票を回収してください。

※複数の団体により構成された実行委員会の場合、実行委員会から各構成団体へ配布してください。

①「子供調査」

教室開催時などに、調査対象の子供に「子供調査・調査票」の記入をお願いし、調査票を回収してください。

②「保護者調査」

「子供調査」の調査対象となった子供に、「保護者調査・調査票」を持たせて保護者に記入をお願いし、子供を通して調査票を回収してください。

③「指導者調査」

指導者に「指導者調査・調査票」の記入をお願いし、調査票を回収してください。

(3)「親子教室」の代表者は、調査票回収後に、当事務局からの通知等に記されている「団体コード」を、すべての調査票に記入してください。

(4)「親子教室」の代表者は、回収した調査票を取りまとめて、同封の返信用封筒を用いて、平成27年1月30日（金）までに、返送してください。

平成26年12月26日

伝統文化親子教室実施団体

代 表 者 殿

伝統文化親子教室事業 事務局

「伝統文化親子教室 子供たちの意識・行動に関する調査」の
実施について（依頼）

謹啓 時下、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

平成26年度伝統文化親子教室につきましては、計画に沿ってお進めいただいておりますことと存じます。親子教室事業の目的達成に向けてのご尽力に感謝申し上げます。

さて、当事務局は、今年度、文化庁から「伝統文化親子教室事業」業務を委託され、このたび、「伝統文化親子教室 子供たちの意識・行動に関する調査」を実施することになりました。この調査のねらいは、伝統文化親子教室事業を通じて子供たちが計画的・継続的に伝統文化を体験・修得したことで、子供たちの伝統文化への意識や行動がどのように変化したかを調査し、親子教室の実施成果を把握することです。調査の対象は、教室に参加されている「子供」とその「保護者」、そして教室の「指導者」の3者であり、調査の実施については、平成26年度伝統文化親子教室実施団体の中から約250団体を無作為に抽出させていただき、調査票の配布・回収にご協力をいただくことにいたしました。

目下、このような計画にて調査を進めておりますが、このたび、調査にご協力いただく団体を抽出しましたところ、貴団体が、協力団体としてリストにあがってまいりました。

ご協力をいただきたいことは、「別紙」に記させていただいております。詳細は、そちらをご参照いただきたく存じますが、「子供」「保護者」「指導者」のそれぞれに調査票を配布し、記入をお願いしていただき、その後、これらを回収、取りまとめの上、ご返送いただきたいということが概略でございます。返送の期限は、平成27年1月30日（金）までとしております。なお、回収された調査票は集計し、報告書にまとめることとしております。

また、「放課後子供教室」及び「土曜日の教育活動」と連携した取組を実施している場合は、同様に「指導者」の方に調査票の配布、記入をお願いしていただき、回収、取りまとめの上、ご返送をお願い申し上げます。返送の期限は、平成27年1月30日（金）までとしております。

貴殿におかれましては、伝統文化親子教室の実施にご尽力いただいているところ、ご面倒な調査をお願いし申し訳ございませんが、この調査の趣旨にご理解を賜り、調査の実施にご協力くださるようお願い申し上げます。

<お問い合わせ先>

伝統文化親子教室事業 事務局

(近畿日本ツーリストグループ 株式会社 KNT ビジネスクリエイト内)

〒160-0023 東京都新宿区西新宿 8-14-24 西新宿 KF ビル 3 階

TEL : 03-6730-3348 FAX : 03-6730-6029 E-mail : oyakokyoshitsu@gp.knt.co.jp

[お問い合わせ対応時間 平日 10:00~17:00]

別紙

「親子教室」の代表者の方にご協力いただきたいこと

1. 調査の種類

- ① 親子教室に参加している子供にお願いする質問紙調査（「子供調査」）
- ② 親子教室に子供を参加させている保護者にお願いする質問紙調査（「保護者調査」）
- ③ 親子教室の指導者にお願いする質問紙調査（「指導者調査」）
- ④ 「放課後子供教室」及び「土曜日の教育活動」と連携した取組における指導者にお願いする質問紙調査（「指導者調査＜放課後子供教室・土曜日の教育活動＞」）

2. 調査対象者の抽出

① 「子供調査」

親子教室に参加している子供の中から、小学校4年生から中学校3年生までの子供10名までを選んでください。子供を選ぶときは、特定の学年や性別に集中しないようにしてください。

※参加している子供が、特定の学年や性別に偏っている場合は、その中から10名までを選んでください。

② 「保護者調査」

「子供調査」の対象となった子供の保護者（10名）にお願いしてください。

③ 「指導者調査」

親子教室の指導者の中から2名までを選んでください。

※指導者が1名の場合は、1名のみで結構です。

④ 「指導者調査＜放課後子供教室・土曜日の教育活動＞」

上記③と同様に、指導者の中から2名までを選んでください。

※指導者が1名の場合は、1名のみで結構です。

3. 調査の流れ（調査票の配布・回収・提出）

(1) 調査対象の「親子教室」の代表者あてに調査を依頼します。

以下5点の資料をお送りします。

- ・「子供調査・調査票」 10部
- ・「保護者調査・調査票」 10部
- ・「指導者調査・調査票」 2部
- ・「指導者調査＜放課後子供教室・土曜日の教育活動＞・調査票」 2部
- ・返信用封筒 1部

(2) 「親子教室」の代表者は、それぞれの調査票を配布し、記入をお願いしてください。そして記入の終わった調査票を回収してください。

※複数の団体により構成された実行委員会の場合、実行委員会から各構成団体へ配布してください。

① 「子供調査」

教室開催時などに、調査対象の子供に「子供調査・調査票」の記入をお願いし、調査票を回収してください。

② 「保護者調査」

「子供調査」の調査対象となった子供に、「保護者調査・調査票」を持たせて保護者に記入をお願いし、子供を通して調査票を回収してください。

③ 「指導者調査」

指導者に「指導者調査・調査票」の記入をお願いし、調査票を回収してください。

④ 「指導者調査＜放課後子供教室・土曜日の教育活動＞」

上記③と同様に、「指導者調査＜放課後子供教室・土曜日の教育活動＞・調査票」の記入をお願いし、調査票を回収してください。

(3) 「親子教室」の代表者は、調査票回収後に、当事務局からの通知等に記されている「団体コード」を、すべての調査票に記入してください。

(4) 「親子教室」の代表者は、回収した調査票を取りまとめて、同封の返信用封筒を用いて、平成27年1月30日（金）までに、返送してください。